

地区委員会活動の事例調査に関する
報告書

平成 30 年 8 月

東京都

青少年・治安対策本部

目 次

第1章 調査の概要

1	調査目的	3
2	調査内容	3
3	調査方法	3
4	調査対象	3
5	調査手順	3
6	調査の監修及び調査結果の分析	3
7	調査票回収数	4
8	報告書の見方	4

第2章 調査結果

1	平成29年度予算	7
2	収入内訳	8
3	委員会の構成人数	13
4	委員の兼務の役割	14
5	委員になる前に経験した役割	15
6	総会の回数	15
7	活動内容	16
8	研修会の回数	21
9	研修会のテーマ	22
10	協働・連携団体	23
11	地域のつながりやグループ	24
12	活動の周知方法	25
13	抱える課題	26
14	今後行いたい活動	35
15	主な活動	37
16	大学生等の参加	48
17	大学生等との連携・協力希望	49
18	外国人・高齢者・障がい者の参加	52
19	東京都青少年健全育成事業	55

第3章 調査のまとめ

- 1 地区委員会の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
- 2 監修者による分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

第4章 事例集

- ① 様々な人や団体の協力がある等、新しい担い手についての課題に関して参考になる取組

渋谷区青少年対策新橋地区委員会
事例 No.1 「サマーキャンプ」・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

八王子市青少年対策上柚木地区委員会
事例 No.2 「上柚木夏祭り」・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

新宿区早稲田地区青少年育成委員会
事例 No.3 「牛込二中えんにち」・・・・・・・・・・・・ 69

東村山市青少年対策第七地区委員会
事例 No.4 「西武園ゆうえんち 1 日レク」・・・・・・・・ 70

練馬区青少年育成第六地区委員会
事例 No.5 「七夕会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

- ② 様々な参加者がいて、参加者同士の交流が図られている等、イベントへの参加者という課題に関して参考になる取組

日野市三沢中地区青少年育成会
事例 No.6 「小中交流会」・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

立川市青少年健全育成若葉町地区委員会
事例 No.7 「青少健プール」・・・・・・・・・・・・・・ 73

武蔵野市青少協第三地区委員会
事例 No.8 「ジャンボリー」・・・・・・・・・・・・・・ 74

東大和市青少年対策第十地区委員会
事例 No.9 「スポーツ交流会」・・・・・・・・・・・・・・ 75

葛飾区青少年育成柴又地区委員会
事例 No.10 「柴又地区フェスティバル」・・・・・・・・ 76

北区青少年昭和町地区委員会
事例 No.11 「田植え・稲刈り体験」・・・・・・・・・・・・ 77

- ③ 目新しい要素が含まれている等、新たな取組を行う上で参考になる取組

西東京市芝久保こぶしの会
事例 No.12 「じゃが芋掘り、防災訓練」・・・・・・・・ 78

羽村市青少年対策栄小地区委員会
事例 No.13 「鮭の稚魚の放流」・・・・・・・・・・・・ 79

台東区青少年育成清川地区委員会 事例 No.1 4 「親子でクッキング」	80
狛江市青少年第四育成委員会 事例 No.1 5 「四育ドミノチャレンジ」	81
江東区青少年対策豊洲地区委員会 事例 No.1 6 「パネルディスカッション」	82
世田谷区青少年用賀地区委員会 事例 No.1 7 「ふれあいラリーまつり」	83
足立区青少年対策第 11 地区委員会 事例 No.1 8 「タウンクリーンウォーク」	84
大田区青少年対策羽田地区委員会 事例 No.1 9 「第 9 回大田スポGOM I 大会」	85
世田谷区青少年烏山地区委員会 事例 No.2 0 「中学生のつどい」	86

第 5 章 参考資料

地区委員会活動の事例調査 調査票	89
------------------	----

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

地域社会において、少子高齢化や核家族化が進み、青少年が日常的に地域の大人とふれあう機会が減少している中、青少年の健全育成を図る上で地区委員会には大変重要な役割を担っていただいています。また、グローバル化等の進展により、青少年を取り巻く環境が大きく変化する中では、今後ますます、その活動に寄せられる期待は大きくなっているところです。

そこで、東京都では、都内全地区委員会を対象に、地区委員会の皆様の活動状況や課題をお伺いして、今後の効果的な支援施策に繋げていくことと、当調査結果を情報提供し、今後の活動の参考としていただくことを目的として調査を行いました。

2 調査内容

- ◆ 地域での活動について
- ◆ ダイバーシティ（多文化、障がい者、高齢者の理解など多様性の尊重・受容）の意識等について

3 調査方法

- ◆ 調査方法：郵送調査・回収法
- ◆ 調査機関：株式会社インターネット

4 調査対象

都内全地区委員会：717（平成29年4月1日現在）

5 調査手順

- ①都内57区市町村青少年行政主管課宛てに調査票を郵送し、各地区委員会に調査票を展開していただきました。
- ②地区委員会の中で、活動内容を決めたり、参加者をとりまとめたりするなど、中心的に活動している方に記入をお願いしました。
- ③各地区委員会からの調査票の返信期限は、6月30日（土）としました。
- ④回収後の調査票から20事例を抽出（第4章参照）し、電話またはメールにて聞き取り調査を行いました。

6 調査の監修及び調査結果の分析

文京学院大学 人間学部 コミュニケーション社会学科 助教
古市 太郎

7 調査票回収数

表 1

調査票発送数と回収数は下記のとおりです。

< 区部 >

発送数：337 部

回収数：242 部

< 市部 >

発送数：334 部

回収数：184 部

< 町村部（西多摩郡及び島しょ部） >

発送数：46 部

回収数：23 部

< 全体 >

発送数：717 部

回収数：449 部

回収率：62.6%

8 報告書の見方

- ◆ 報告書中の「n」は、各設問に対する回答者の総数です。
- ◆ 報告書中の（％）は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しているため、％を足し合わせても100％にならない場合があります。

会の所在地	発送数	回収数
千代田区	4	4
中央区	19	9
港区	10	4
新宿区	10	6
文京区	9	8
台東区	11	11
墨田区	10	7
江東区	9	8
品川区	13	11
目黒区	22	8
大田区	18	17
世田谷区	28	22
渋谷区	11	9
中野区	14	9
杉並区	17	12
豊島区	12	4
北区	19	13
荒川区	5	4
板橋区	18	11
練馬区	17	17
足立区	25	25
葛飾区	19	15
江戸川区	17	8
区部計	337	242
八王子市	37	25
立川市	12	8
武蔵野市	12	7
三鷹市	15	6
青梅市	11	7
府中市	11	11
昭島市	13	7
調布市	20	8
町田市	24	18
小金井市	6	2
小平市	19	7
日野市	8	5
東村山市	7	5
国分寺市	5	3
国立市	8	6
福生市	31	15
狛江市	4	4
東大和市	10	7
清瀬市	5	2
東久留米市	7	6
武蔵村山市	9	2
多摩市	15	11
稲城市	10	1
羽村市	7	3
あきる野市	10	4
西東京市	18	4
市部計	334	184
瑞穂町	6	2
日の出町	2	1
奥多摩町	16	6
西多摩郡計	24	9
大島町	7	7
新島村	1	
神津島村	1	1
三宅村	5	
八丈町	8	6
島しょ部計	22	14
総計	717	449

第2章 調査結果

1 平成29年度予算

問2

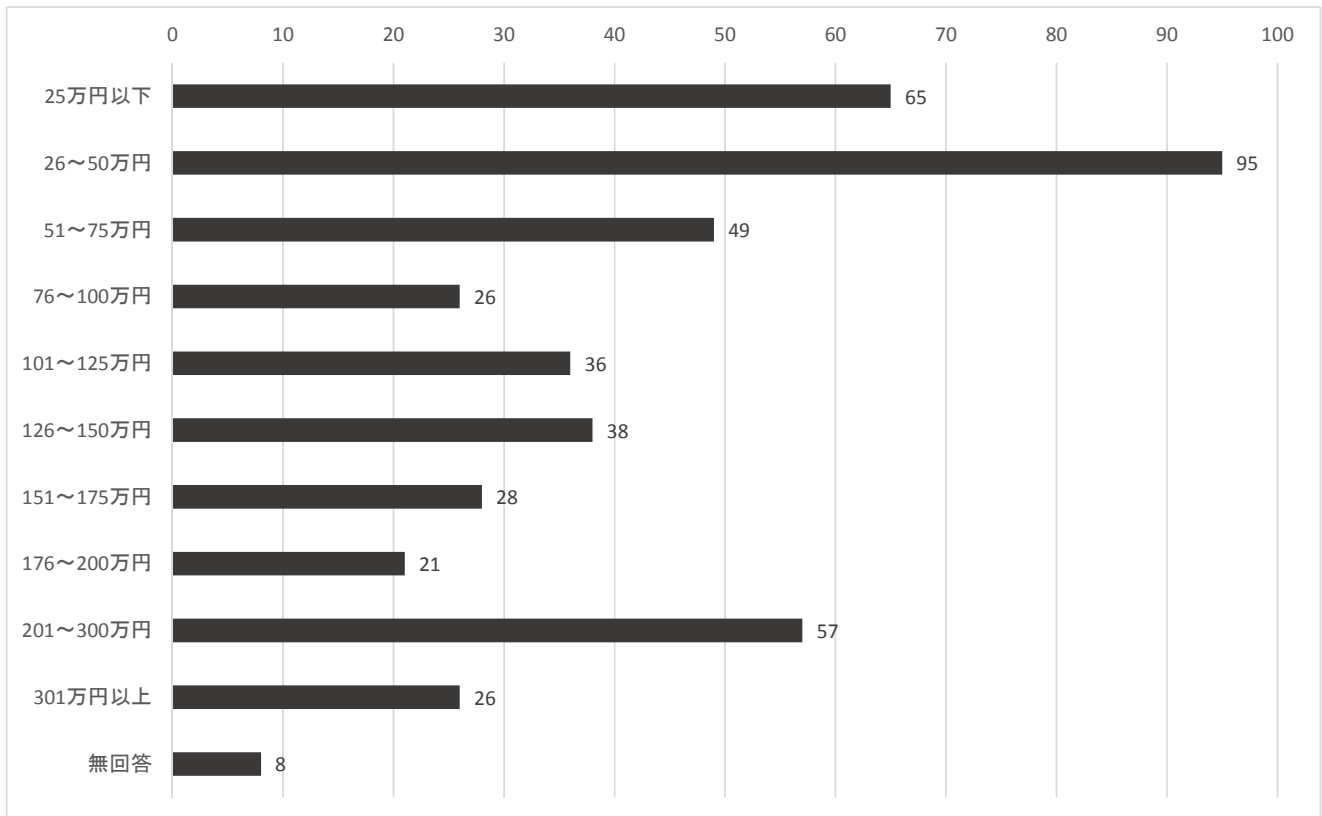
貴委員会の平成29年度予算について、() の中に記入してお答えください。

●委員会の平成29年度予算は、「26～50万円以下」(95件)が最も多く、次いで「25万円以下」(65件)、「201～300万円」(57件)となっています。

約50%の委員会が100万円以下の予算で活動していることがわかります。

図2 年間予算額

n=449



2 収入内訳

問 3

貴委員会の主な収入は、どのようなものですか。収入の種類ごとに平成29年度予算に占めるおおよその割合を（ ）の中に記入してお答え下さい。

●委員会の収入は「補助金・公費・委託費」（60.6％）が最も高く、次いで「会費・参加費」（21.7％）、「寄附・協賛金など」（15.4％）となっています。

区市町村別にみると、「補助金・公費・委託費」の割合は、区部、市部、町村部となるにつれてその割合が高くなっています（区部：58.6％、市部：69.7％、町村部：85.3％）。

図 3-1 収入内訳（全体/区・市・町村別）

n=439（区部 237・市部 180・町村部 22）

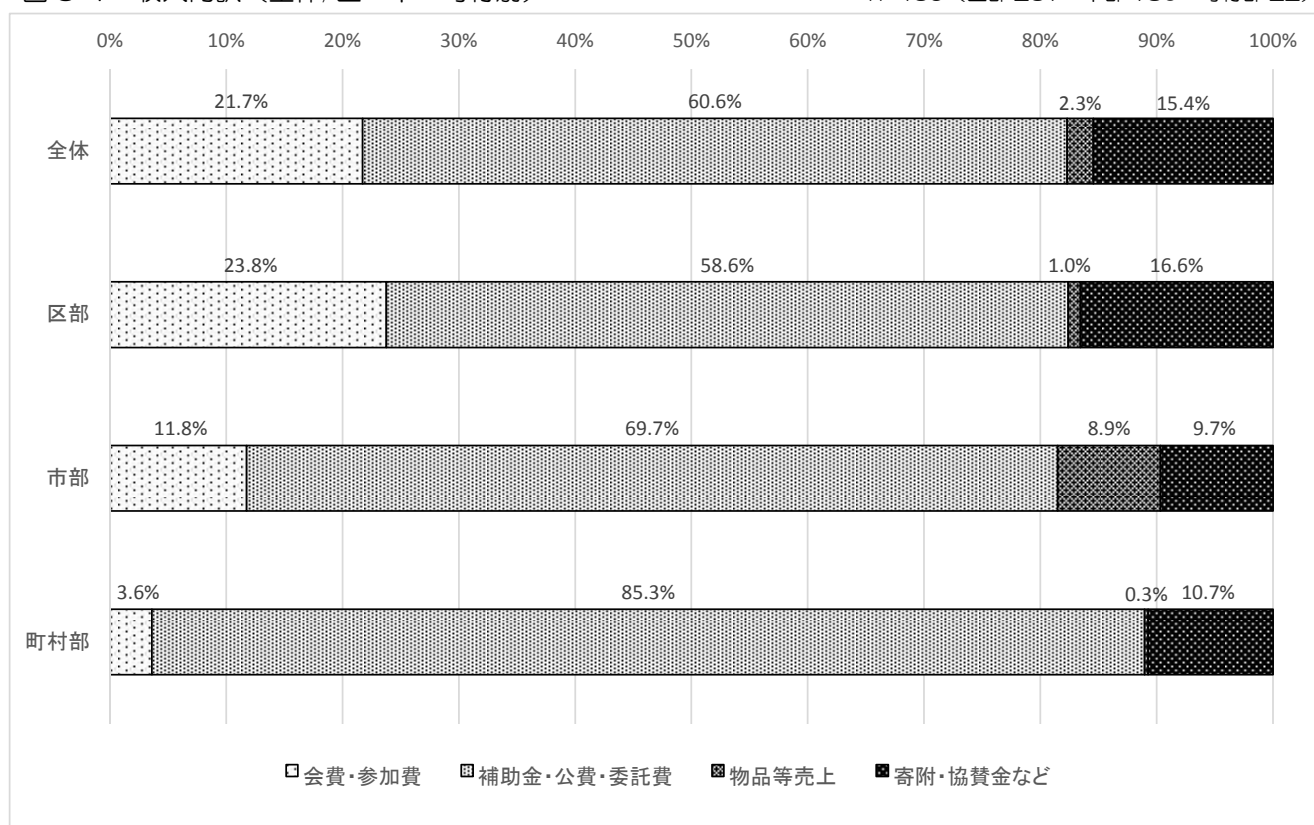


図 3-1 のグラフは、問 2 の金額に各収入の割合を乗じたものをそれぞれ合計し、全体の合計から割合を算出したものです。

図 3-2-1 収入内訳（全体/会費・参加費）

n=439

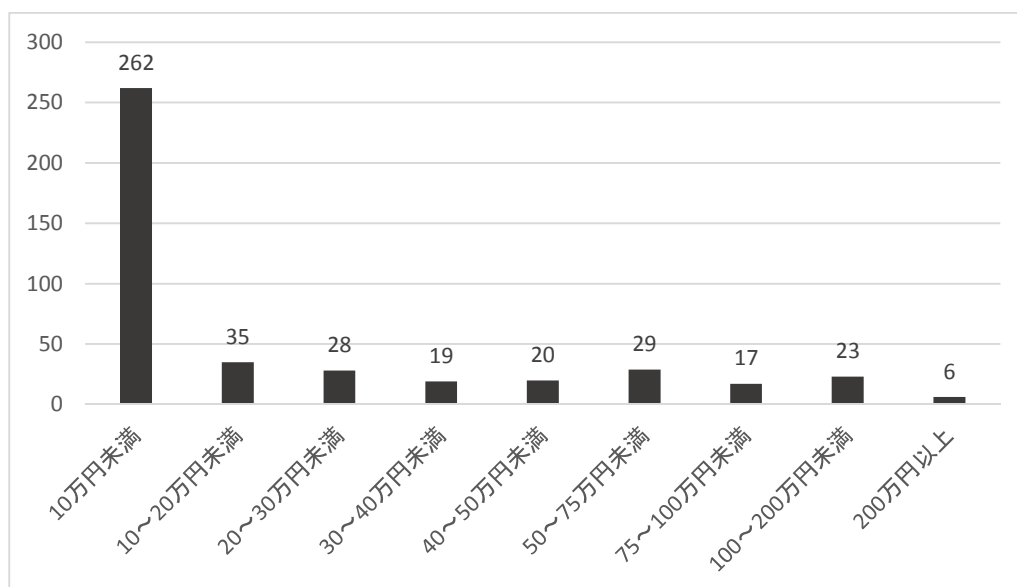


図 3-2-2

n=237

収入内訳
（区部/会費・参加費）

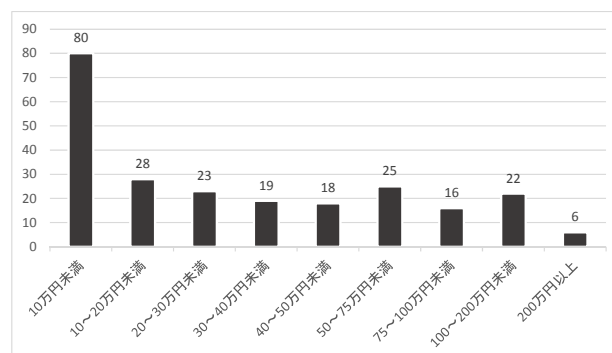


図 3-2-3

n=180

収入内訳
（市部/会費・参加費）

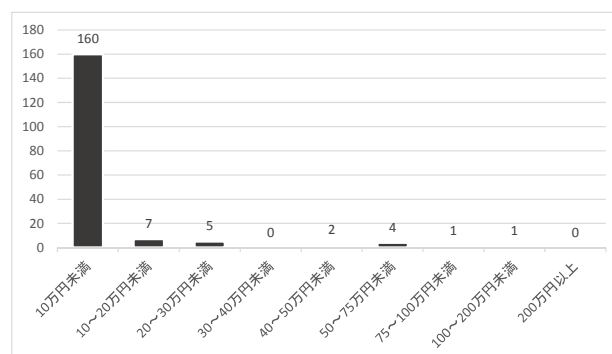


図 3-2-4

n=22

収入内訳
（町村部/会費・参加費）

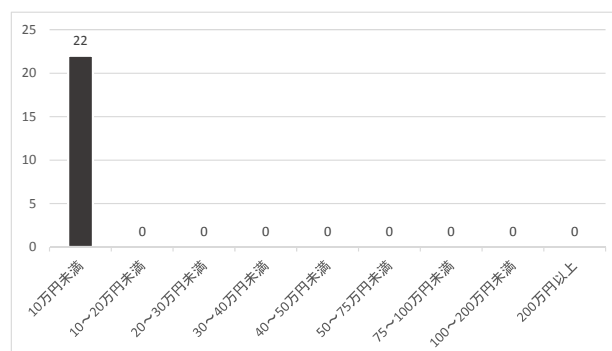


図 3-3-1 収入内訳（全体/補助金・公費・委託費）

n=439

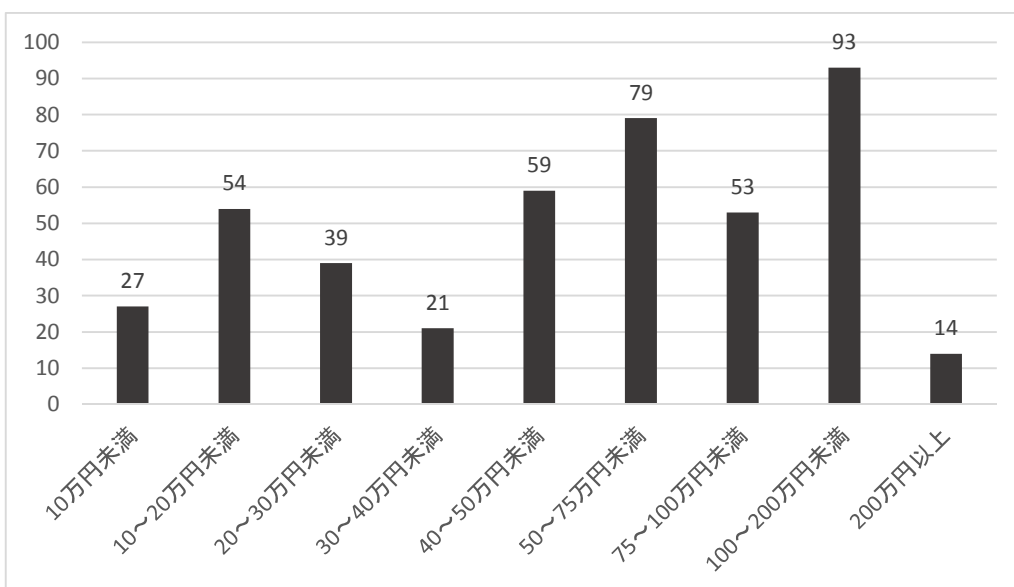


図 3-3-2

n=237

収入内訳
（区部/補助金・公費・委託費）

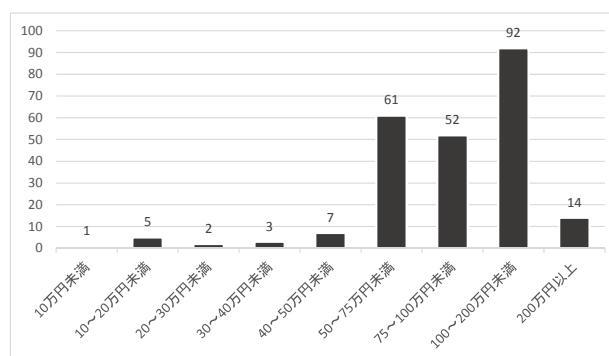


図 3-3-3

n=180

収入内訳
（市部/補助金・公費・委託費）

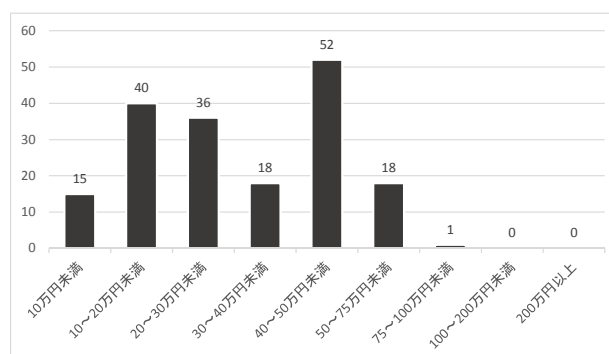


図 3-3-4

n=22

収入内訳
（町村部/補助金・公費・委託費）

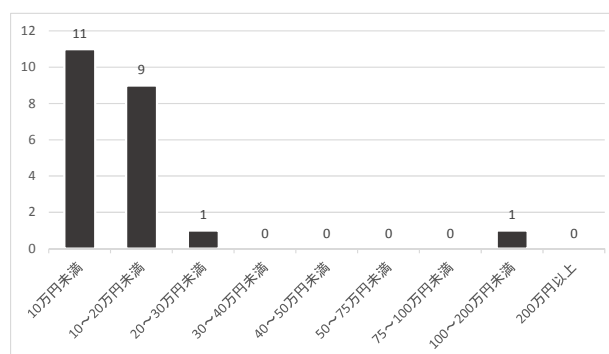


図 3-4-1 収入内訳（全体/物品等売上）

n=439

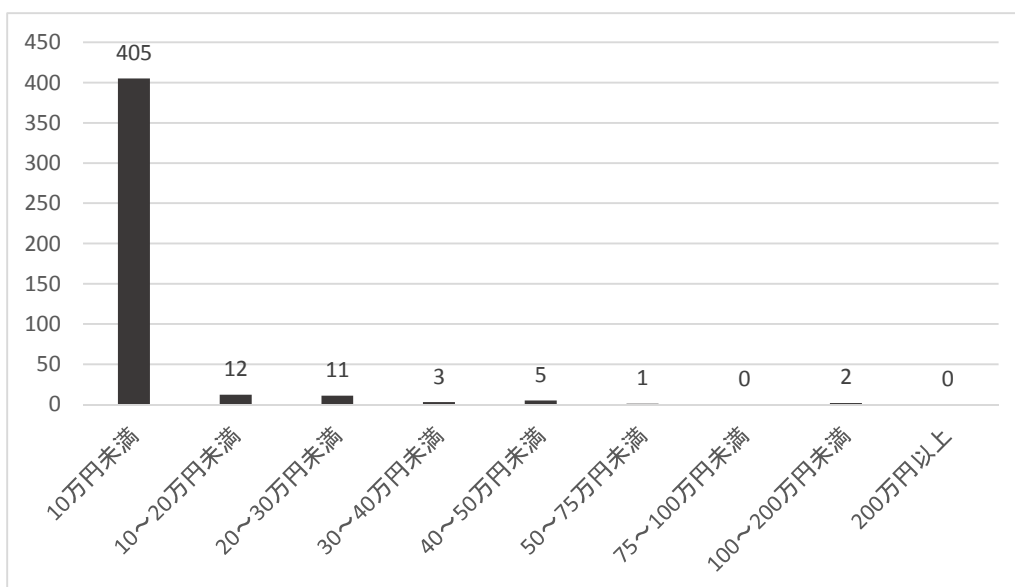


図 3-4-2

n=237

収入内訳
(区部/物品等売上)

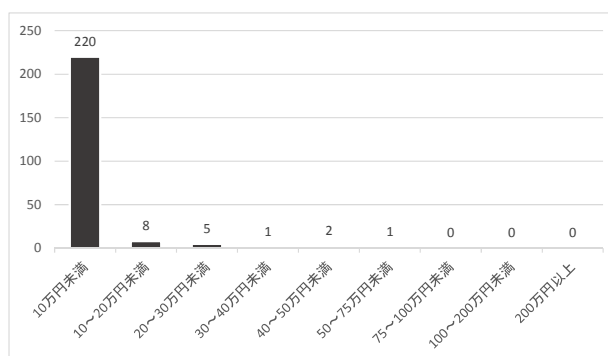


図 3-4-3

n=180

収入内訳
(市部/物品等売上)

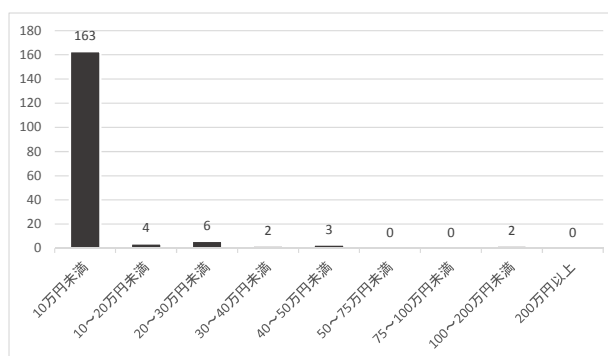


図 3-4-4

n=22

収入内訳
(町村部/物品等売上)

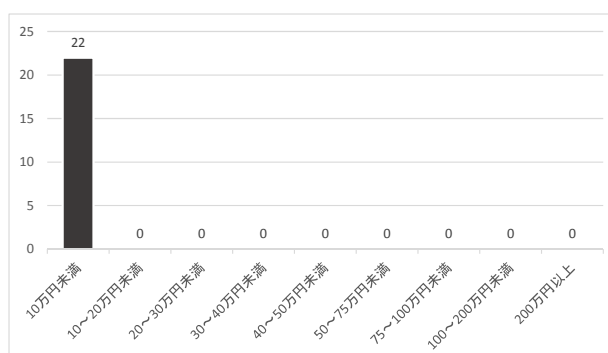


図 3-5-1 収入内訳（全体/寄附・協賛金など）

n=439

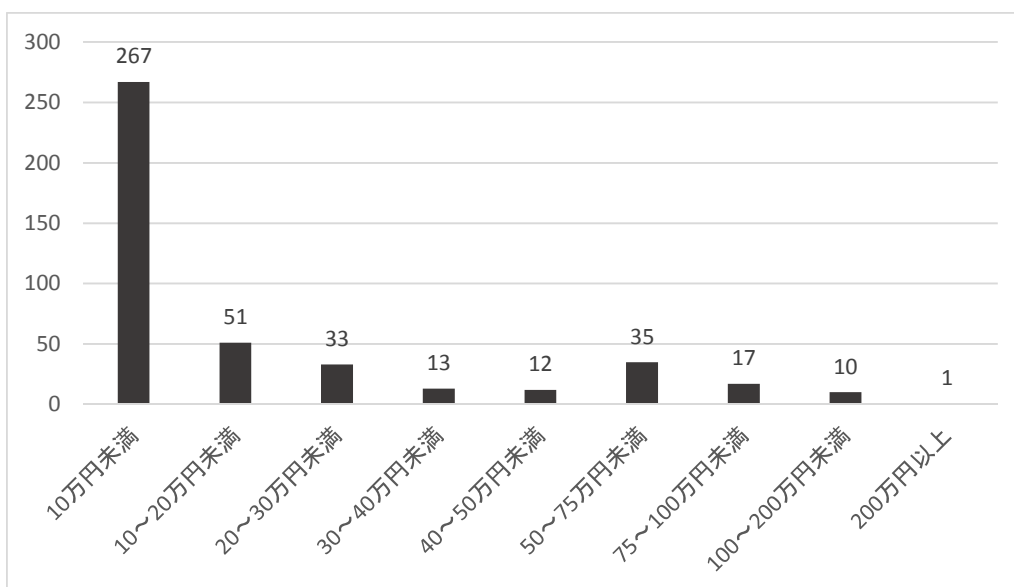


図 3-5-2

n=237

収入内訳
（区部/寄附・協賛金など）

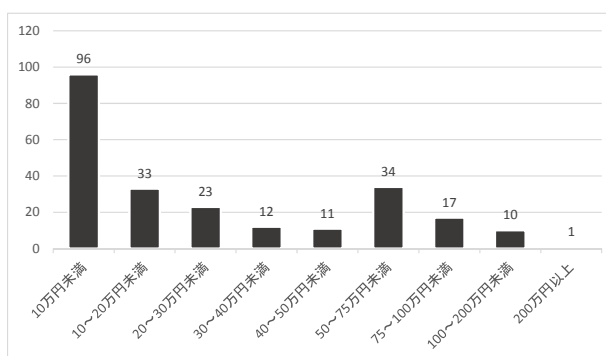


図 3-5-3

n=180

収入内訳
（市部/寄附・協賛金など）

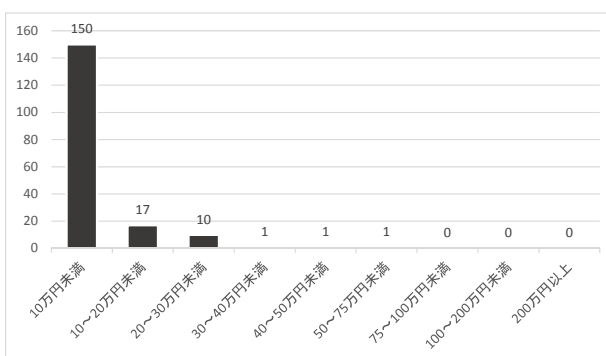
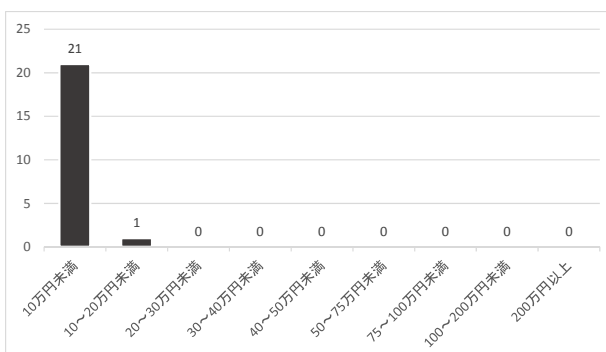


図 3-5-4

n=22

収入内訳
（町村部/寄附・協賛金など）



3 委員会の構成人数

問4

貴委員会の平成29年4月1日現在における構成人数を、()の中に記入してお答えください。

●委員会の構成人数は、「51～75人」(144件)が最も多く、次いで「26～50人」(123件)、「76人以上」(121件)となっています。委員会の構成人数の平均は65人となっています。

構成人数の内訳としては、区市町村などからの委嘱を受けた「役員・理事など」と「その他委員」の平均の合計が36人、委嘱ではない「役員・理事など」と「その他委員」の平均の合計が29人となっており、委員会の中では委嘱を受けている人の割合が多いことがわかります。

図4-1 全体の構成人数

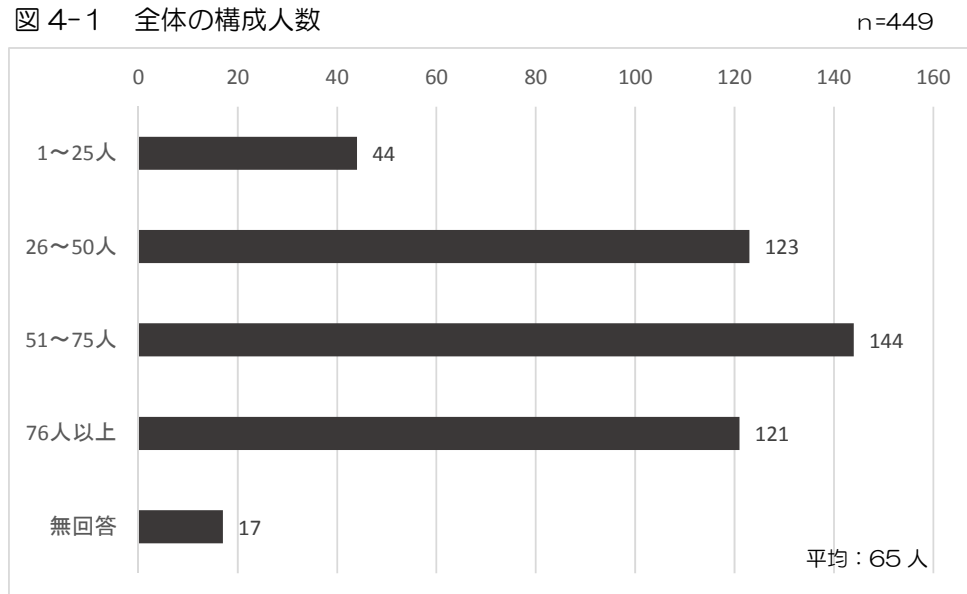


図4-2 構成人数（委嘱あり 役員・理事など）

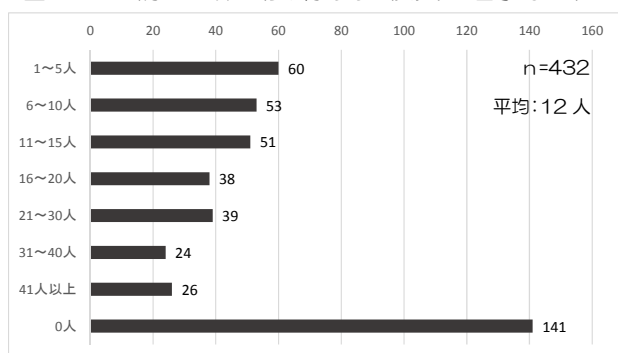


図4-3 構成人数（委嘱あり その他委員）

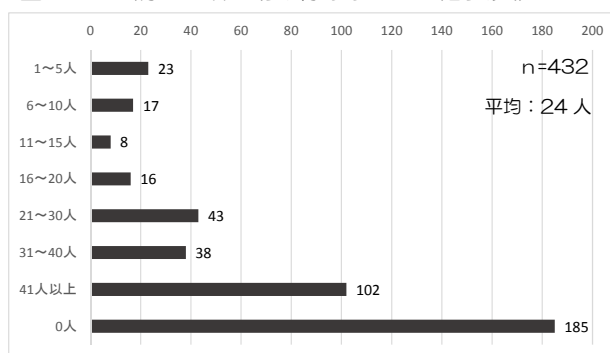


図4-4 構成人数（委嘱なし 役員・理事など）

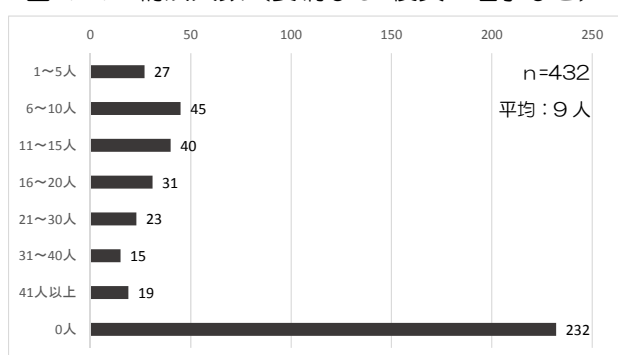
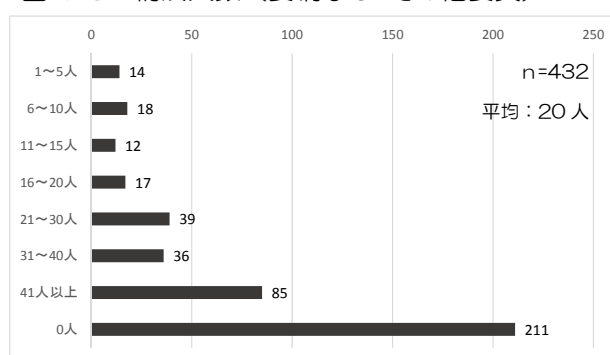


図4-5 構成人数（委嘱なし その他委員）



4 委員の兼務の役割

問5

貴委員会の委員が現在、兼務されている地域における役割が以下の中にございましたらお答えください（該当するものすべてに○をつけてください）。

●規定や慣例により、自動的に委員会の委員となった方（いわゆるあて職の方：A）としては、「地域の小・中学校のPTA役員」（355件）が最も多く、次いで「地域の小・中学校の教職員」（304件）、「町会、自治会代表」（283件）となっています。

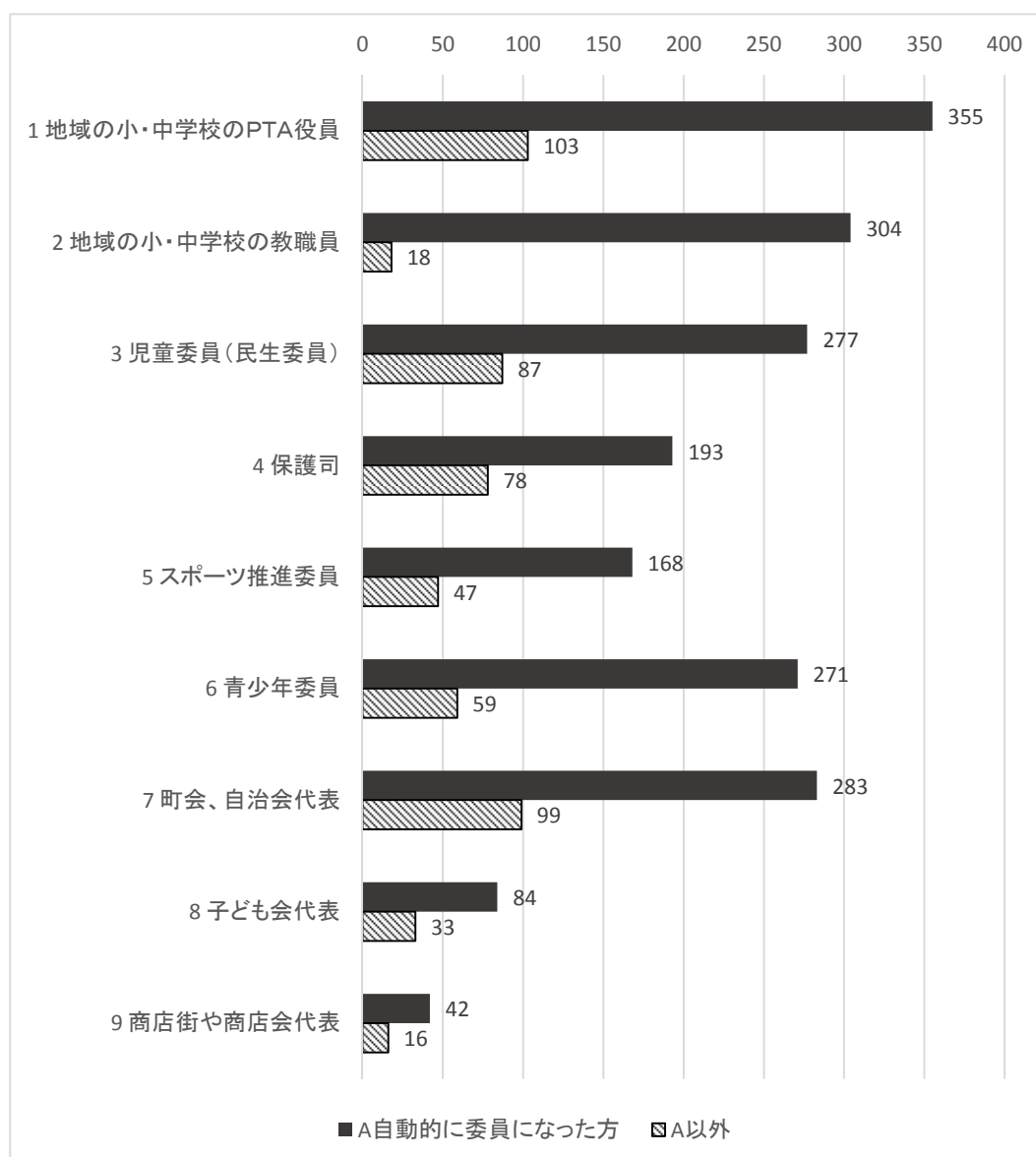
「地域の小・中学校のPTA役員」（約90%の委員会）、「地域の小・中学校の教職員」（約75%の委員会）といった学校関係の方が、規定や慣例により委員になっていることがわかります。

A（あて職）以外の方では、「地域の小・中学校のPTA役員」（103件）が最も多く、次いで「町会、自治会代表」（99件）、「児童委員（民生委員）」（87件）となりました。

地域の小・中学校のPTA役員と町会・自治会の役員の方々が積極的に委員会に関わっていることがわかります。

図5 委員会の委員が兼務されている役割（複数回答）

n=402

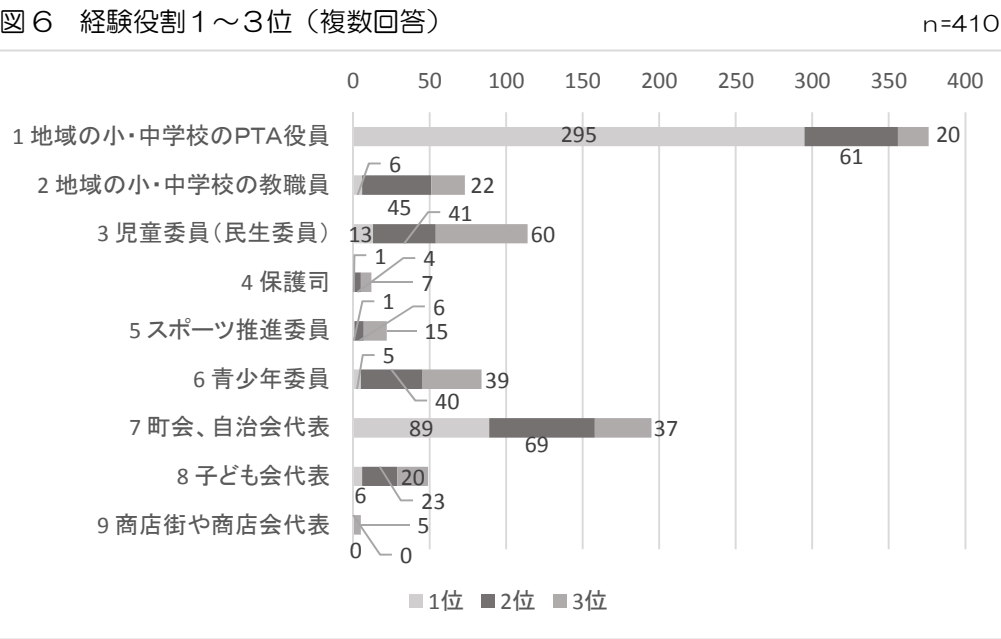


5 委員になる前に経験した役割

問6

貴委員会の委員が、委員になる前に経験された地域における役割は、どのようなものが多いですか。問5の表から多いものを3つ選び、以下の口番号をご記入いただくとともに、状況をお答えください。

●委員になる前に経験した地域における役割は、1位から3位までを合わせると、「地域の小・中学校のPTA役員」(376件)が最も多く、次いで「町会、自治会代表」(195件)、「児童委員(民生委員)」(114件)となっています。1位と回答したものの中では、「地域の小・中学校のPTA役員」(295件)、「町会、自治会代表」(89件)の順に多く、2位と回答したものの中では、「町会、自治会代表」(69件)、「地域の小・中学校のPTA役員」(61件)の順に多くっており、地域の実情に精通している役割の方々が多くなっています。



6 総会の回数

問7

平成29年度に実施した総会の回数を（ ）の中に記入してお答えください。

●平成29年度に実施した総会の回数は「1回」(348件)が最も多く、約80%の委員会において、年に1回総会を開いていることがわかります。

表7 総会の回数
n=438

回答	回答数	比率
0回	17	3.9%
1回	348	79.5%
2回	21	4.8%
3回	10	2.3%
4回	4	0.9%
5回	9	2.1%
6回	5	1.1%
7回	3	0.7%
8回	3	0.7%
9回	4	0.9%
10回	7	1.6%
11回	3	0.7%
12回	2	0.5%
20回	2	0.5%
総計	438	100.0%

7 活動内容

問8

平成 29 年度に貴委員会が実施された活動について、実施主体および今後の方向性をお答えください。

●委員会が実施した活動を多い順に見ると、全体では、「1 地域のまつり」(334 件)、「21 スポーツ」(282 件)、「10 見守りパトロール」(265 件)の順となっています。

これを主催した事業で多い順に見ると、「21 スポーツ」(237 件)、「10 見守りパトロール」(172 件)、「20 野外遊び」(152 件)、協力した事業で多い順に見ると、「1 地域のまつり」(220 件)、「2 区市町村民まつり」(152 件)、「9 防災訓練」(95 件)となっています。全体で約 70%の地区委員会で実施している「1 地域のまつり」は、協力で実施している場合が多く、次の「21 スポーツ」については、主催で実施している場合が多くなっています。

地域別でみると、区部においては全体で「21 スポーツ」(173 件)、「1 地域のまつり」(172 件)、「20 野外遊び」(129 件)が多くなっています。主催では「21 スポーツ」(154 件)、「20 野外遊び」(120 件)が多く、協力では「1 地域のまつり」(100 件)、「2 区市町村民まつり」(89 件)が多くなっています。

市部においては全体で「1 地域のまつり」(149 件)、「10 見守りパトロール」(146 件)が多く、主催では「10 見守りパトロール」(96 件)、「21 スポーツ」(77 件)、協力では「1 地域のまつり」(107 件)が多くなっています。

町村部においては、全体で「31 社会奉仕活動」(15 件)、「1 地域のまつり」(13 件)、「21 スポーツ」(11 件)の順に多く、主催では「31 社会奉仕活動」(10 件)、協力では「1 地域のまつり」(13 件)が多くなっています。

各委員会の予算額別で比較すると、予算額が 50 万円以下では、全体で「10 見守りパトロール」(125 件)、「1 地域のまつり」(120 件)が多く、主催では、「10 見守りパトロール」(83 件)、「21 スポーツ」(61 件)、「31 社会奉仕活動」(61 件)が多く、協力では「1 地域のまつり」(94 件)、「9 防災訓練」(54 件)が多くなっています。

予算額が「51 万円から 150 万円以下」では、全体では「1 地域のまつり」(115 件)、「21 スポーツ」(92 件)が多く、主催では、「21 スポーツ」(78 件)、「20 野外遊び」(58 件)、協力では「1 地域のまつり」(63 件)、「2 区市町村民まつり」(59 件)が多くなっています。

予算額が「151 万円以上」では、全体では「21 スポーツ」(104 件)、「1 地域のまつり」(91 件)が多く、主催では「21 スポーツ」(93 件)、「20 野外遊び」(68 件)、協力では「1 地域のまつり」(56 件)、「2 区市町村民まつり」(49 件)が多くなっています。

各委員会の構成人数別で比較すると、構成人数が 25 人以下では、全体では「1 地域のまつり」(34 件)、「10 見守りパトロール」(23 件)、主催では、「31 社会奉仕活動」(14 件)、「10 見守りパトロール」(11 件)、「21 スポーツ」(11 件)、協力では「1 地域のまつり」(27 件)が多くなっています。

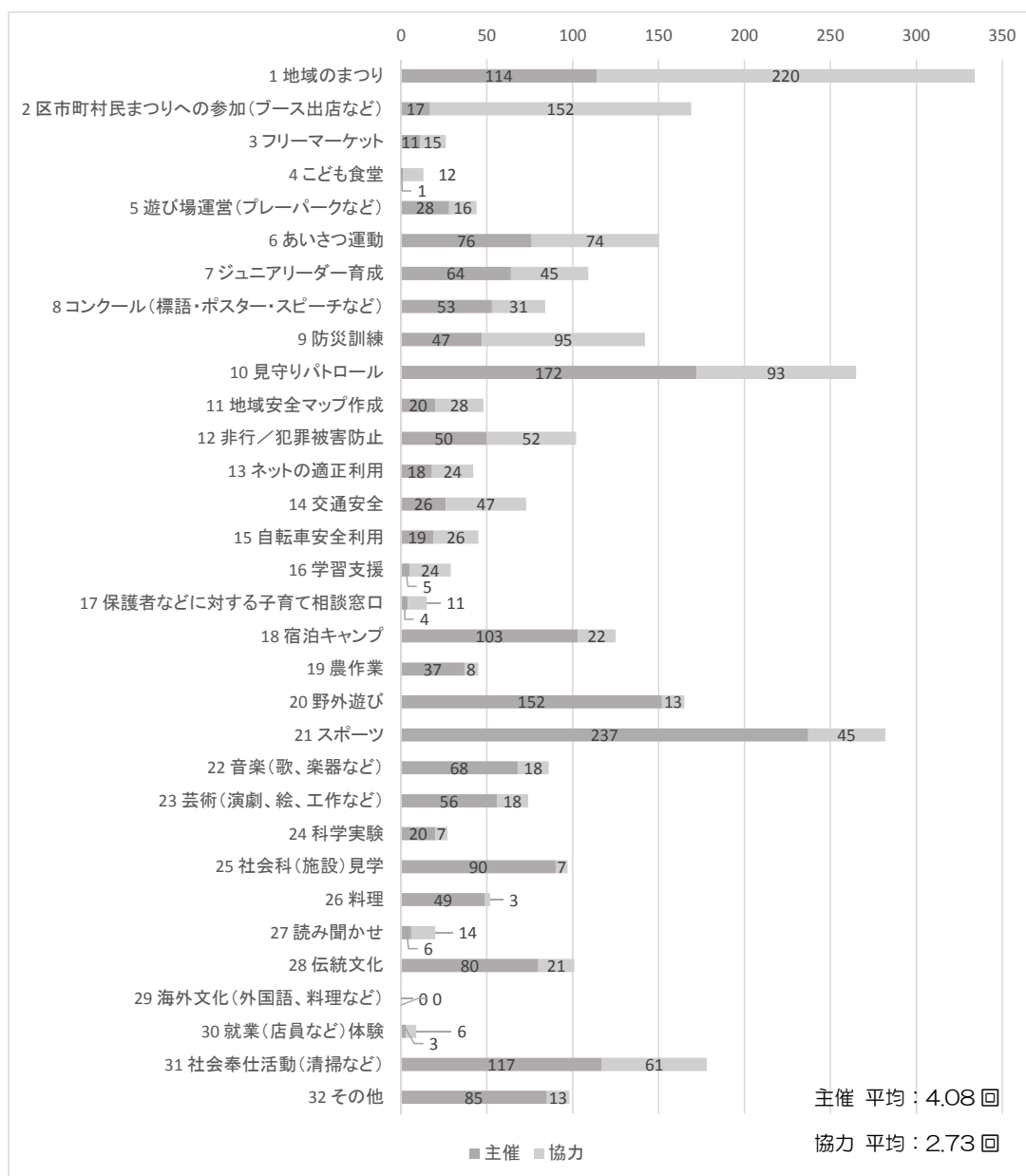
「26 人から 50 人以下」の委員会では、全体では「1 地域のまつり」(89 件)、「10 見守りパトロール」(72 件)、「21 スポーツ」(72 件)、主催では、「21 スポーツ」(56 件)、「10 見守りパトロール」(42 件)、「20 野外遊び」(40 件)、協力では「1 地域のまつり」(63 件)、「2 区市町村民まつり」(45 件)が多くなっています。

「51 人から 75 人以下」の委員会では、全体では「1 地域のまつり」(109 件)、「21 スポーツ」(91 件)、主催では「21 スポーツ」(77 件)、「10 見守りパトロール」(58 件)、協力では「1 地域のまつり」(69 件)、「2 区市町村民まつり」(50 件)が多くなっています。

「76 人以上」の委員会では、全体では「21 スポーツ」(94 件)、「1 地域のまつり」(89 件)、「10 見守りパトロール」(79 件)、主催では「21 スポーツ」(84 件)、「20 野外遊び」(55 件)、「10 見守りパトロール」(52 件)、協力では「1 地域のまつり」(48 件)、「2 区市町村民まつり」(44 件)が多くなっています。

図 8-1 全体の活動内容（複数回答）

n=448



※ 次頁図 8-2-1～図 8-4-4 は、図 8-1 において、主催・協力の合計値が 100 以上のものについてグラフ化しています。

<地域別>

図 8-2-1 区部の委員会の活動内容

n=242

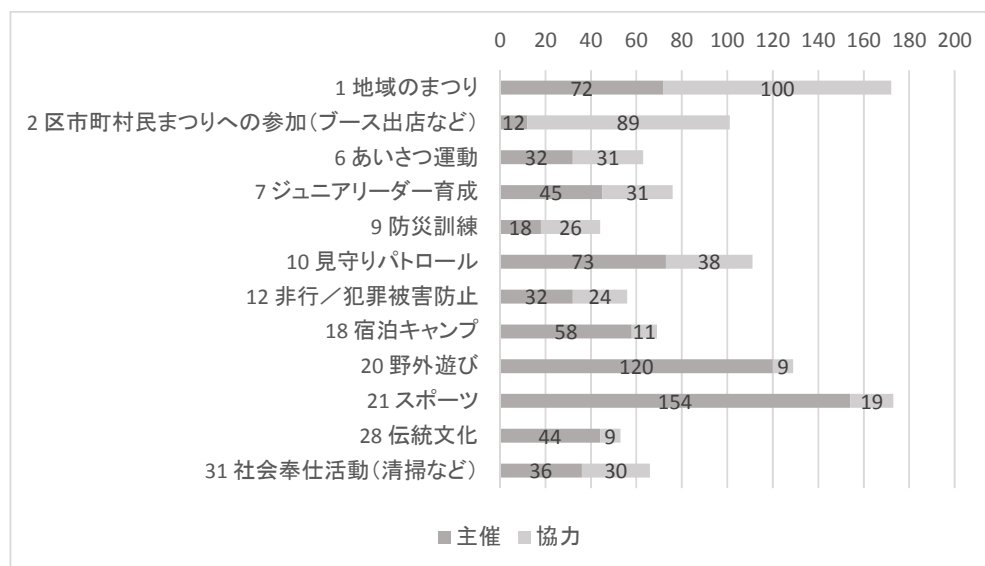


図 8-2-2 市部の委員会の活動内容

n=183

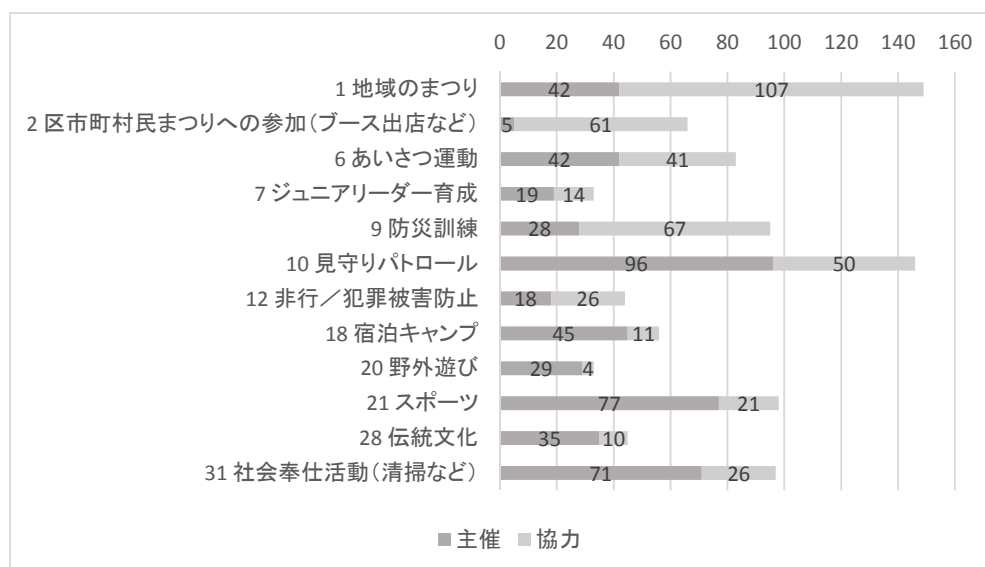
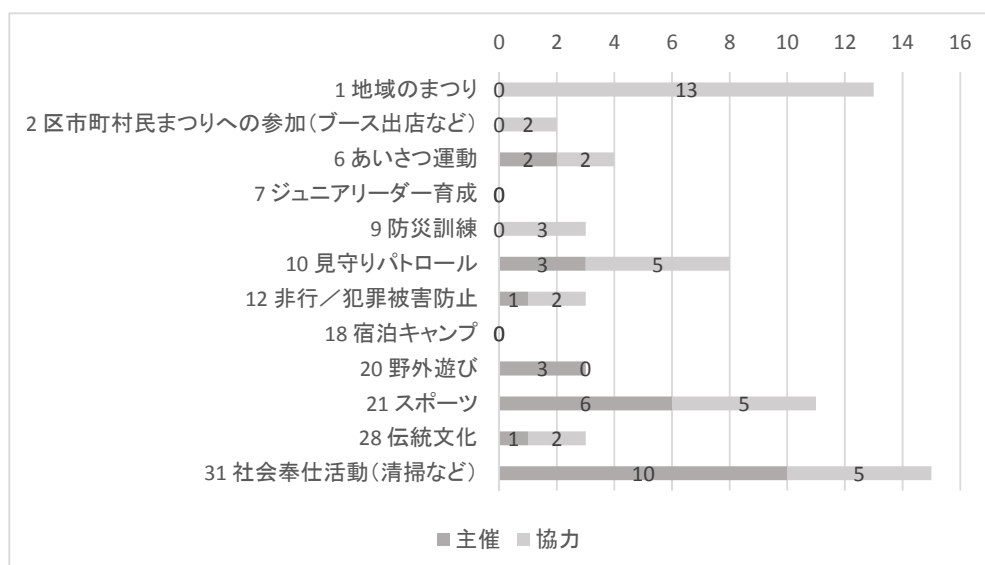


図 8-2-3 町村部の委員会の活動内容

n=23



＜予算額別＞

図 8-3-1 予算が50万円以下の委員会の活動内容

n=159

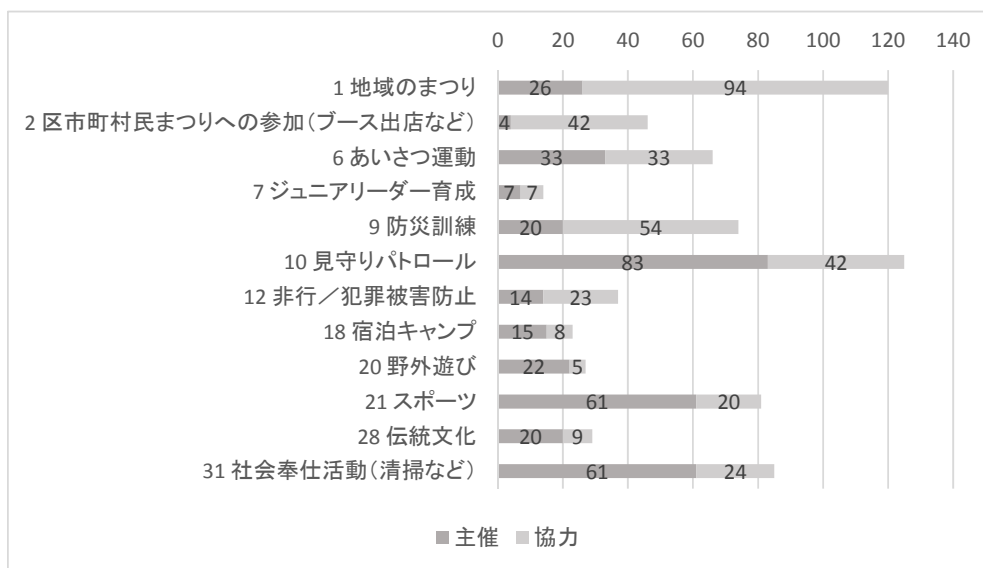


図 8-3-2 予算が51～150万円以下の委員会の活動内容

n=149

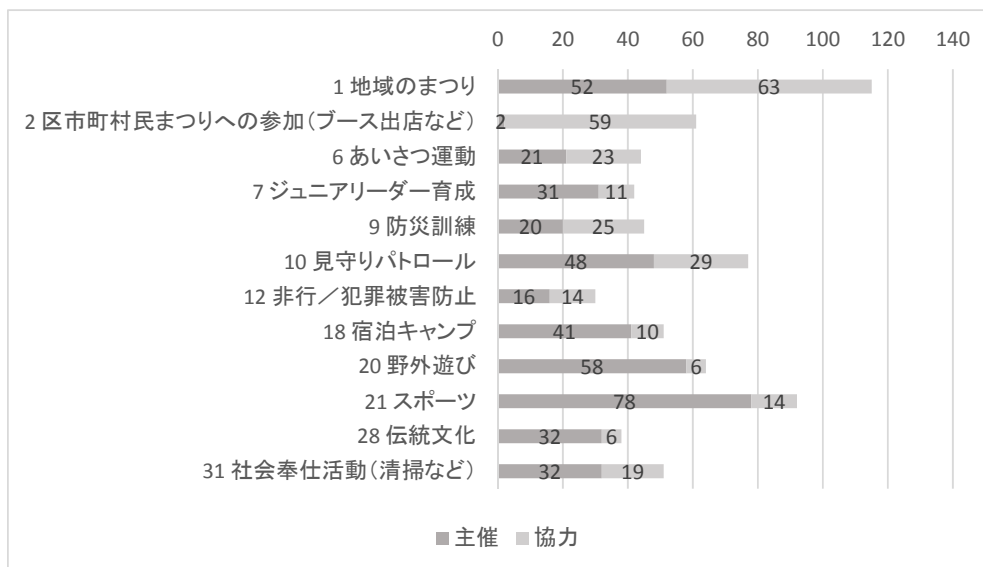
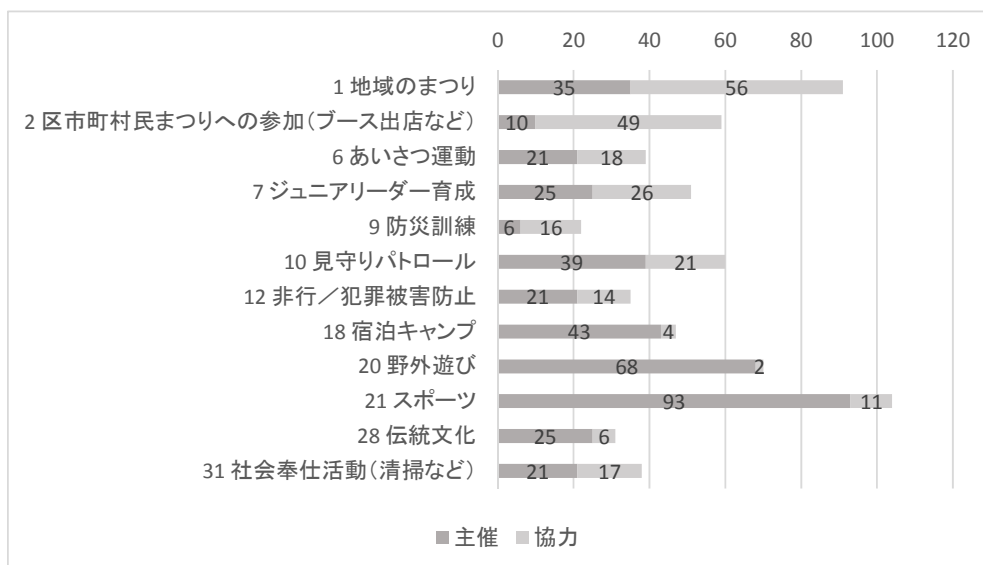


図 8-3-3 予算が151万円以上の委員会の活動内容

n=132



＜構成人数別＞

図 8-4-1 構成人数が 1～25 人の委員会の活動内容 n=44

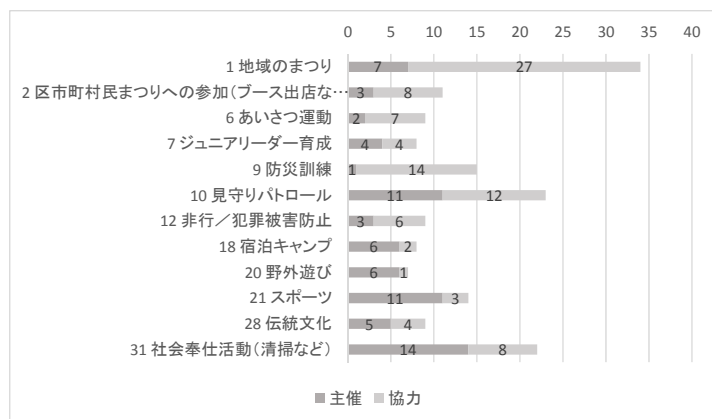


図 8-4-2 構成人数が 26～50 人の委員会の活動内容 n=122

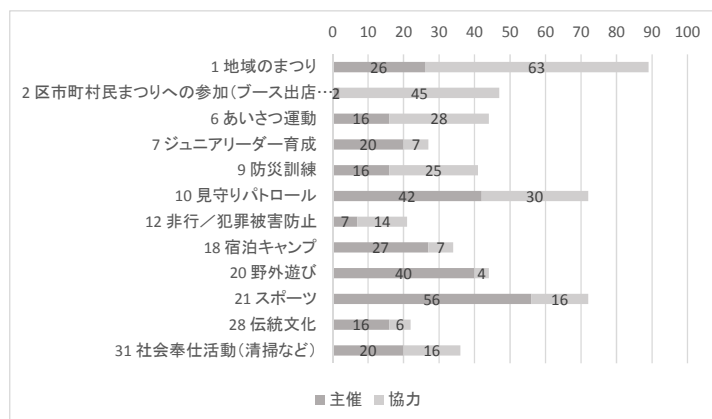


図 8-4-3 構成人数が 51～75 人の委員会の活動内容 n=144

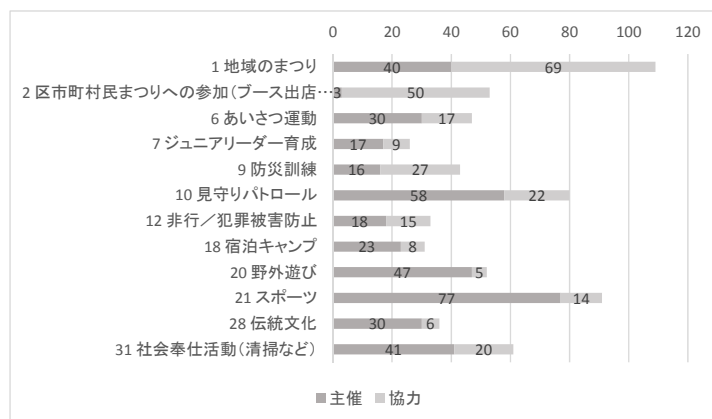
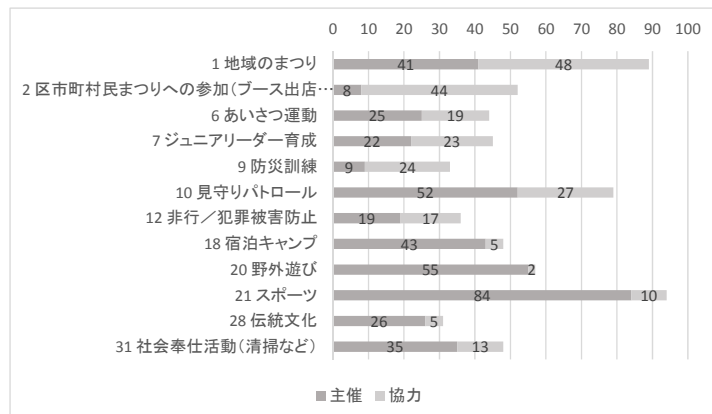


図 8-4-4 構成人数が 76 人以上の委員会の活動内容 n=121



8 研修会の回数

問9

平成 29 年度に貴委員会主催の、委員を対象にした研修会の回数を（ ）の中に記入してお答えください。

●平成 29 年度に委員会が主催した委員を対象とした研修会の回数は、「1 回」（184 件）が最も多く、次いで「0 回」（161 件）、「2 回」（53 件）となっています。

区部では全体の約 70%、市部では全体の約 60%、町村部では全体の約 5%が「1 回」以上の研修を行っていることがわかります。

表 9 研修会の回数

	0回	1回	2回	3回	4回以上	合計
全体	161	184	53	17	10	425
	37.9%	43.3%	12.5%	4.0%	2.4%	100.0%
区部	68	111	35	14	4	232
	29.3%	47.8%	15.1%	6.0%	1.7%	100.0%
市部	72	72	18	3	6	171
	42.1%	42.1%	10.5%	1.8%	3.5%	100.0%
町村部	21	1	0	0	0	22
	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



9 研修会のテーマ

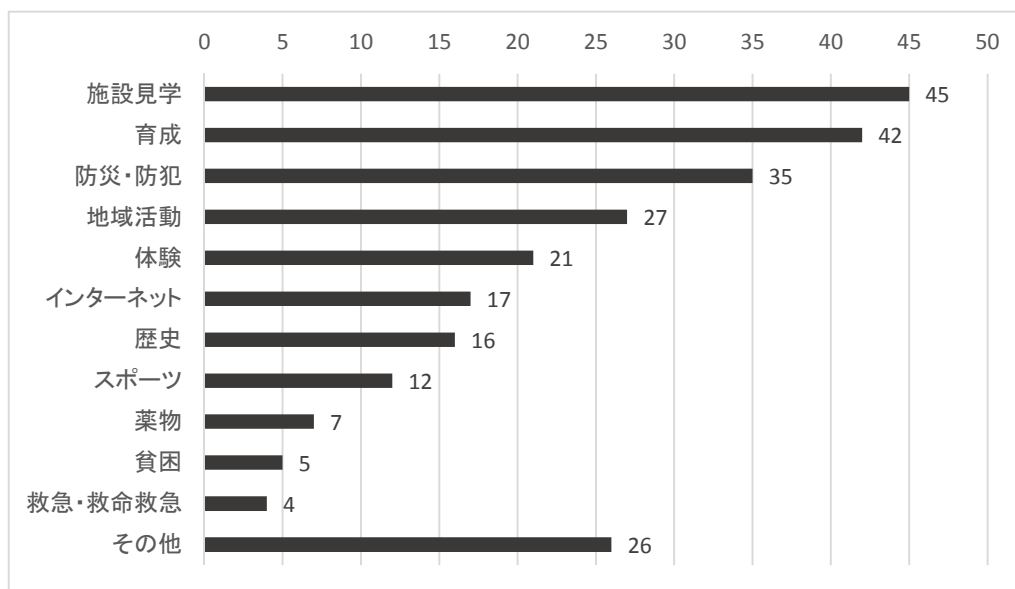
問10

平成29年度に行った研修会で扱ったテーマについてお答え下さい。

●平成29年度に行った研修会で扱ったテーマは「施設見学」(45件)が最も多く、次いで「育成」(42件)、「防災・防犯」(35件)となっています。

図10 研修会のテーマ

n=257



● 研修会テーマの具体例

「施設見学」 ①地元の美術館、博物館の見学 ②リニア博物館等の視察 ③世界遺産富岡製糸場見学
「育成」 ①子どもの成長に向けての健康講座 ②発達障害についての講演 ③人権、不登校について
「防災・防犯」 ①都市型災害の対策 ②青少年の補導の実態について ③子どもの犯罪被害
「地域活動」 ①「地域食堂」について ②地域と学校の交流について ③地区委員会の活動について
「体験」 ①工作教室、料理教室 ②自然体験、電気、ガスなしのピザ作り ③わくわく化学実験教室
「インターネット」 ①サイバー犯罪の防止について ②ネット、スマホの利用について ③SNSの現状
「歴史」 ①戦前、戦後の近現代史を学ぶ ②地域の歴史について ③歴史と伝統文化
「スポーツ」 ①ニュースポーツ体験 ②ビーチボールバレーのルール ③球技大会のルール確認
「薬物」 ①薬物の危険性について考える ②麻薬、覚せい剤の乱用防止
「貧困」 ①子どもの貧困問題について ②現場から見える日本の子どもの貧困について
「救急・救命救急」 ①救急救命講習会 ②赤十字救急法短期講習
「その他」 ①生活ごみと資源物の出し方講座 ②認知症の理解とサポート

10 協働・連携団体

問11

日頃、協働・連携して活動を行っている団体はありますか（該当するものすべてに○をつけてください）。

●日頃、協働・連携して活動を行っている団体は、「小学校」（375件）と「PTA」（372件）が同程度となっており、「中学校」（331件）、「町会・自治会」（321件）と続きます。

約80%の委員会が学校関係（「PTA」、「小学校」、「中学校」）と日頃から協働・連携して活動していることがわかります。

区市町村別で見ても同様の傾向ですが、「町会・自治会」との協働・連携は、区部が多く（82%）、市部（61%）、町村部（55%）はやや低い割合となっています。

図11-1 協働団体（複数回答）

n=445

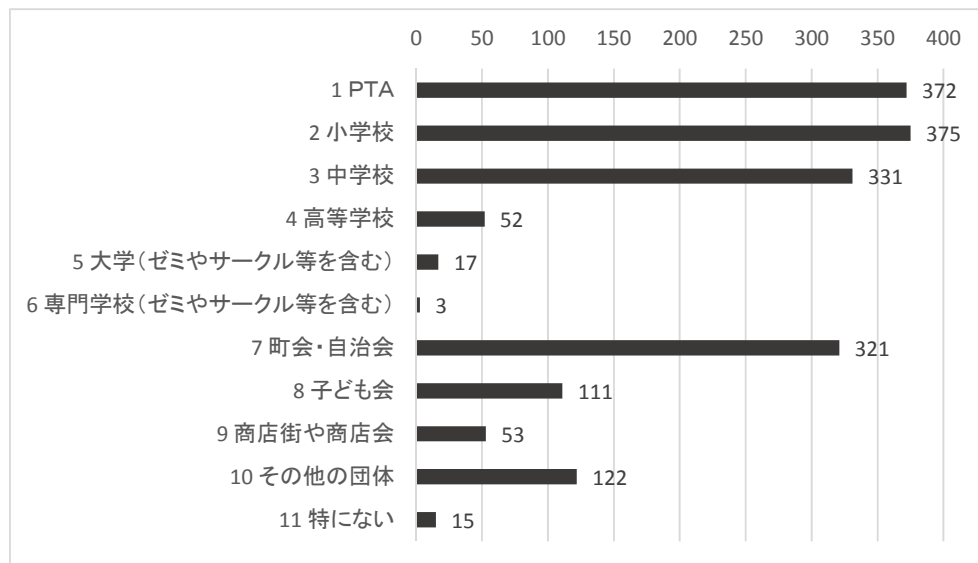
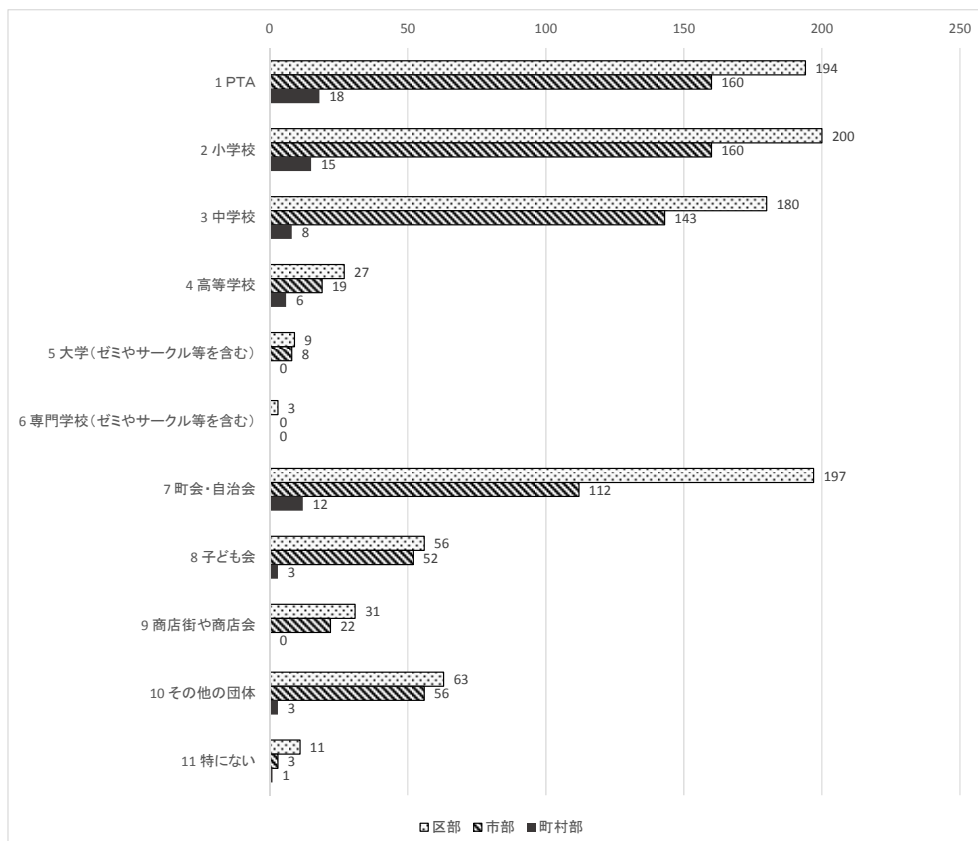


図11-2 区・市・町村部別協働団体（複数回答） n=445（区部 240・市部 183・町村部 22）



1 1 地域のつながりやグループ

問 1 2

参加者やボランティアなどを募る際などに、協働・連携などする地域のつながりやグループはありますか。有無を○で囲い、「1 がある」場合には、どのようなつながりかをお答えください。

●協働・連携などをする地域のつながりやグループについて、「ある」が 336 件（74.8%）、「ない」が 96 件（21.4%）となっています。

多くの委員会が、地域のつながりやグループと協働・連携して参加者やボランティアなどを募っていることがわかります。

具体的には、「小・中学校、PTA」（192 件）が最も多く、次いで「町会・自治会、他の地区委員会」（118 件）、「企業、団体関係」（31 件）となっています。

図 12-1 地域のつながりやグループの有無

n=449

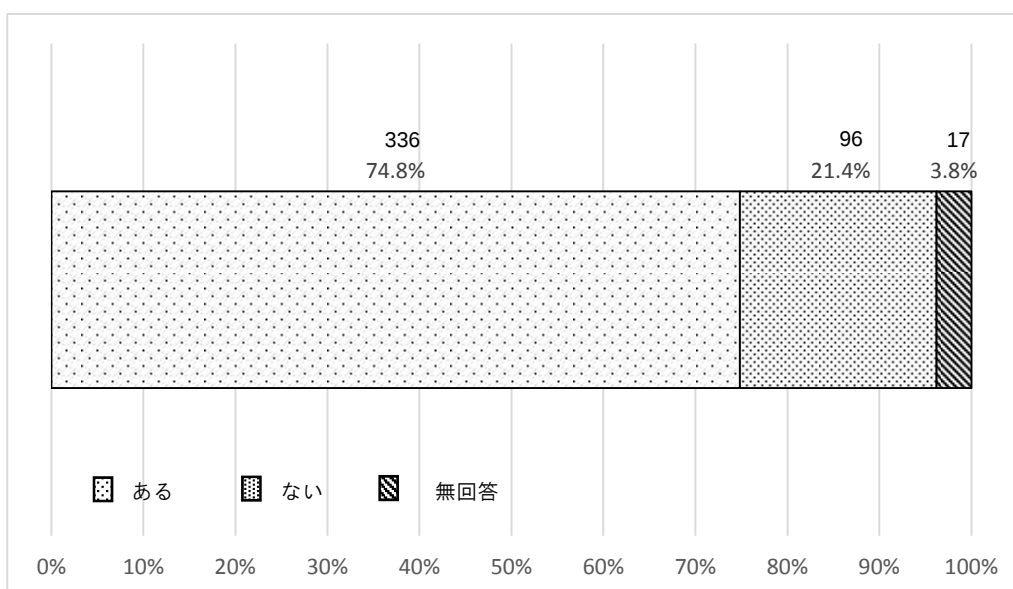
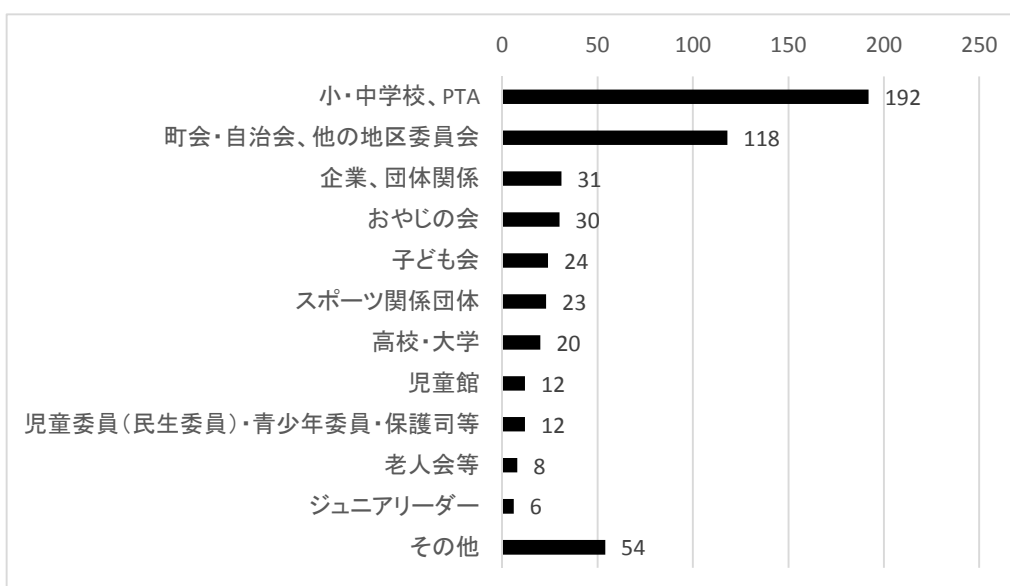


図 12-2 つながり・連携のある団体（複数回答）

n=336



12 活動の周知方法

問 13

どのような方法で活動について周知していますか（該当するものすべてに○をつけてください）。

●活動についての周知方法は、「学校を通して」（374 件）が最も多く、次いで「掲示板」（248 件）、「回覧板」（200 件）となっています。

区市町村別でみると、区部、市部、町村部ともに「学校を通して」が最も多く（区部：208 件、市部：156 件、町村部：10 件）次いで区部では「掲示板」（169 件）、「回覧板」（126 件）、市部では「独自の広報誌など」（92 件）、「掲示板」（79 件）、町村部では「区市町村広報紙」（6 件）、「回覧板」（3 件）と「SNS」（3 件）となっています。全体的に、学校、掲示板、回覧板による周知が多くみられます。

図 13-1 全体の周知方法（複数回答）

n=443

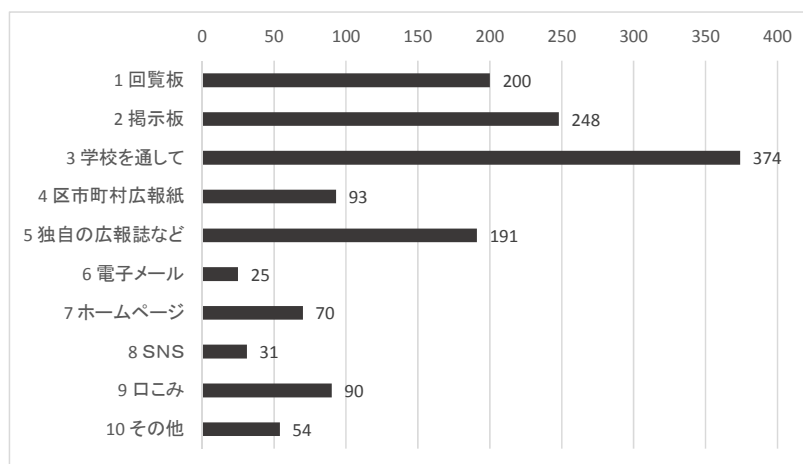


図 13-2 区部の周知方法
（複数回答）

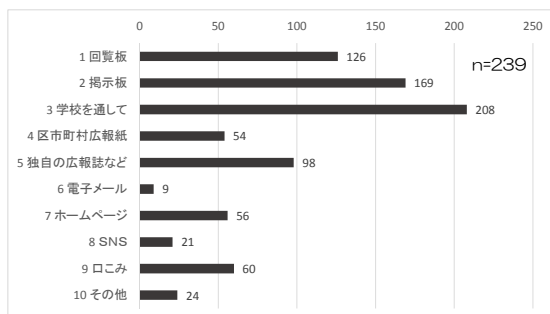


図 13-3 市部の周知方法
（複数回答）

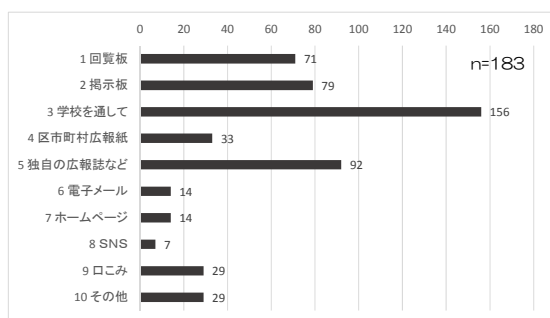
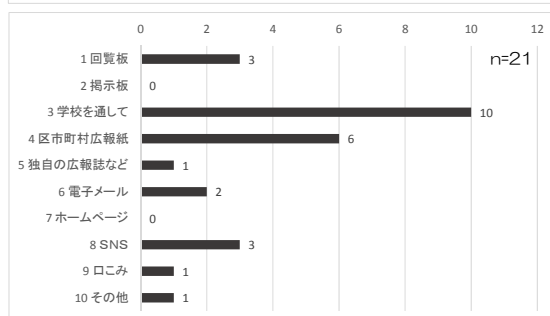


図 13-4 町村部の周知方法
（複数回答）



1 3 抱える課題

問 1 4

貴委員会で活動を推進するにあたり、現状で課題となっている事柄はどのようなものですか。

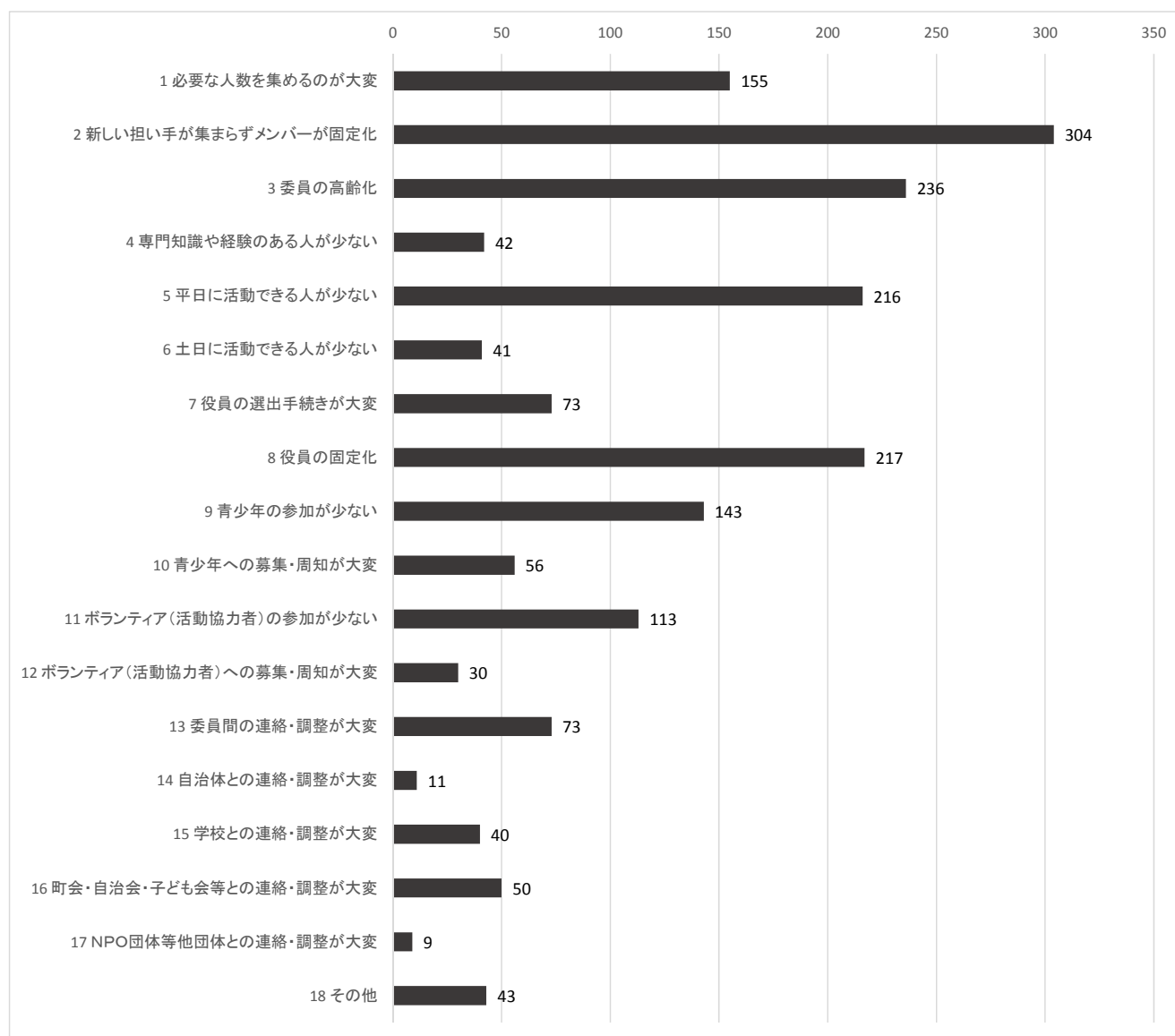
①人的な面について②人的な面以外について③今後、活動を行うにあたり、助けになるものについて

<人的な面での課題>

●活動を推進するにあたり現状における人的な面での喫緊の課題は、「2 新しい担い手が集まらずメンバーが固定化」(304 件)、「3 委員の高齢化」(236 件)、「8 役員の固定化」(217 件)、「5 平日に活動できる人が少ない」(216 件)となっています。特に、「2 新しい担い手が集まらずメンバーが固定化」については、約 70%の委員会が課題と回答しており、区市町村別、予算額別、構成人数別、いずれの区分においても、一番多くなっています。その他の課題においても、区分ごとでは同様の傾向を示しています。

図 14-1-1 人的な面の課題（複数回答）

n=422



※ 次頁 14-1-2～図 14-1-4 は、図 14-1-1 において、上位 10 位以内の課題についてグラフ化しています。

図 14-1-2 区・市・町村部毎の人的な面の課題（複数回答）

n=422（区部 225・市部 178・町村部 19）

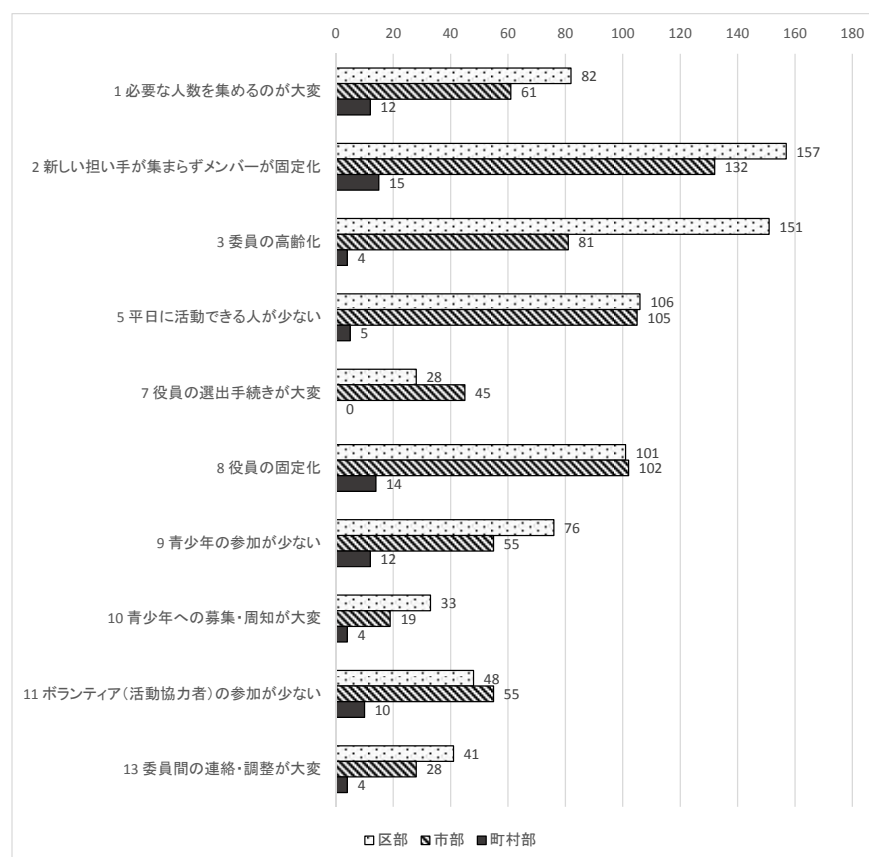
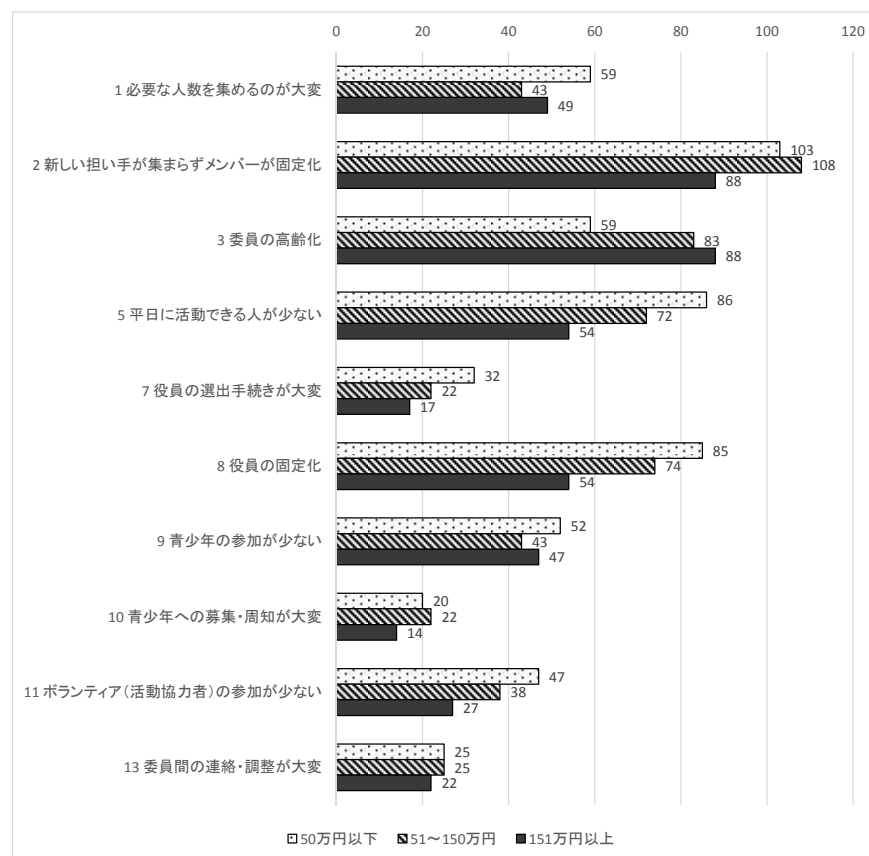


図 14-1-3 予算毎の人的な面の課題（複数回答）

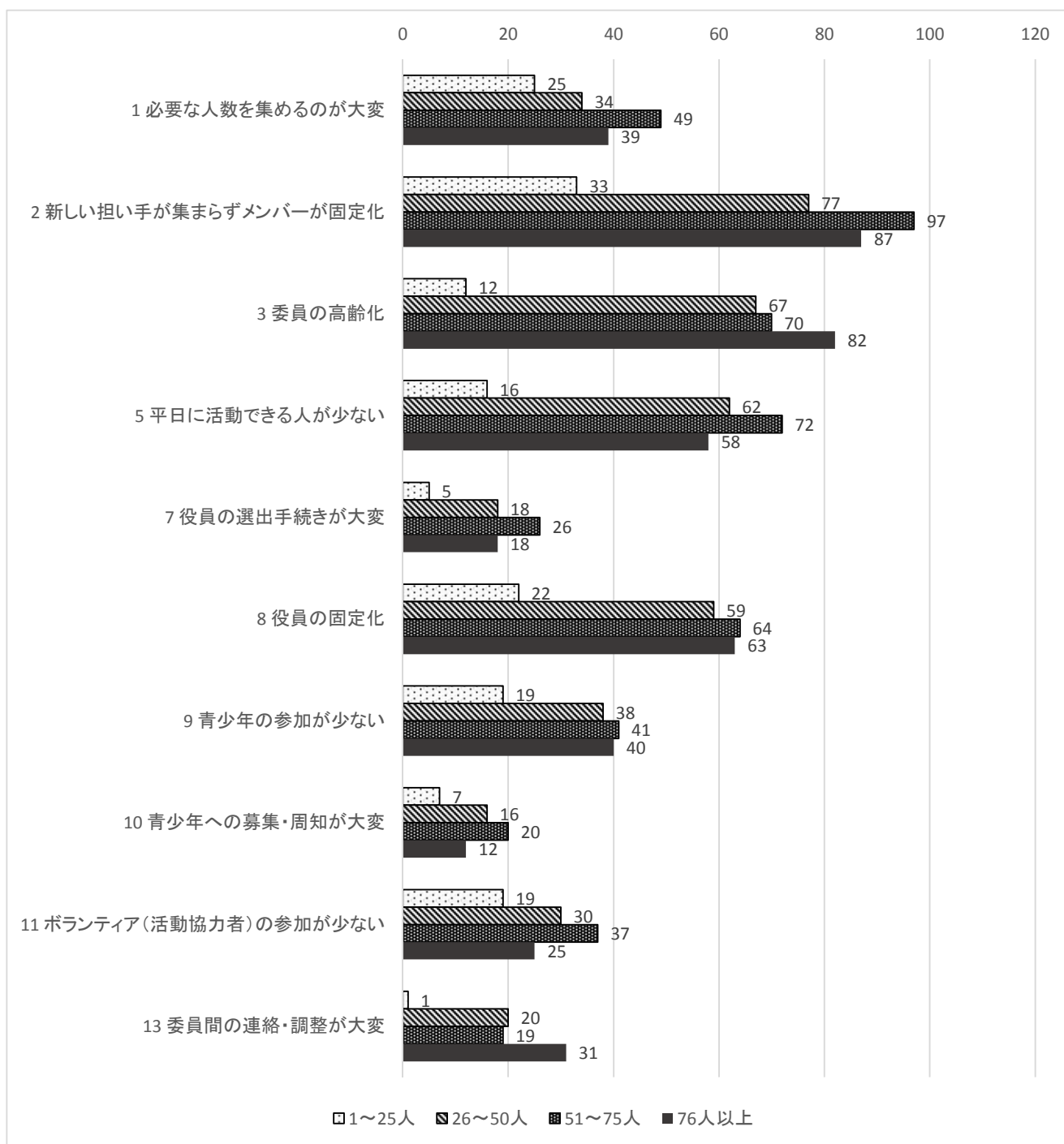
n=415（50万円以下 148・51～150万円 143・151万円以上 124）



※ 予算額無回答（7件）を除く

図 14-1-4 構成人数毎の人的な面の課題（複数回答）

n=406（1～25人 39・26～50人 115・51～75人 134・76人以上 118）



※ 構成人数無回答（16件）を除く

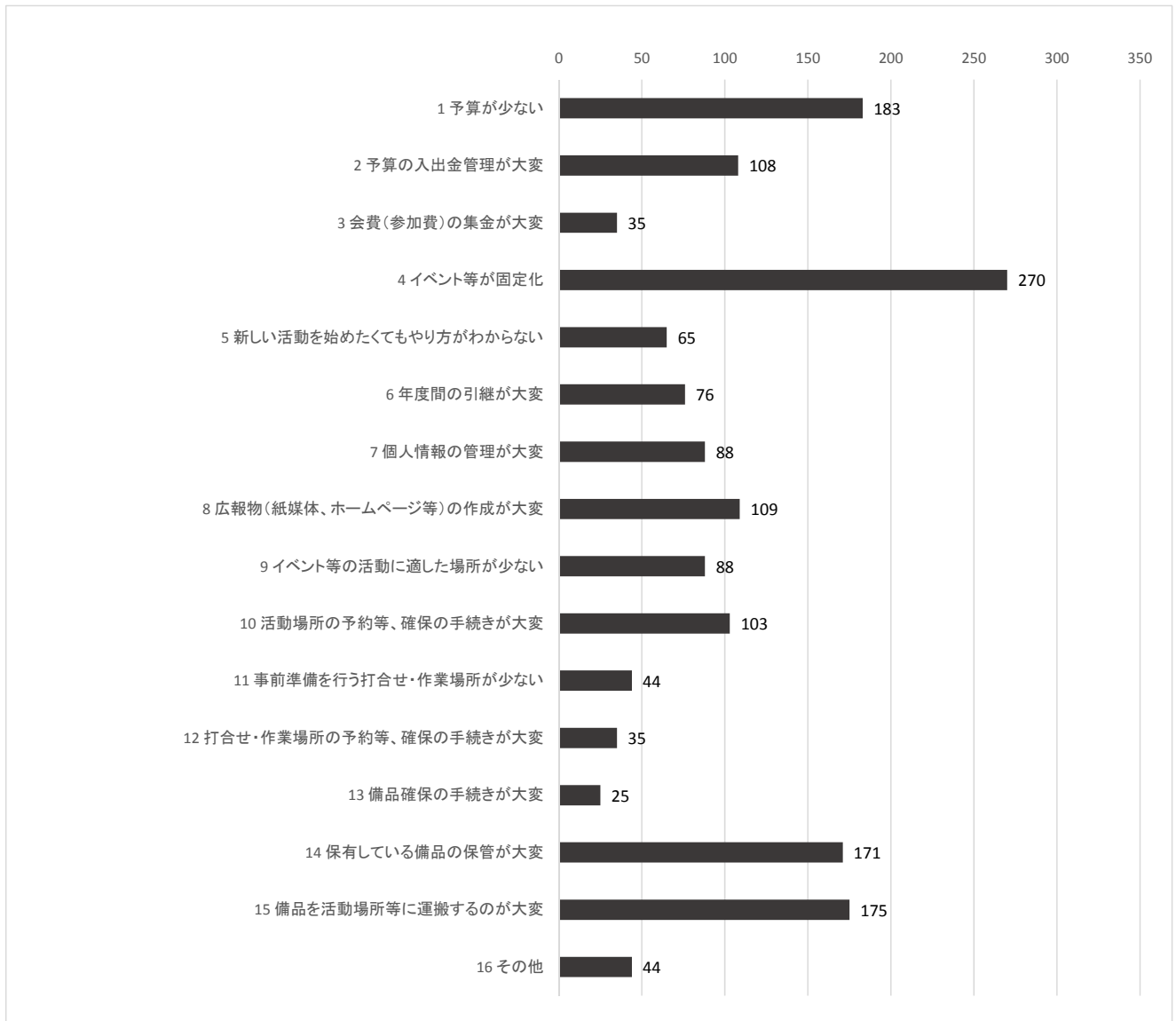
＜人的な面以外での課題＞

●人的な面以外の喫緊の課題は、「4 イベント等が固定化」(270 件)、「1 予算が少ない」(183 件)、「15 備品を活動場所等に運搬するのが大変」(175 件)となっています。特に、「4 イベント等が固定化」については、70%近くの委員会が課題としており、町村部を除き、いずれの場合も、一番多くなっています。

また、区市町村別、予算額別、構成人数別で比べてみても、いずれの場合でも「1 予算が少ない」、「14 保有している備品の保管が大変」、「15 備品を活動場所等に運搬するのが大変」が多くなっています。

図 14-2-1 人的面以外の課題（複数回答）

n=408



※ 次頁 14-2-2～図 14-2-4 は、図 14-2-1 において、上位 10 位以内の課題についてグラフ化しています。

図 14-2-2 区・市・町村部毎の人的面以外の課題（複数回答）

n=408（区部 219・市部 170・町村部 19）

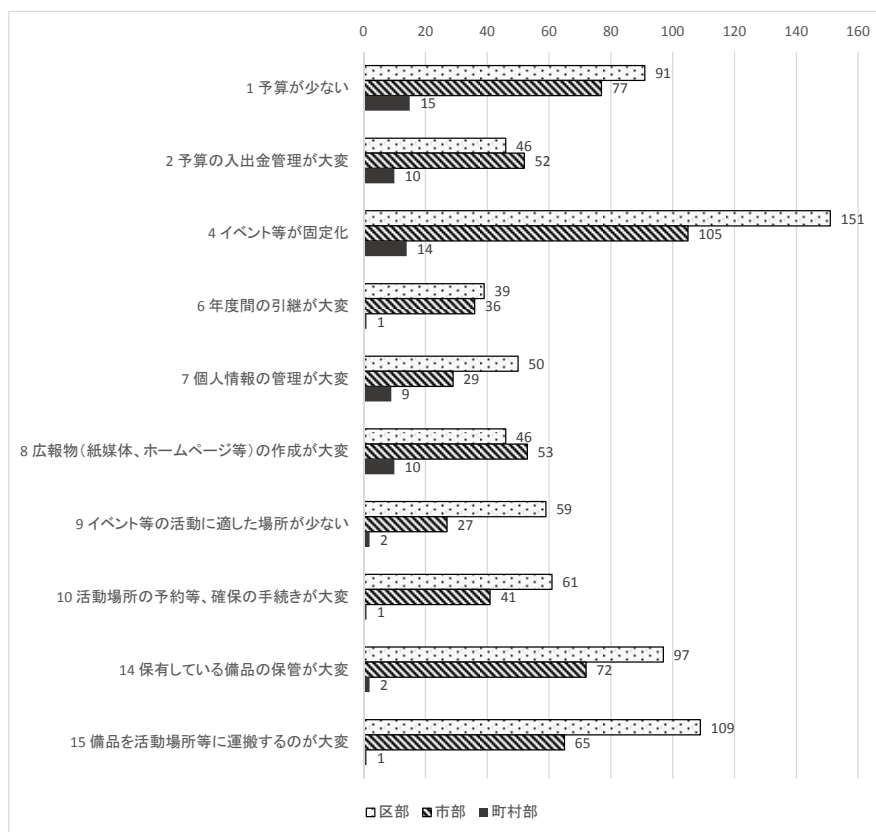
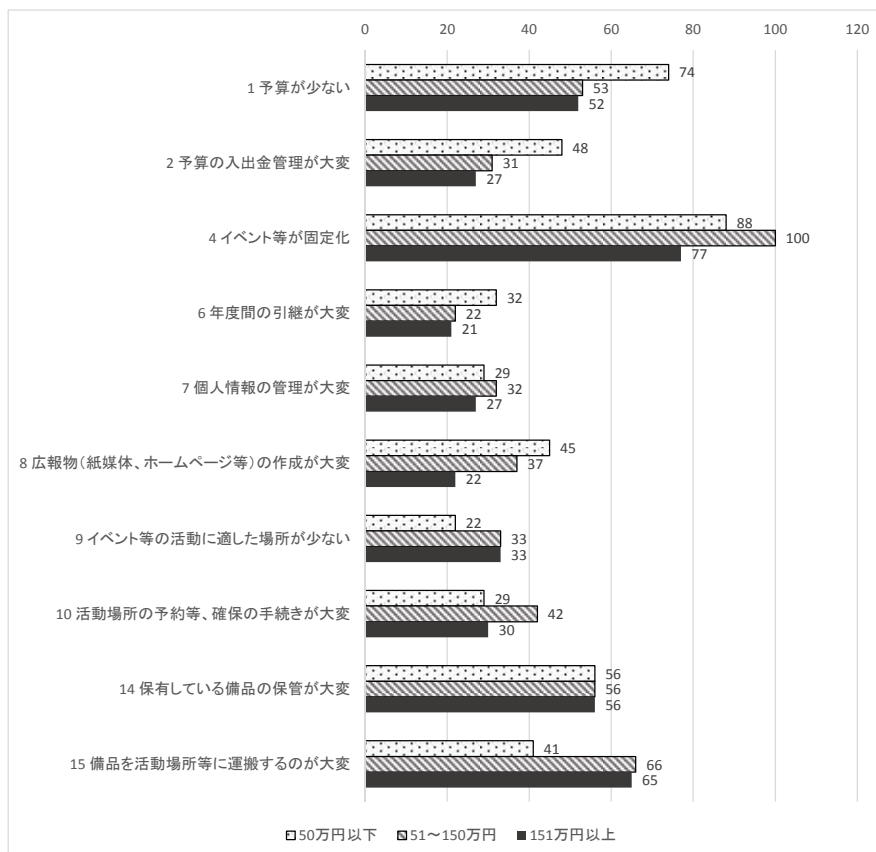


図 14-2-3 予算毎の人的面以外の課題（複数回答）

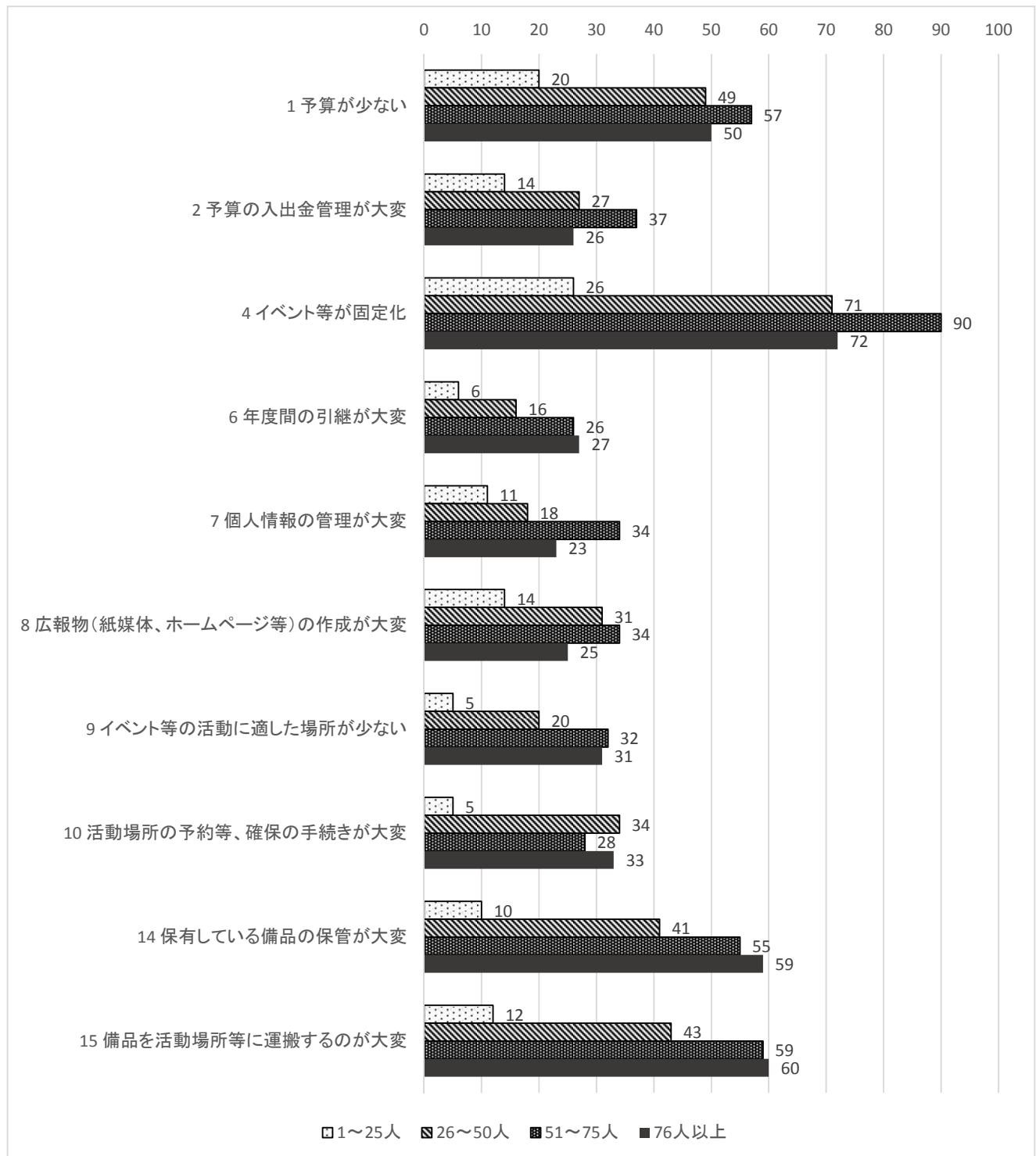
n=402（50万円以下 143・51～150万円 140・151万円以上 119）



※ 予算額無回答（6件）を除く

図 14-2-4 構成人数毎の人的面以外の課題（複数回答）

n=392（1～25人 38・26～50人 109・51～75人 133・76人以上 112）



※ 構成人数無回答（16件）を除く

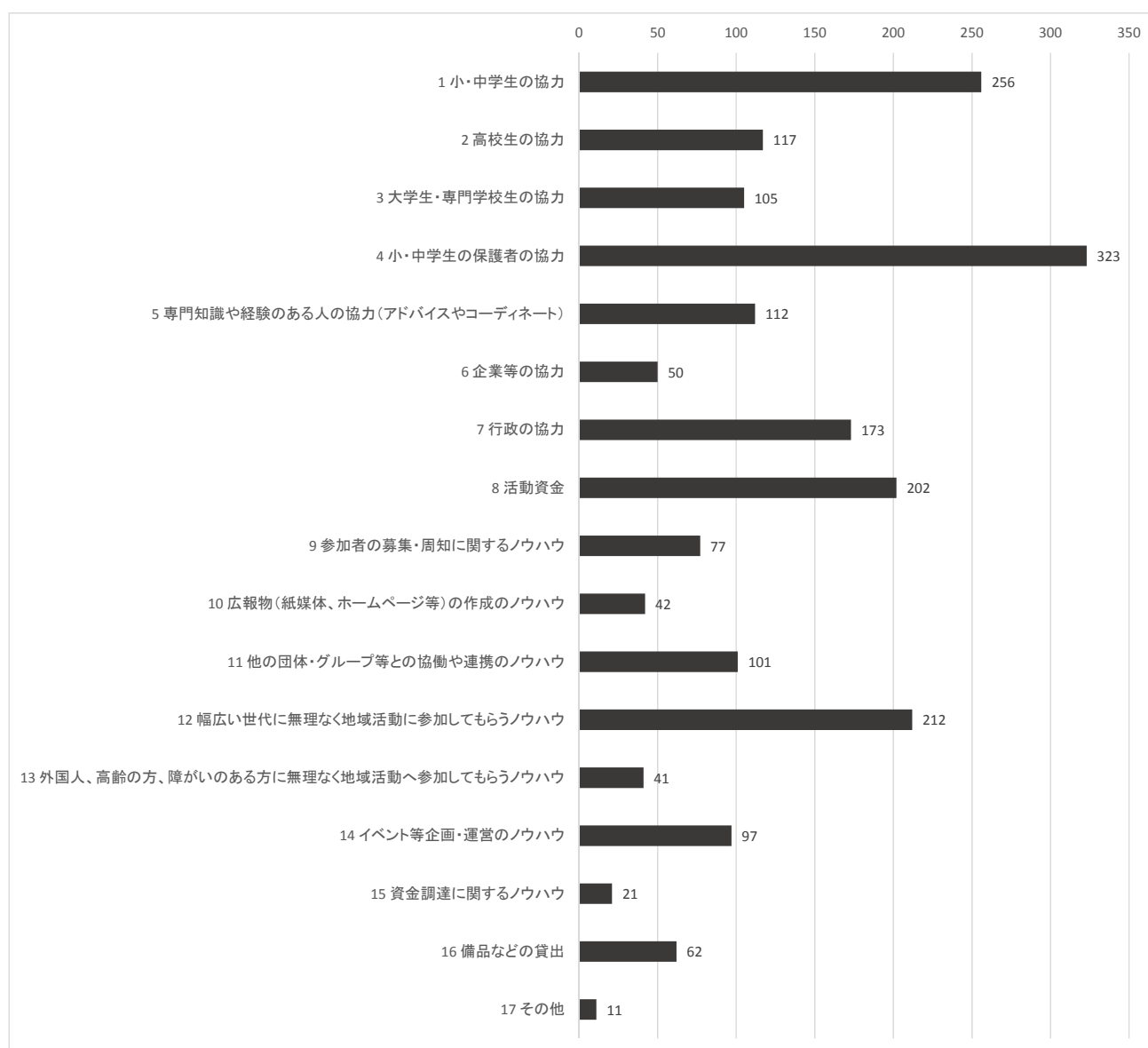
＜今後助けになるもの＞

●今後活動を行うにあたり助けになるものは、「4 小・中学生の保護者の協力」(323 件)、「1 小・中学生の協力」(256 件)、「12 幅広い世代に無理なく地域活動に参加してもらうノウハウ」(212 件)となっています。特に、「4 小・中学生の保護者の協力」は、70%以上の委員会で助けになると回答しており、区市町村別、予算額別、構成人数別で比べてみても、すべての場合で、「4 小・中学生の保護者の協力」が一番多くなっています。また、町村部を除き、いずれの場合も、次に助けになるものとして多いものは、「1 小・中学生の協力」となっています。

区市町村別、予算額別、構成人数別で若干の違いはみられましたが、全体的な傾向は変わりません。そのため、委員会が活動するにあたり助けになるものは、区市町村別、予算額別、構成人数別にかかわらず同様の傾向にあるといえます。

図 14-3-1 今後助けになるもの（複数回答）

n=435



※ 次頁 14-3-2～図 14-3-4 は、図 14-3-1 において、上位 10 位以内の課題についてグラフ化しています。

図 14-3-2 区・市・町村部毎の今後助けになるもの（複数回答）

n=435（区部 232・市部 181・町村部 22）

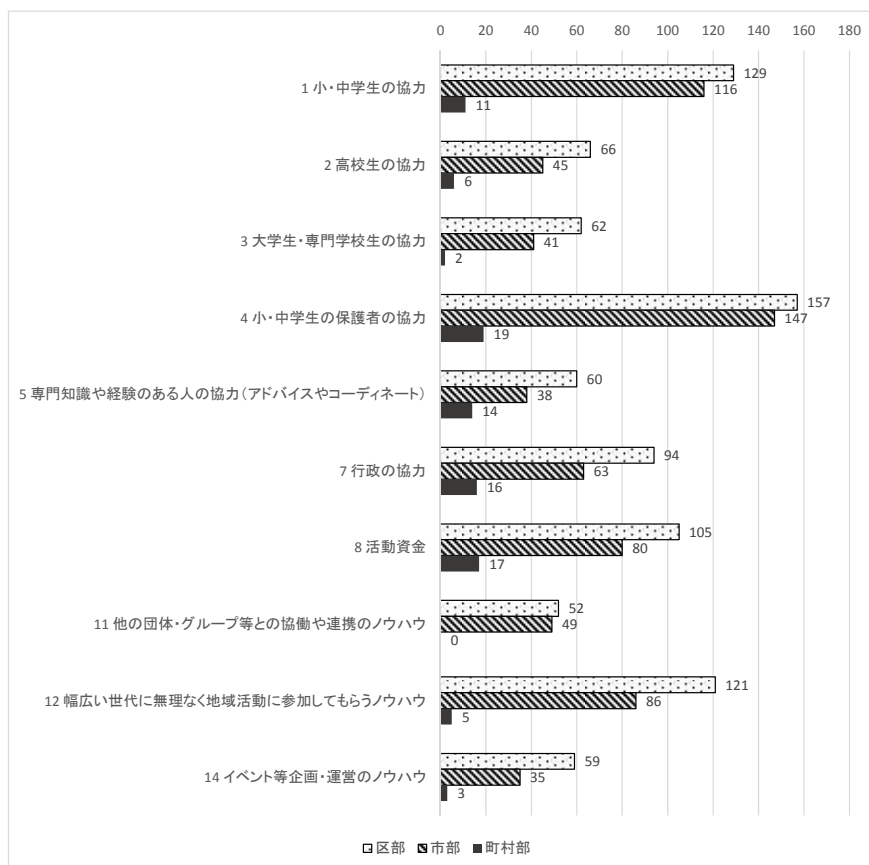
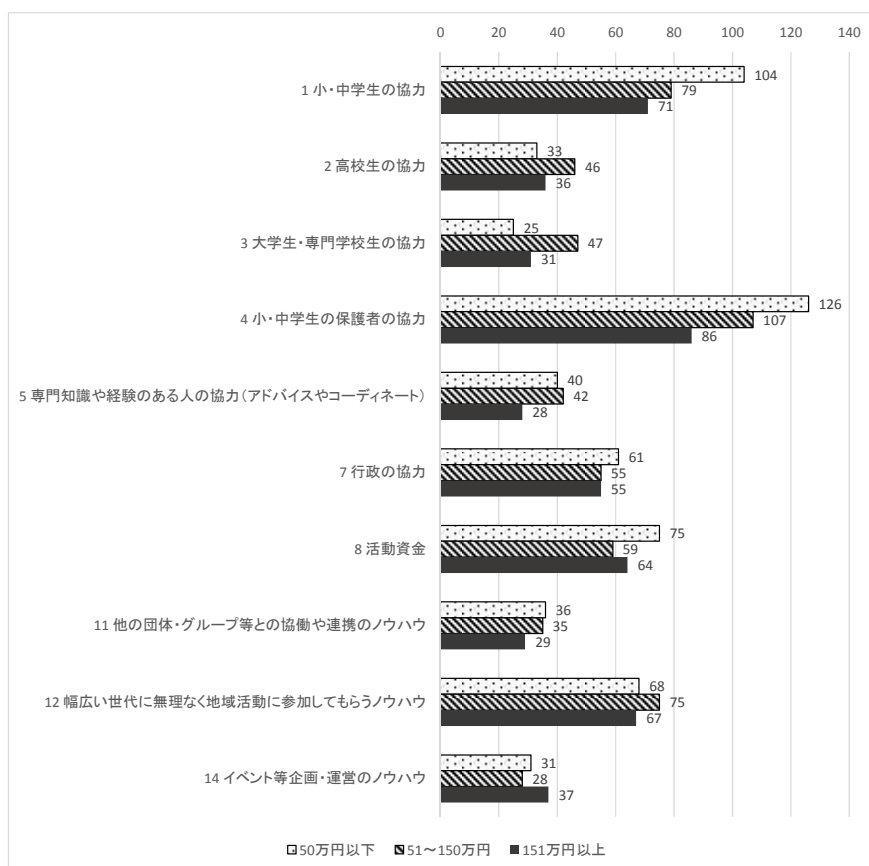


図 14-3-3 予算毎の今後助けになるもの（複数回答）

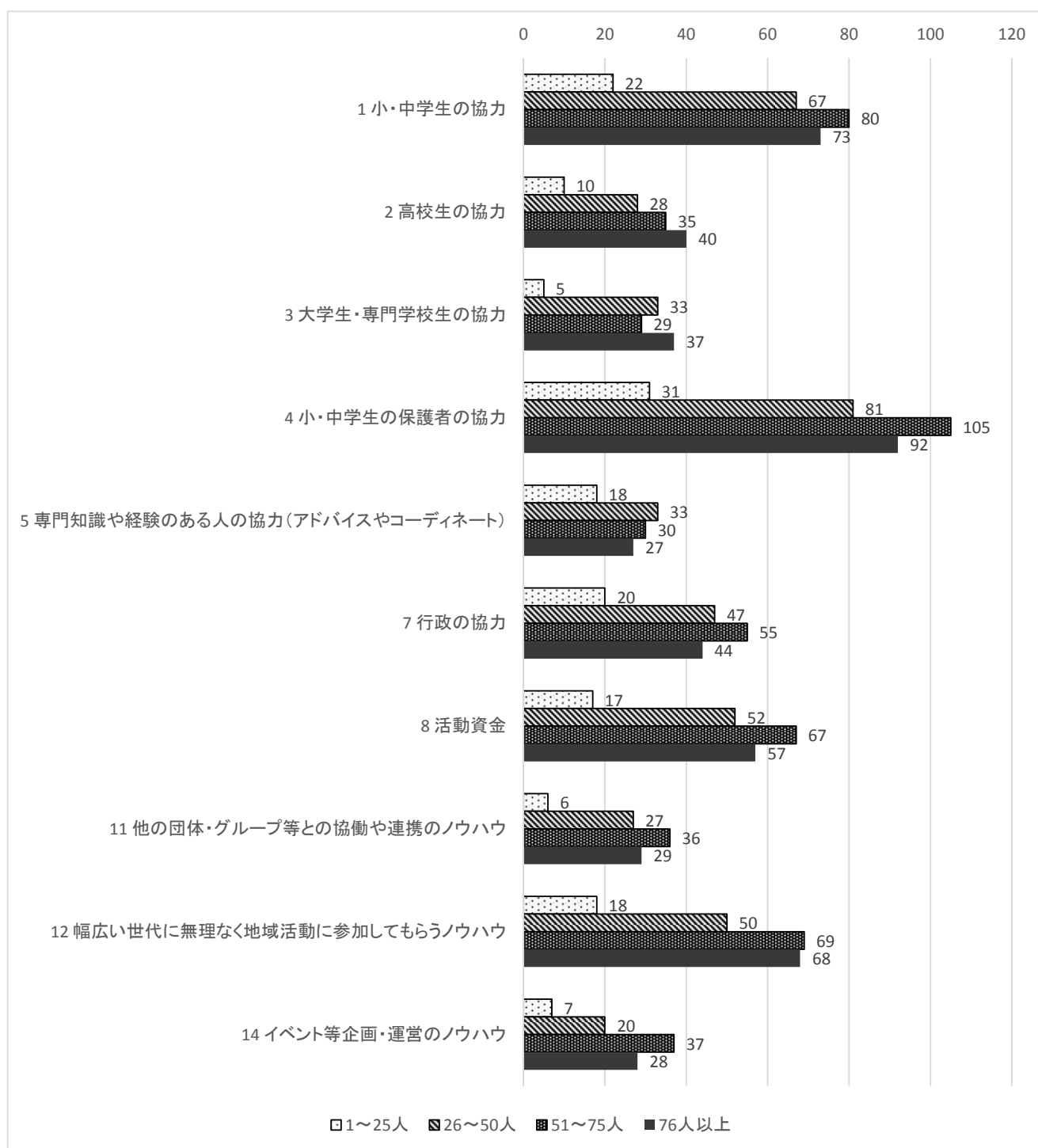
n=429（50万円以下 154・51～150万円 146・151万円以上 129）



※ 予算額無回答（6件）を除く

図 14-3-4 構成人数毎の今後助けになるもの（複数回答）

n=418 (1~25人 41・26~50人 117・51~75人 140・76人以上 120)



※ 構成人数無回答（17件）を除く

1 4 今後行いたい活動

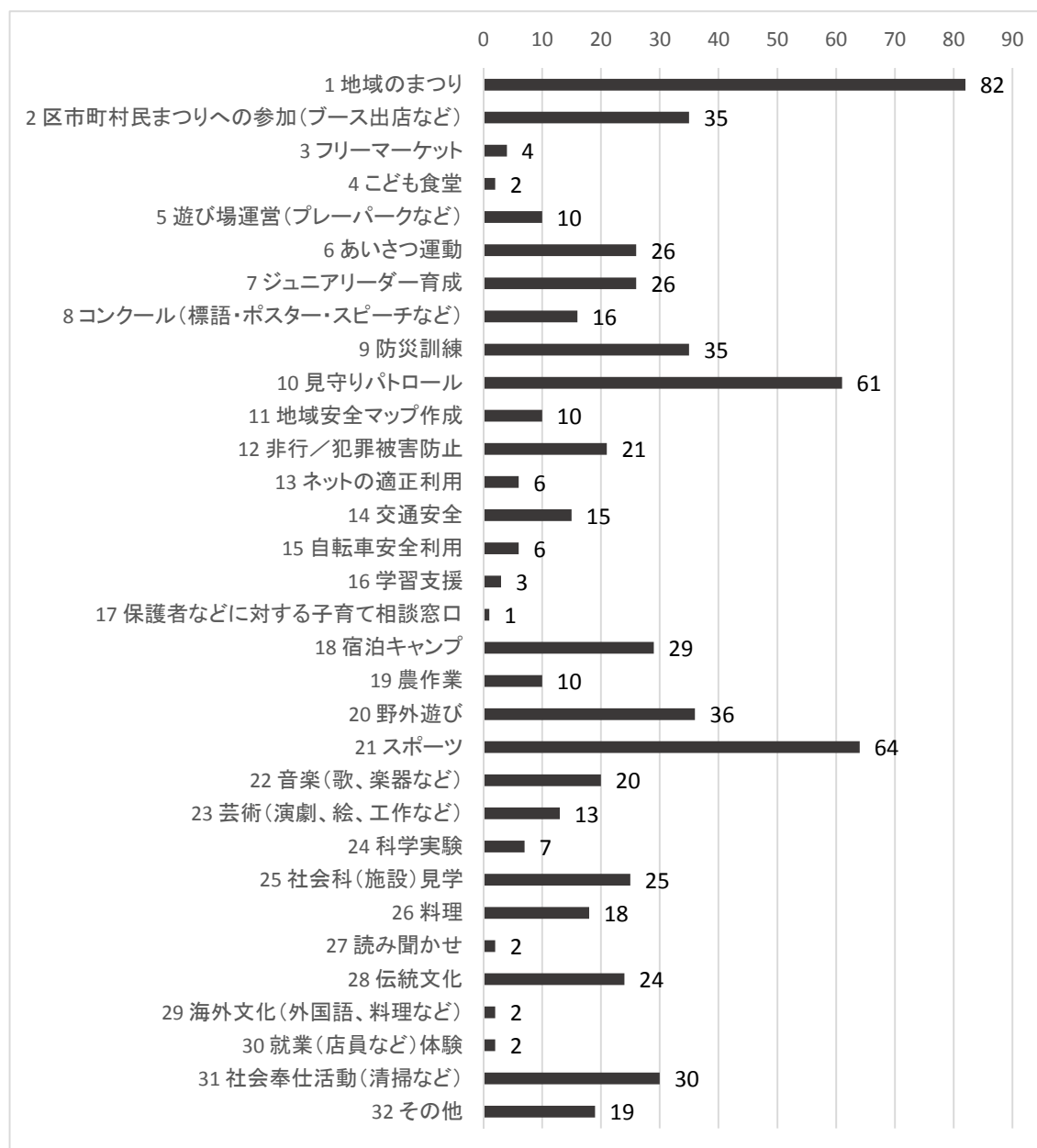
問 1 5

今後行いたい活動について、問8の活動の番号を（ ）の中にすべてお書きください。また、実施に向けた課題などがありましたら、お書きください。

●今後行いたい活動で、具体的な実施計画や予定があるものは「1 地域のまつり」（82 件）が最も多く、次いで、「21 スポーツ」（64 件）、「10 見守りパトロール」（61 件）となっています。

図 15-1 具体的な実施計画や予定があるもの（複数回答）

n=166

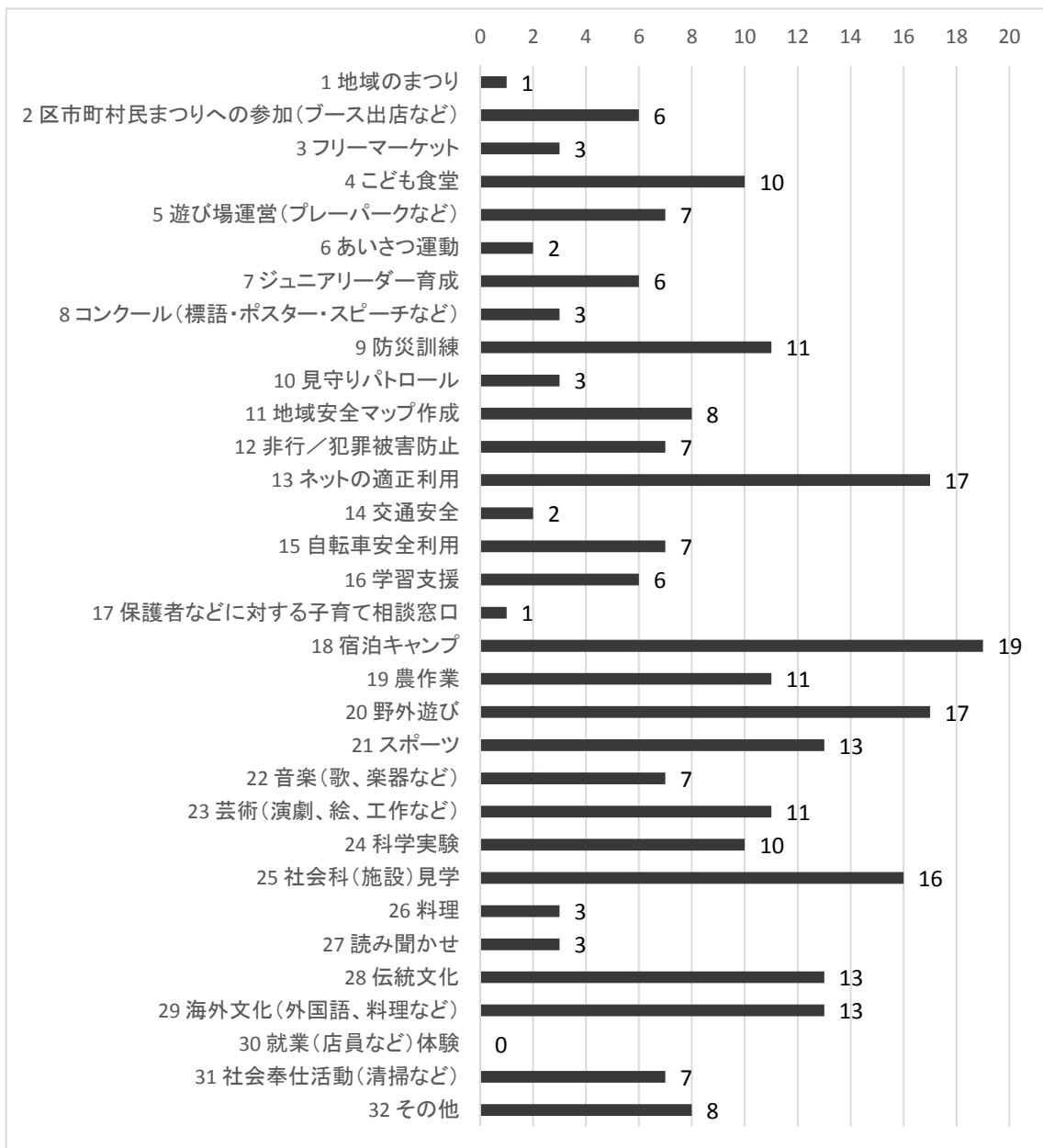


●課題としては、人材の確保、参加者の確保、予算、施設・会場の確保、スケジュール調整というものが多く見られました。その他、他団体との連携や、雨天対策、申込方法についてなどの課題もありました。

●今後行いたい活動で、具体性はないが、機会があれば実施したいものは、「18 宿泊キャンプ」(19 件)が最も多く、次いで、「13 ネットの適正利用」(17 件)、「20 野外遊び」(17 件)となっています。

図 15-2 機会があれば実施したいもの(複数回答)

n=144



●課題としては、人材の確保、施設・会場の確保、予算、スケジュール調整、ノウハウがわからないというものが多く見られました。その他、他団体との連携や、地区委員への動機づけ、取組内容の調整といった課題もありました。

15 主な活動

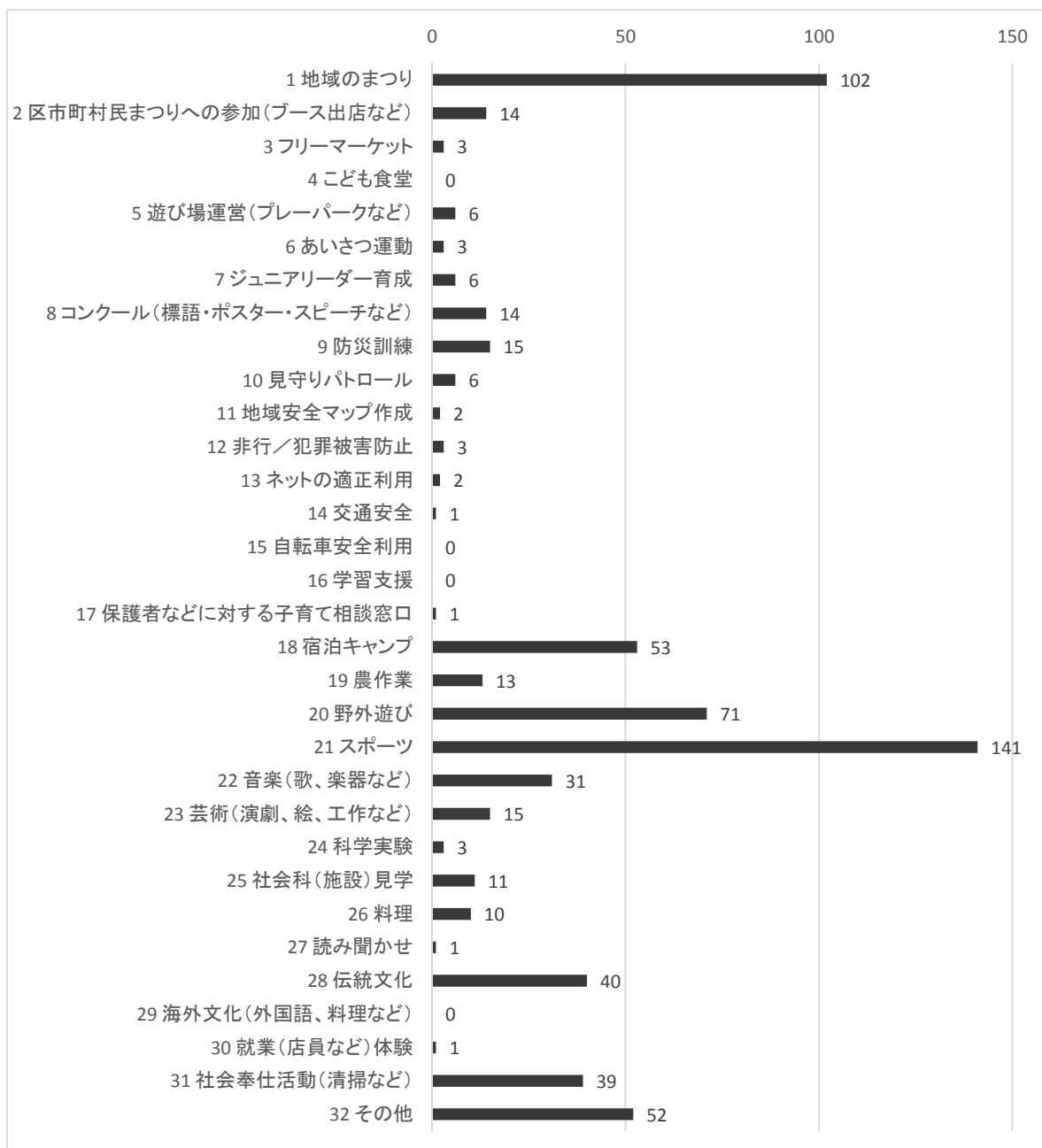
問16

貴委員会が平成29年度に実施した活動のうち、主なもの（地域の特性をいかしたものの、参加人数や日数が多いもの）を2つお聞かせください。

●挙げられた2つの主な活動で多かったものは、「スポーツ」（141件）、「地域のまつり」（102件）、「野外遊び」（71件）となっています。

図 16-1 委員会が実施した主な活動

n=351



※ 次頁以降(P38~47)は、図 16-1 において、件数の多かった上位5つの活動(1 地域のまつり、18 宿泊キャンプ、20 野外遊び、21 スポーツ、28 伝統文化)について分析しています。

1 地域のまつり（102件）

●活動の時期は、2つの山があり、「7月」（19件）「8月」（14件）、「10月」「11月」（それぞれ18件）が多く、夏休み前～期間中または秋に行われることが多いです。準備期間は「1～3ヶ月」（55件）が過半数になっています。

スタッフは「委員」、「ボランティア」、「子供」のいずれも「41人以上」（50件、42件、19件）と多くの方がスタッフとして携わり、また団体も「PTA」（84件）、「小学校」（78件）、「町会・自治会」（75件）と多くの協力を得て行われています。参加者は、平均して大人・子供合計で1,000人程の方が来場しています。

支出額は「10～25万円未満」（26件）、「25～50万円未満」（20件）で、主な収入内訳は「補助金・公費・委託料」が多いですが、「物品等売上」、「寄附・協賛金」にも支えられていることがわかります。

図 16-2-1 活動の時期（複数回答） n=102

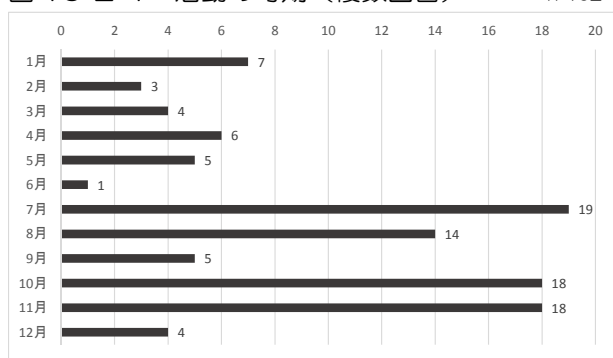


図 16-2-2 準備期間 n=102

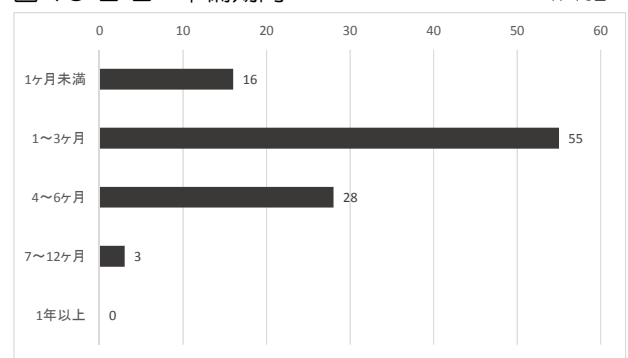
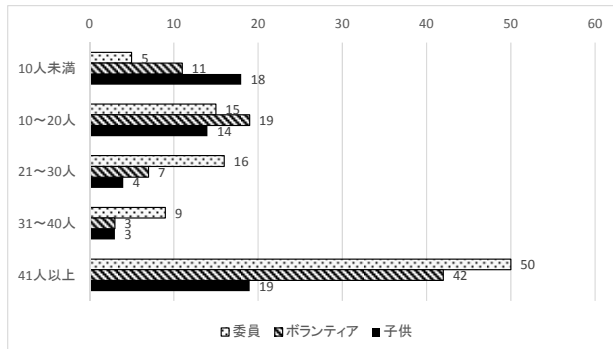


図 16-2-3 スタッフ数 n=95



平均：委員 46人 ボランティア 64人 子供 52人

図 16-2-4 協力団体（複数回答） n=101

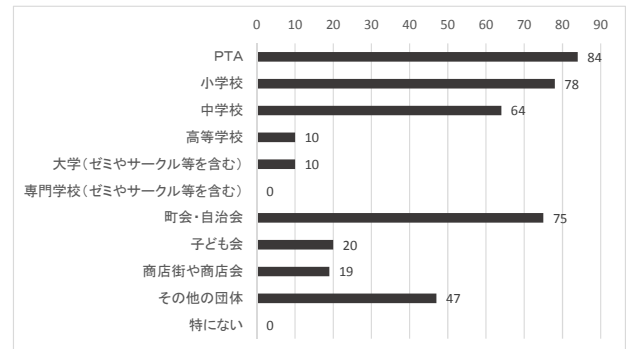
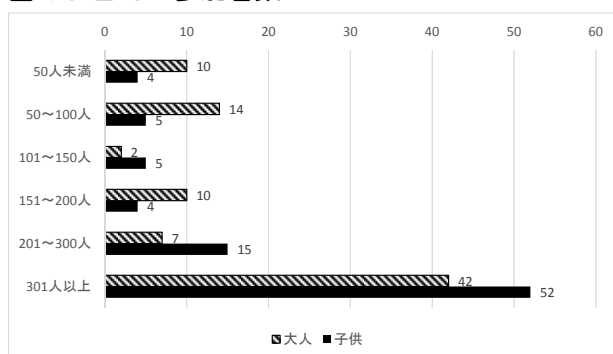
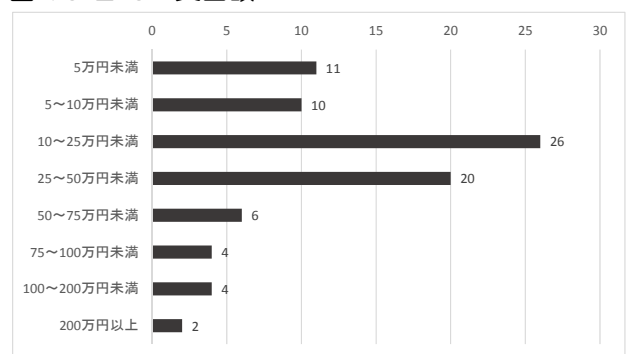


図 16-2-5 参加者数 n=87



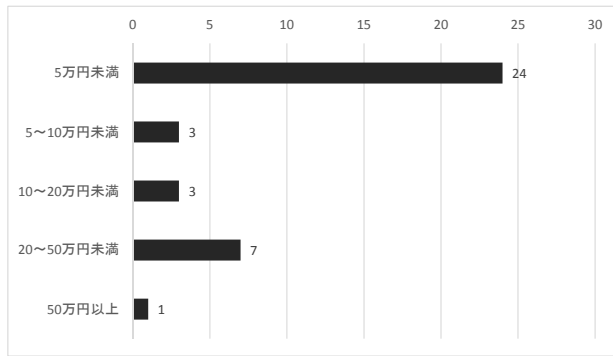
平均：大人 469人 子供 557人

図 16-2-6 支出額 n=83



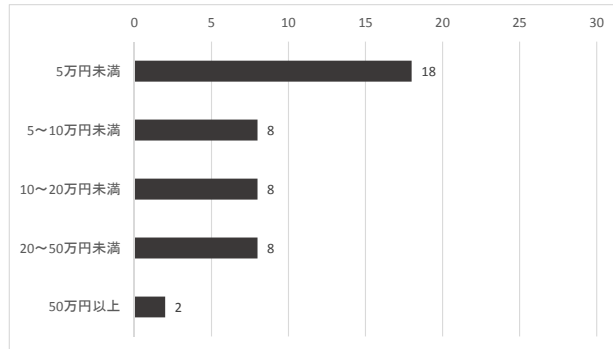
平均：¥358,169

図 16-2-7 収入内訳（①会費・参加費） n=38



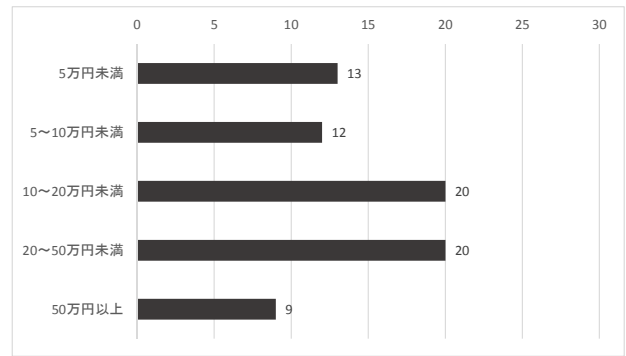
平均：¥82,034

図 16-2-9 収入内訳（③寄附・協賛金） n=44



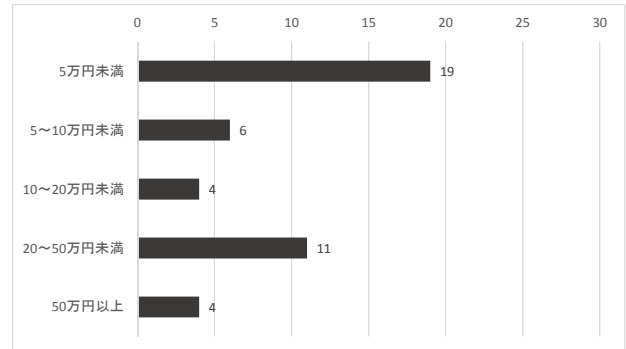
平均：¥120,955

図 16-2-8 収入内訳（②補助金・公費・委託料） n=74



平均：¥228,218

図 16-2-10 収入内訳（④物品等売上） n=44



平均：¥164,562

参加者の反応

- ・「好評だった」（30）

例：和太鼓、ゆかた、盆踊りや日本の夏の伝統文化を体験することができて良かった。

- ・「楽しかった」（25）

例：モットーは「出店者も来場者も楽しむ」なので、大人も子どもも、楽しんでいます。

- ・「毎年楽しみ、来年も参加したい」（14）

例：毎年実施している行事なので、しっかり定着しており、多くの住民が楽しみにしている。

実施後の影響

- ・「地域での交流が深まった」（51）

例：他の学校の子供たちとの交流体験ができ、地域の輪が広がっています。

- ・「異世代間の交流」（46）

例：子どもやその保護者、地域の高齢の方など、多世代が参加しています。

- ・「その他」

例：中学生の出店により、利益をユニセフへ寄付する等、社会にも貢献できました。

取組のポイント

- ・「地域での交流」（41）

例：厳寒の季節に外に出て、地域の方々と楽しみを共にする。

- ・「異世代間の交流」（15）

例：いろいろな世代の人達との交流と、子どもの自主性を尊重します。

- ・「その他」

例：地域の中学生、大学生にもボランティアとしてイベントの運営に参加してもらっています。

今後の課題

- ・「人材確保」（22）

例：メンバーが固定化し、高齢化が進んでおり、新たな担い手を見つけていく必要があります。

- ・「参加者の増減」（10）

例：まつりが大きくなり、会場を中学に移したいが、部活等の問題があり、困っている。

- ・「その他」

例：準備、打ち合わせ等の時間を十分に設けることができない。

18 宿泊キャンプ（53件）

●活動の時期は「7月」（26件）、「8月」（24件）とほとんど夏休みの時期に実施されています。準備期間は「1～3ヶ月」（30件）が過半数を占めています。

スタッフは、平均して「委員」が21人、「ボランティア」15人、「子供」29人程で、団体は「小学校」（35件）や「PTA」（32件）からの協力を得ています。参加者は「大人」が「50人未満」（35件）に対し、「子供」が「50～100人」（26件）で子供が主体の活動です。

支出額は10～200万円未満で団体ごとにばらつきがあり、収入内訳では「会費・参加費」と「補助金・公費・委託料」が「20～50万円未満」（16件、17件）で中心となっています。

図 16-3-1 活動の時期（複数回答）

n=53

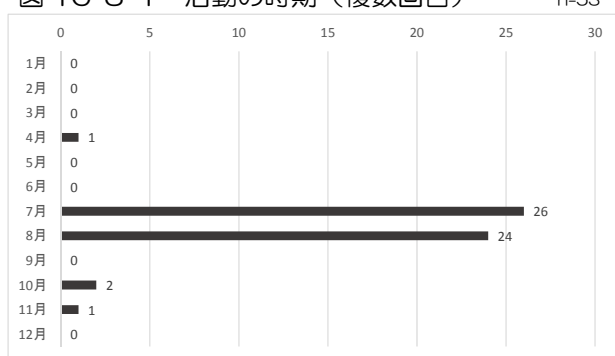


図 16-3-2 準備期間

n=53

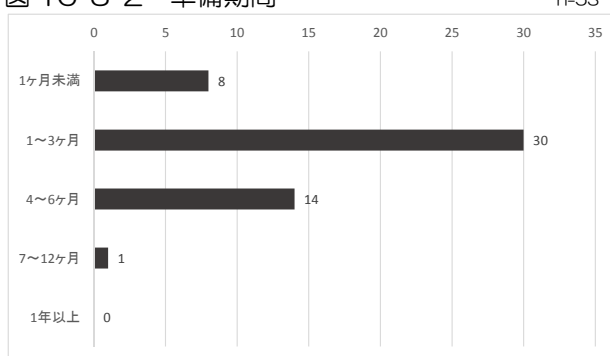


図 16-3-3 スタッフ数

n=50

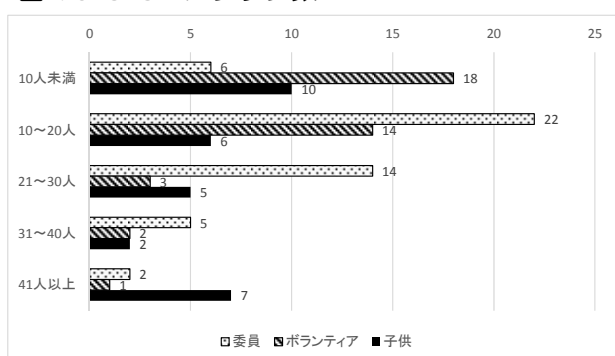
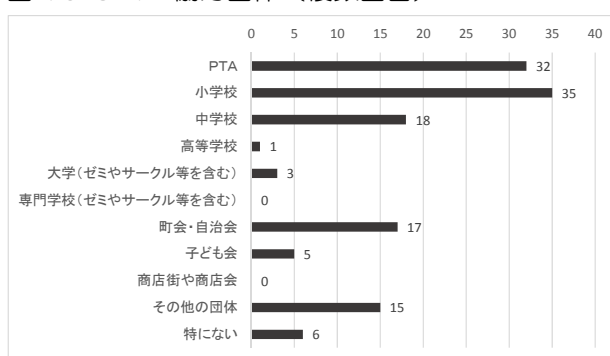


図 16-3-4 協力団体（複数回答）

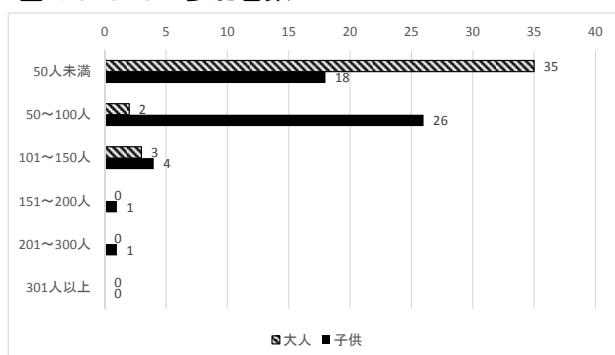
n=53



平均：委員 21 人 ボランティア 15 人 子供 29 人

図 16-3-5 参加者数

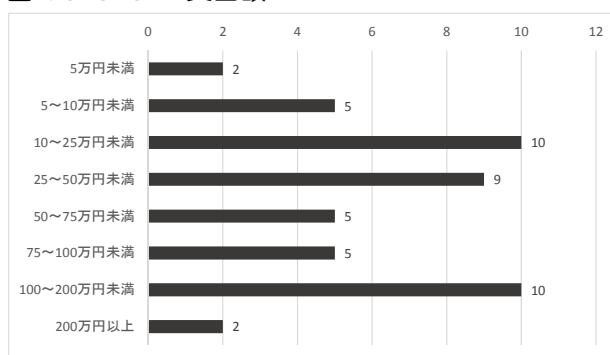
n=51



平均：大人 31 人 子供 67 人

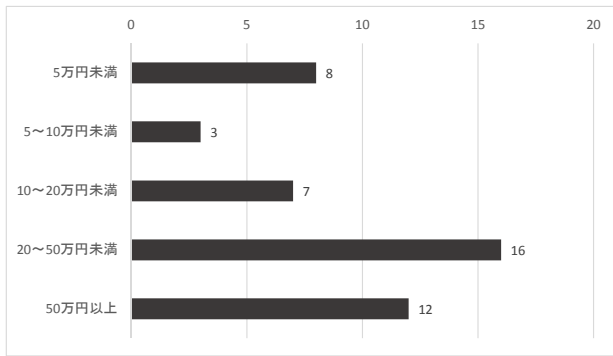
図 16-3-6 支出額

n=48



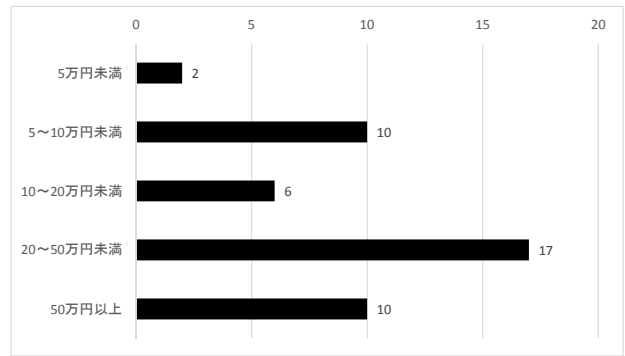
平均：¥693,142

図 16-3-7 収入内訳（①会費・参加費） n=46



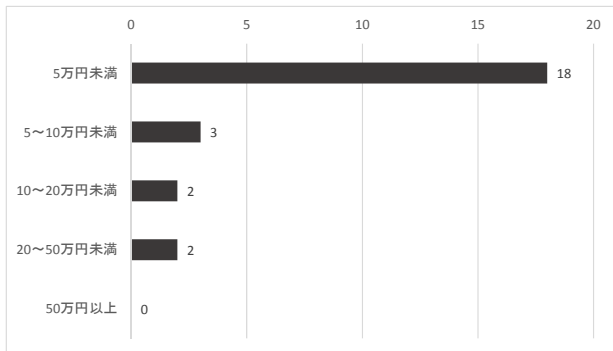
平均：¥377,309

図 16-3-8 収入内訳（②補助金・公費・委託料） n=45



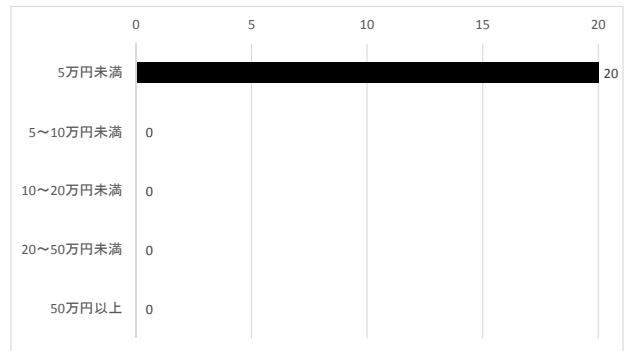
平均：¥357,147

図 16-3-9 収入内訳（③寄附・協賛金） n=25



平均：¥46,927

図 16-3-10 収入内訳（④物品等売上） n=20



平均：¥90

参加者の反応

- ・「楽しかった」（16）

例：カレーづくりに悪戦苦闘したことが楽しかった。

- ・「好評だった」（14）

例：自然と触れあい、他校の子とも仲良くなれた。班の仲間と協力し合えた。

- ・「毎年楽しみ、来年も参加したい」（10）

例：多くの参加者から来年度また参加したいという反応がある。

実施後の影響

- ・「異世代間の交流」（23）

例：自然の中で貴重な体験を通して、他校や他学年の子達とも交流ができました。

- ・「地域での交流」（22）

例：管内の他の学校にも友達ができ、交流が深まった。

- ・「その他」

例：役割分担して、協力しあい、意見が分かれた場合は話し合うことを学びました。

取組のポイント

- ・「地域での交流」（22）

例：大人から小学生まで積極的に関わりを持つようになった。

- ・「異世代間の交流」（12）

例：学年の違う子ども達が、協力して作業し、交流の場になっています。

- ・「その他」

例：集団生活を通して仲間同士の協力、友愛の心を養う。

今後の課題

- ・「人材確保」（13）

例：参加希望者が多い為、実行委員の人数が増えない限り、対応が難しい。

- ・「参加者の増減」（11）

例：参加者が募集定員より少ないため、参加者確保のための周知が必要である。

- ・「安全確保」（7）

例：食品アレルギー等の安全確保に不安がある。

20 野外遊び（71 件）

●活動の時期は「8月」（15 件）、「7月」（14 件）と夏休み時期が中心で、準備期間は「1～3ヶ月」（48 件）が多いです。

スタッフは、平均して「委員」が 43 人、「ボランティア」19 人、「子供」19 人程で、委員が中心となっており、団体は「小学校」（40 件）、「PTA」（34 件）、「町会・自治会」（30 件）からの協力を得て実施しています。参加者数は「大人」が「50 人未満」（30 件）、「子供」が「50 人未満」・「50～100 人」（ともに 21 件）と比較的小規模で行われています。

支出額は「25～50 万円未満」（14 件）が中心で、収入内訳では「補助金・公費・委託料」の「20～50 万円未満」（23 件）、「会費・参加費」の「5 万円未満」（17 件）・「20～50 万円未満」（15 件）が多くなっています。

図 16-4-1 活動の時期（複数回答）

n=71

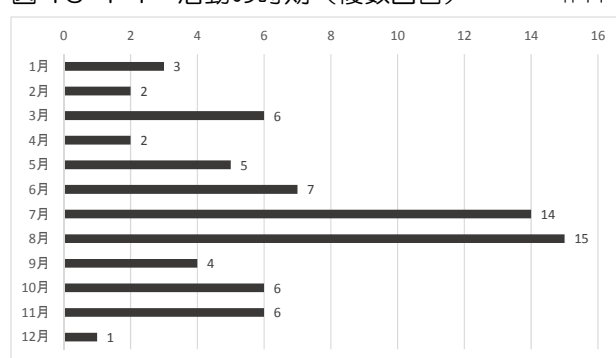


図 16-4-2 準備期間

n=70

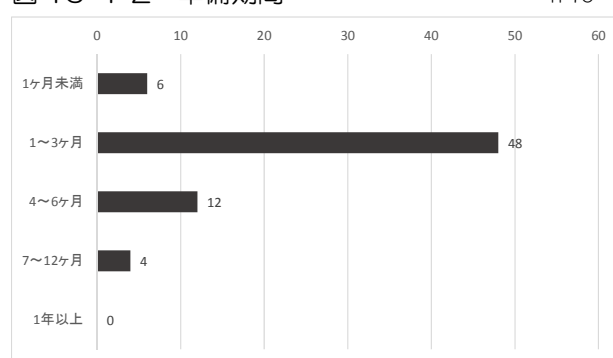
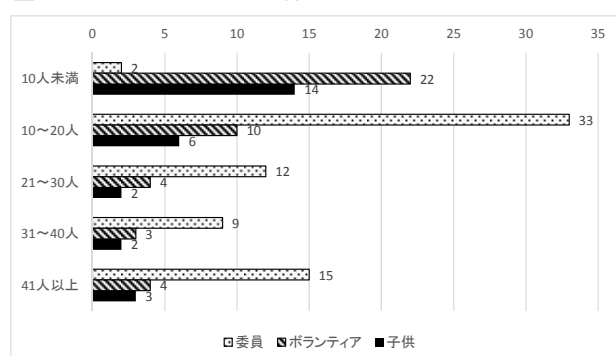


図 16-4-3 スタッフ数

n=71



平均：委員 43 人 ボランティア 19 人 子供 19 人

図 16-4-4 協力団体（複数回答）

n=68

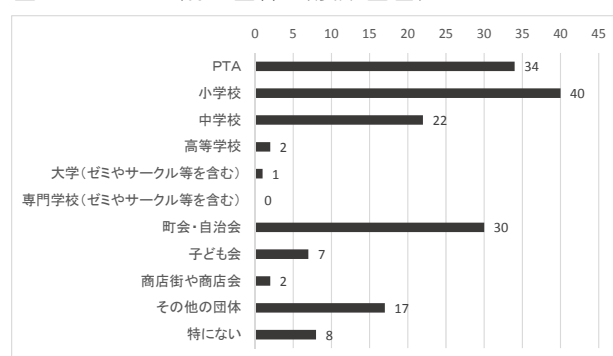
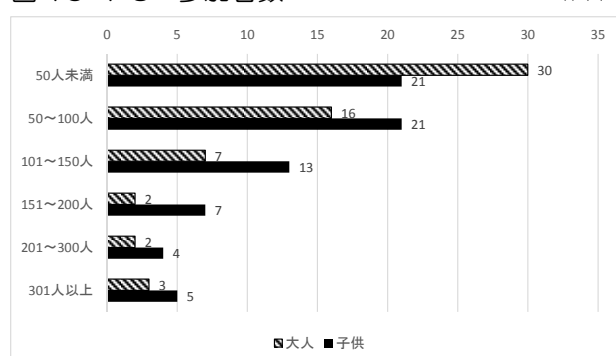


図 16-4-5 参加者数

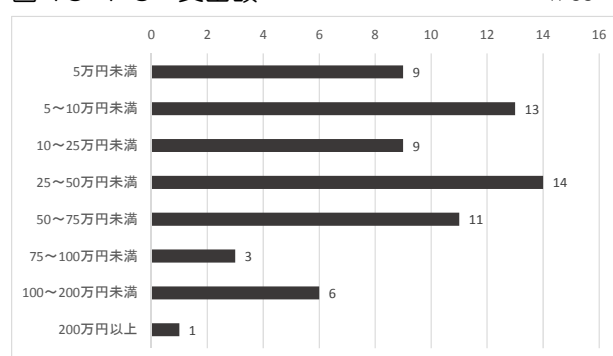
n=71



平均：大人 192 人 子供 247 人

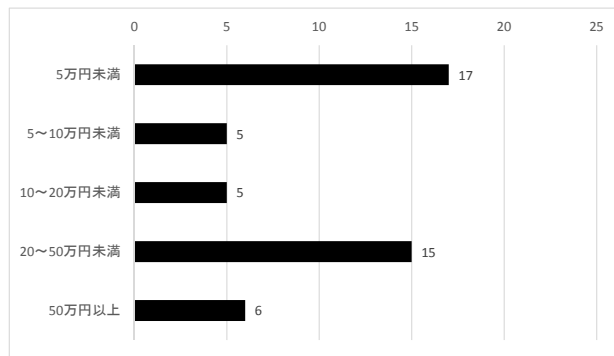
図 16-4-6 支出額

n=66



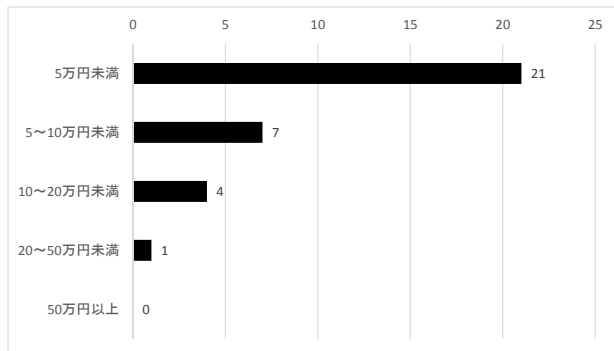
平均：¥417,941

図 16-4-7 収入内訳（①会費・参加費） n=48



平均：¥260,244

図 16-4-9 収入内訳（③寄附・協賛金） n=33



平均：¥48,127

参加者の反応

- ・「楽しかった」（27）

例：自然と触れ合えて思い切り遊べたので楽しかったという反応が多かった。

- ・「好評だった」（19）

例：家族や地域の人と一緒に楽しめること等参加者からは毎年好評を得ている。

- ・「異世代間の交流」（8）

例：親から離れて少し開放感があり、学校の林間学校と違い、他校の生徒と交流。

実施後の影響

- ・「異世代間の交流」（50）

例：地域の中学生在がボランティアとして参加。異世代間の交流が深まりました。

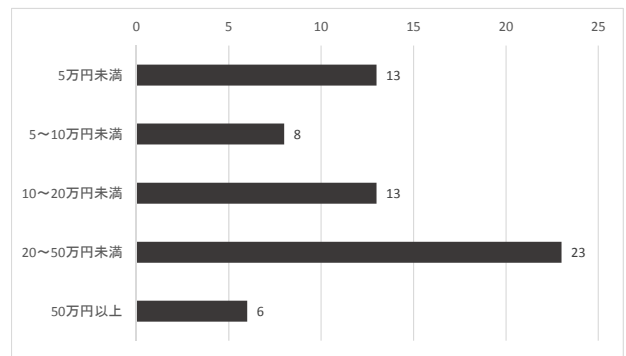
- ・「地域での交流」（17）

例：家族、友人との交流が深まり、自分の住む地域について知ることができた。

- ・「その他」

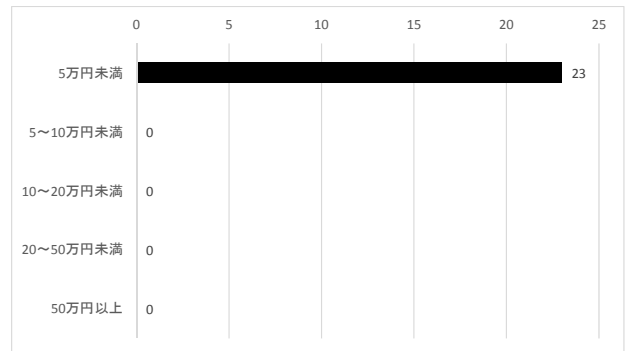
例：ふだんあまりできない川遊びは、とても楽しく、親子で共に遊べるのが子どもにも良い。

図 16-4-8 収入内訳（②補助金・公費・委託料） n=63



平均：¥219,661

図 16-4-10 収入内訳（④物品等売上） n=23



平均：¥1,813

取組のポイント

- ・「地域での交流」（16）

例：毎年、実施する内容を変更し、楽しんでふれあえるように事業を計画しています。

- ・「異世代間の交流」（12）

例：地域を越えた交友関係。中学生ボランティアとのコミュニケーションを楽しめます。

- ・「安全対策」（12）

例：子ども達の安全に配慮しつつ、全力で楽しんでもらえるようなスケジュールに努めました。

今後の課題

- ・「参加者の増減」（9）

例：参加者が固定化してきているので、新しい人にも参加できる仕組みをつくらなければならない。

- ・「安全確保」（8）

例：炎天下の公園等で、いかにして熱中症や体調不良者を出さないかを検討。

- ・「その他」

例：町会ごとのつながりを創出できる場にしていきたいです。

21 スポーツ（141 件）

●活動の時期は「11 月」（30 件）、「10 月」（29 件）が多くなっていますが、他の月でも一定の実施数がみられます。毎月・隔月など年間を通して行っている団体もあります。

スタッフは、平均して「委員」が 40 人、「ボランティア」43 人、「子供」27 人程で、協力団体は「小学校」（98 件）、「PTA」（91 件）が多いです。参加者は、平均して「大人」が 170 人、「子供」が 241 人程で子供の参加が多いです。

支出額は「10～25 万円未満」（40 件）が中心で、収入内訳では「補助金・公費・委託料」や「会費・参加費」が同程度の金額で活動を支えています。

図 16-5-1 活動の時期（複数回答）

n=139

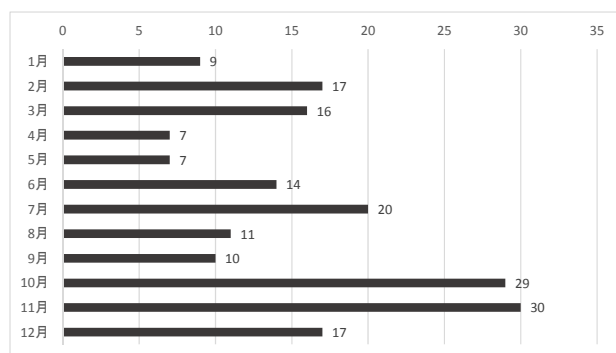


図 16-5-2 準備期間

n=136

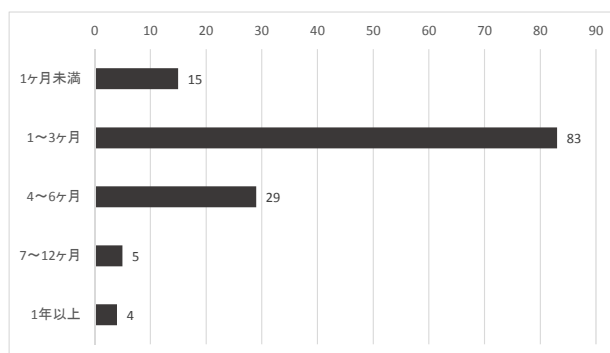
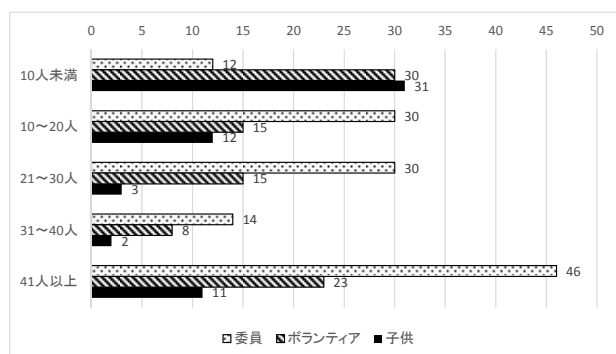


図 16-5-3 スタッフ数

n=133



平均：委員 40 人 ボランティア 43 人 子供 27 人

図 16-5-4 協力団体（複数回答）

n=135

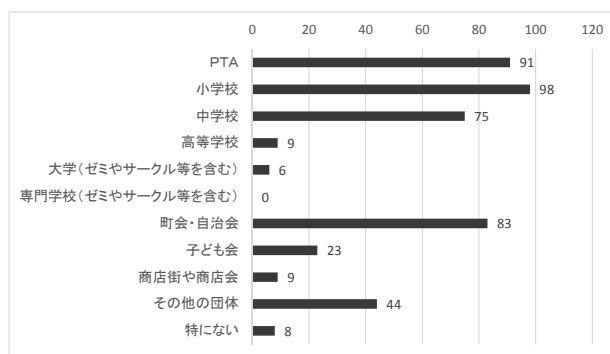
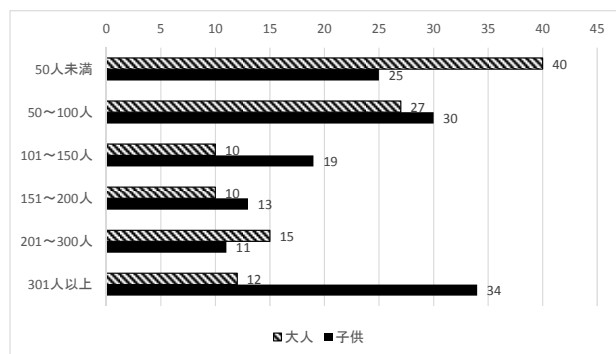


図 16-5-5 参加者数

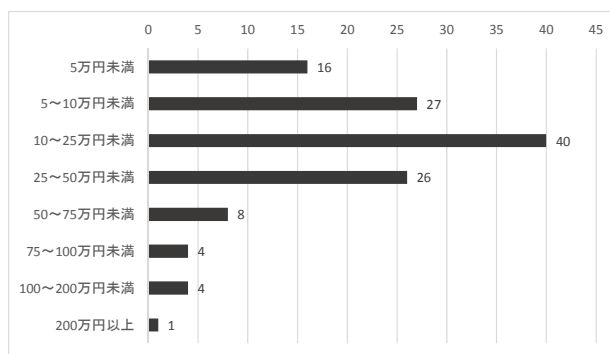
n=108



平均：大人 170 人 子供 241 人

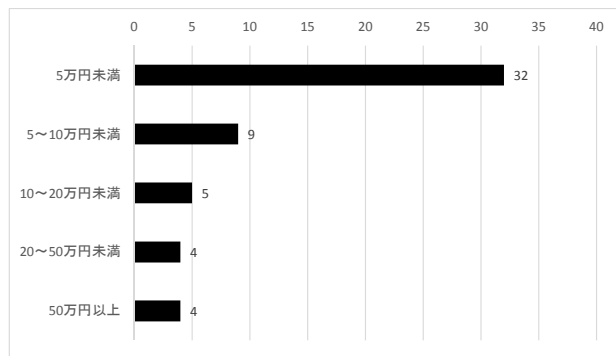
図 16-5-6 支出額

n=126



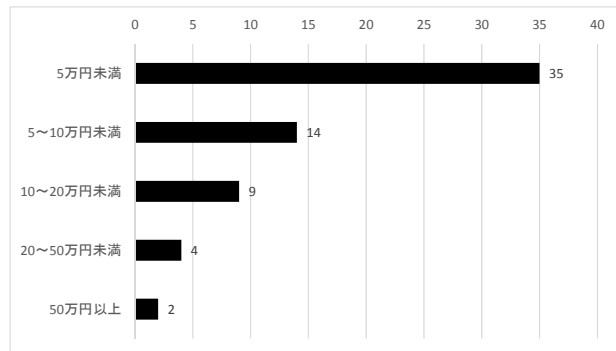
平均：¥273,870

図 16-5-7 収入内訳（①会費・参加費） n=54



平均：¥159,022

図 16-5-9 収入内訳（③寄附・協賛金） n=64



平均：¥92,211

参加者の反応

- ・「楽しかった」（44）

例：学校では廃止になった競技を実施しました。
みんな楽しく参加していました。

- ・「好評だった」（43）

例：初めてアイススケートを行った子どもでも、
大きく上達し、喜んでいました。

- ・「毎年楽しみ、来年も参加したい」（15）

例：楽しかったので、来年も参加したいという
感想を多くもらいました。

実施後の影響

- ・「異世代間の交流」（69）

例：異世代間の交流が深まった。高校生の参加
者が子ども達の面倒をみていた

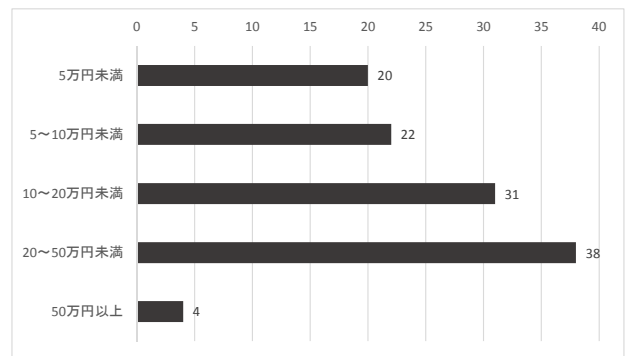
- ・「地域での交流」（58）

例：地域の絆、結束力が高まりました。健全な
スポーツマン精神が育まれています。

- ・「その他」

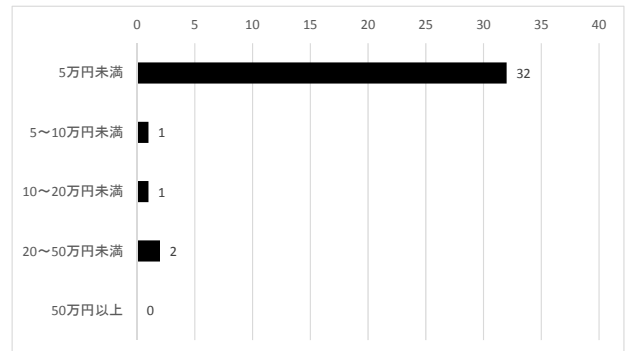
例：スポーツを通じて、頑張ることの大切さを
学んでくれました。

図 16-5-8 収入内訳（②補助金・公費・委託料） n=115



平均：¥180,237

図 16-1-10 収入内訳（④物品等売上） n=36



平均：¥19,444

取組のポイント

- ・「地域での交流」（16）

例：地域で子どもをみまもり、交流の場となるよう
にしています。

- ・「異世代間の交流」（12）

例：幼児から大人まで混ざって、スポーツを通じル
ールを守りながらスポーツを楽しむ。

- ・「安全対策」（12）

例：事故の無いよう、誘導、車での伴走にも手を抜
かない。全ての交差点で見守をつけます。

今後の課題

- ・「参加者の増減」（31）

例：地域の方の参加が少なく、どう一般の方の参加
を増やすかが課題です。

- ・「人材確保」（21）

例：高齢化で、新たな担い手を見つけていく必要が
あります。

- ・「その他」

例：新しく地域に移住して来た方々との接点。どう
取り組んでいくかが課題です。

28 伝統文化（40 件）

●活動の時期は「1 月」（23 件）が約 60%となっています。

スタッフは、平均して「委員」が 41 人、「ボランティア」33 人、「子供」40 人程度で、協力団体は「PTA」、「小学校」とともに 31 件ずつとなっています。参加者数は「大人」も「子供」も 200 人程ではほぼ同数です。

支出額は「5～10 万円未満」（12 件）が中心で、収入の内訳は「補助金・公費・委託料」が中心ですが、「寄附・協賛金」が多い団体もあります。前述の 4 つの活動と比較すると総額も少額なのが特徴です。

図 16-6-1 活動の時期（複数回答） n=39

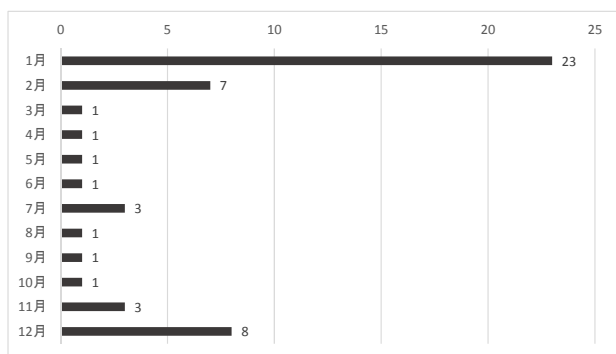


図 16-6-2 準備期間 n=40

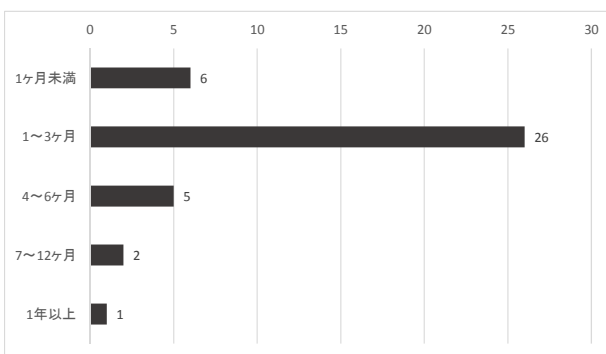


図 16-6-3 スタッフ数 n=38

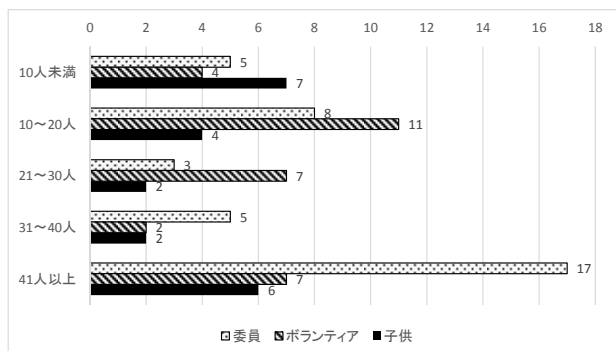
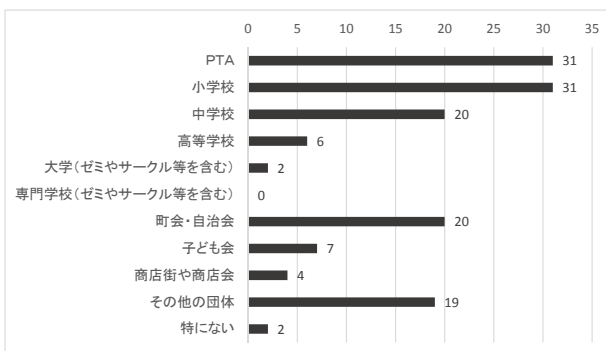
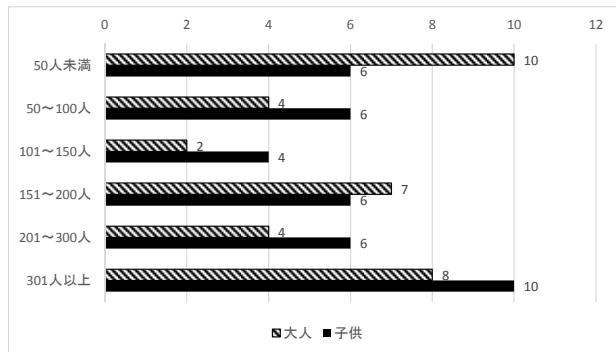


図 16-6-4 協力団体（複数回答） n=40



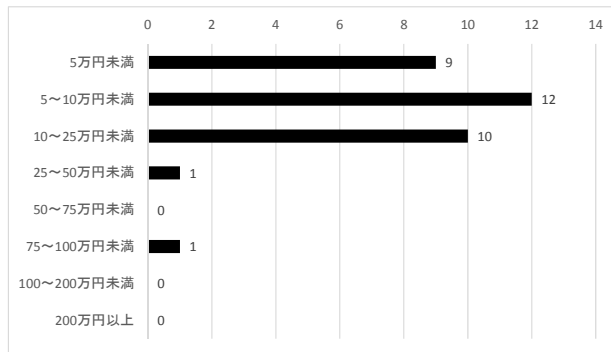
平均：委員 41 人 ボランティア 33 人 子供 40 人

図 16-6-5 参加者数 n=39



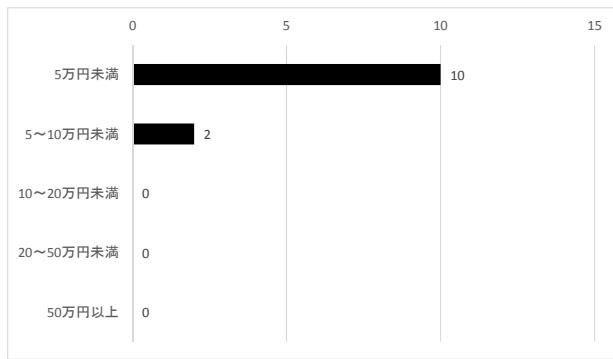
平均：大人 211 人 子供 216 人

図 16-6-6 支出額 n=33



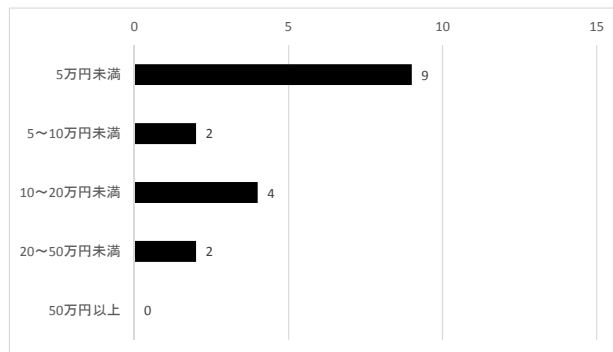
平均：¥115,252

図 16-6-7 収入内訳（①会費・参加費） n=12



平均：¥26,454

図 16-6-9 収入内訳（③寄附・協賛金） n=17



平均：¥72,800

参加者の反応

- ・「好評だった」（19）

例：様々なブースを用意しているので、子どもからお年寄りまで楽しめるとリピーターが多い。

- ・「楽しかった」（8）

例：紙花作りなどの協同作業も楽しんでやっていました。

- ・「異世代間の交流」（4）

例：異世代間の交流と相互理解、伝統文化の理解が深まりました。

実施後の影響

- ・「地域での交流」（23）

例：地域活動の参加意識が強くなりました。

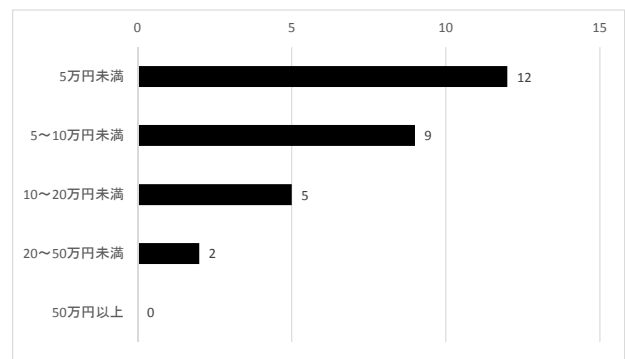
- ・「異世代間の交流」（17）

例：学生は、小学生を思いやり、小学生はお兄さんお姉さんと遊べて大変喜んだ。

- ・「その他」

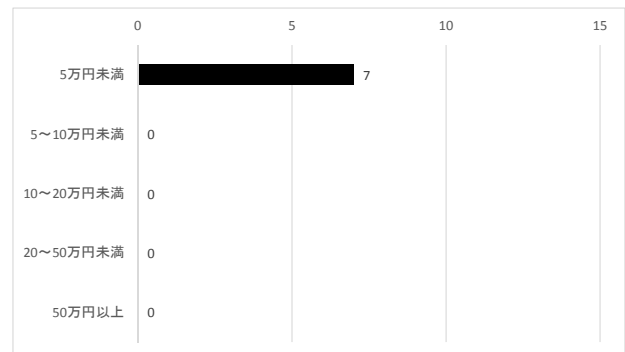
例：ハイテク遊びになれている子ども達にとって昔遊びは新鮮で充実したひと時となった。

図 16-6-8 収入内訳（②補助金・公費・委託料） n=28



平均：¥91,480

図 16-6-10 収入内訳（④物品等売上） n=7



平均：¥1,000

取組のポイント

- ・「地域での交流」（15）

例：地域全体で行なっています。伝統文化を体験してもらいます。

- ・「異世代間の交流」（6）

例：世代を超えて、地域の大勢の方々と共に、無病息災を祈る伝統行事を行なっています。

- ・「伝統文化」（4）

例：昔あそびができる町内の高齢者にボランティアとして参加していただきました。

今後の課題

- ・「人材確保」（10）

例：役員の減少と共に、大きな行事は役員にかかる負担が大きいため、改善方法を考える。

- ・「場所確保」（4）

例：今回の実施場所が 29 年度をもって使用できなくなるため、開催場所の確保が課題です。

- ・「その他」

例：遊びのノウハウを知っている地域の大人が少なくなっている。

問 17

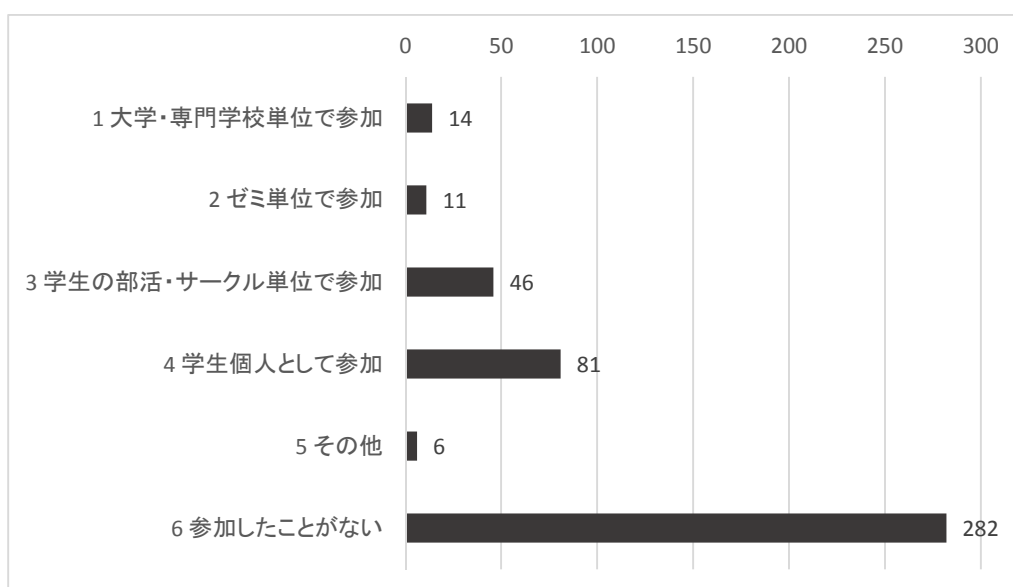
これまでに貴委員会の活動に、大学・専門学校及びその学生（ゼミ、サークルを含む）が参加されたことがありますか。（該当するものすべてに○をつけてください）。

●大学・専門学校及びその学生の委員会活動への参加状況としては、「参加したことがない」（282 件）が最も多く、次いで、「学生個人として参加」（81 件）、「学生の部活・サークル単位で参加」（46 件）となっています。

大学・専門学校及びその学生が委員会の活動に参加することは少なく、参加する場合は、個人としての参加が多いということがわかります。

図 17 大学生等の参加（複数回答）

n=413



●大学生等の具体的な参加の仕方としては、「スケートの指導者」、「ポッチャ体験の審判」、「ビーチボール大会の審判」、「キャンプへの随員」、「地域のまつりの手伝い」等があり、委員会でのスポーツ、キャンプ、地域のまつり等の活動時に大学生等が参加していることがわかりました。

また、自身が子供の頃に参加した地域の活動に、大学生になってからは引率者として参加しているという方もいました。

参加する中での課題としては、「日程調整」、「活動費の支払」、「傷害保険の加入」、「学生への指示の出し方」、「毎年学生が入れ替わってしまいノウハウの継承が難しい」というものがありましたが、「特に問題はない」という委員会も多くありました。

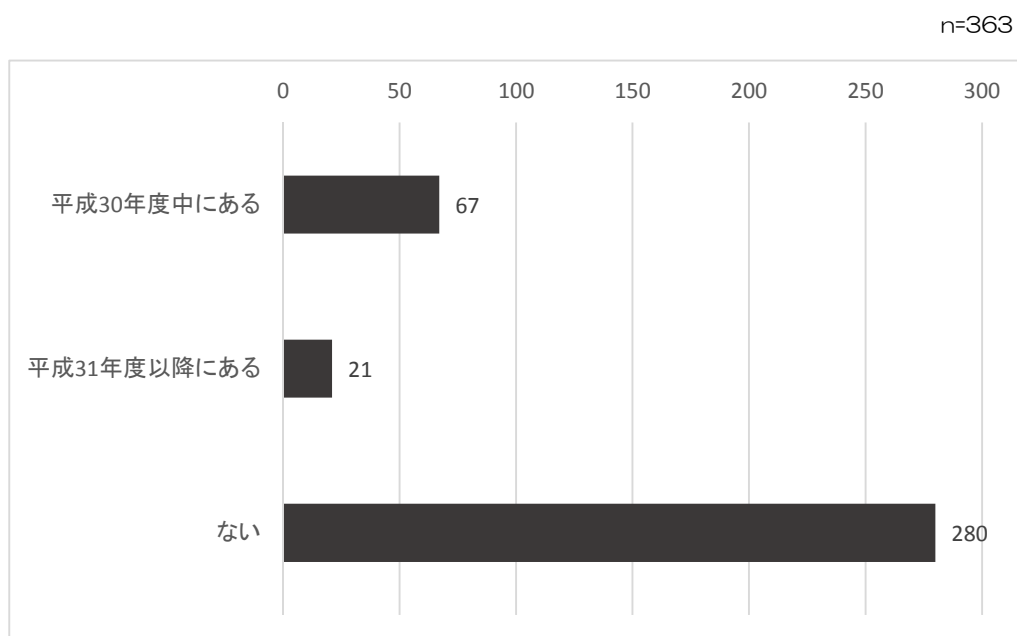
問 18

今後、貴委員会の活動で、大学・専門学校及びその学生（ゼミ、サークルを含む）と連携・協力を希望する事業について具体的にお答えください。

●委員会の活動で、大学・専門学校及びその学生と連携・協力を希望する事業については、「ない」（280件）が最も多く、次いで「平成30年度中にある」（67件）、「平成31年度中にある」（21件）となっています。

大学・専門学校及びその学生との連携・協力の希望について、「平成30年度中にある」、「平成31年度中にある」と答えた委員会が抱えている課題・助けになるものとしては、問14の回答状況とおおむね一致しています。

図 18-1 大学生等との連携・協力の希望について（複数回答）



●大学生等に連携・協力を希望する内容としては、「科学実験教室の指導」、「スポーツやサークル活動の紹介」、「地域の行事を行う際の大人と子供の橋渡し」等がありました。

連携・協力してもらう際に心配なこととしては、「連絡調整」、「突然のキャンセル」、「謝礼や交通費の支払」、「子供に対する言葉づかいや対応」、「参加した学生が卒業した後の引継」等がありました。



図 18-2 大学生等との連携・協力の希望があると答えた委員会の人的な面の課題

(複数回答) n=83

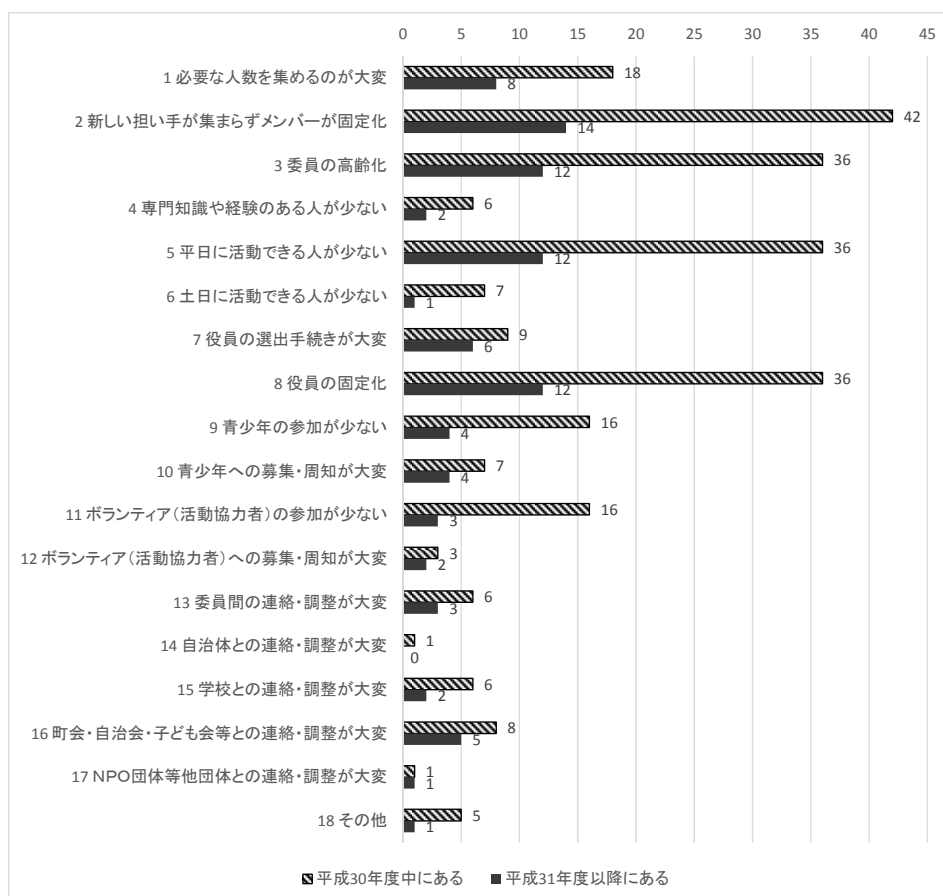


図 18-3 大学生等との連携・協力の希望があると答えた委員会の人的面以外の課題

(複数回答) n=83

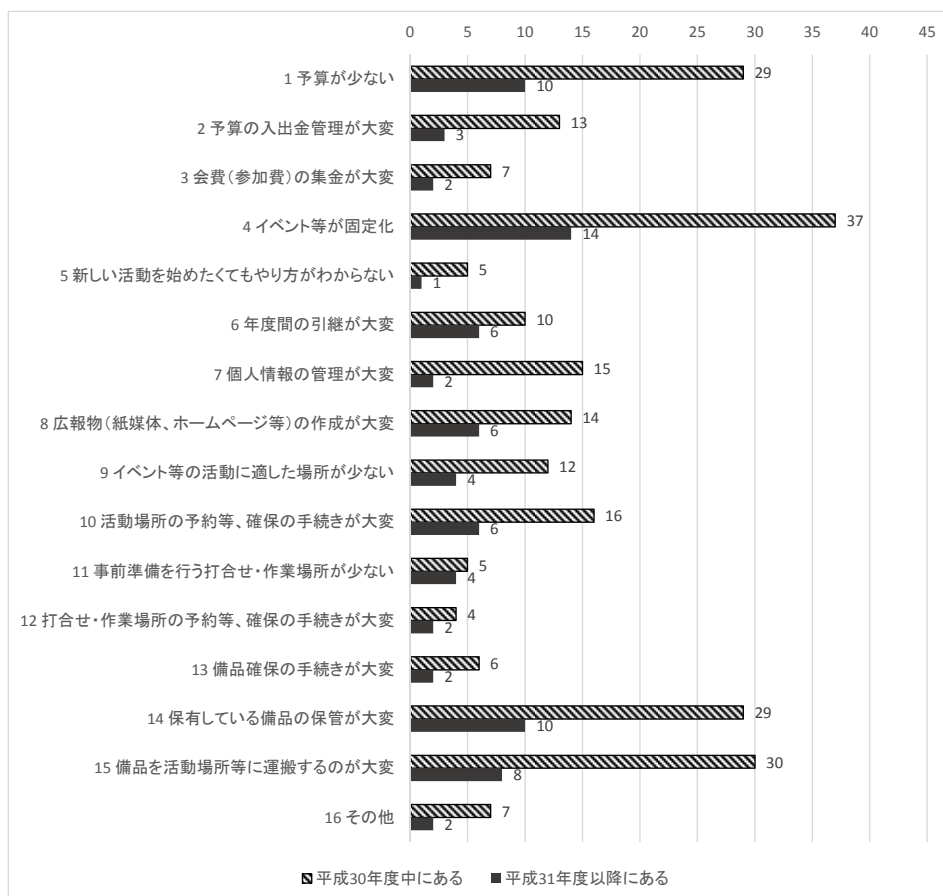
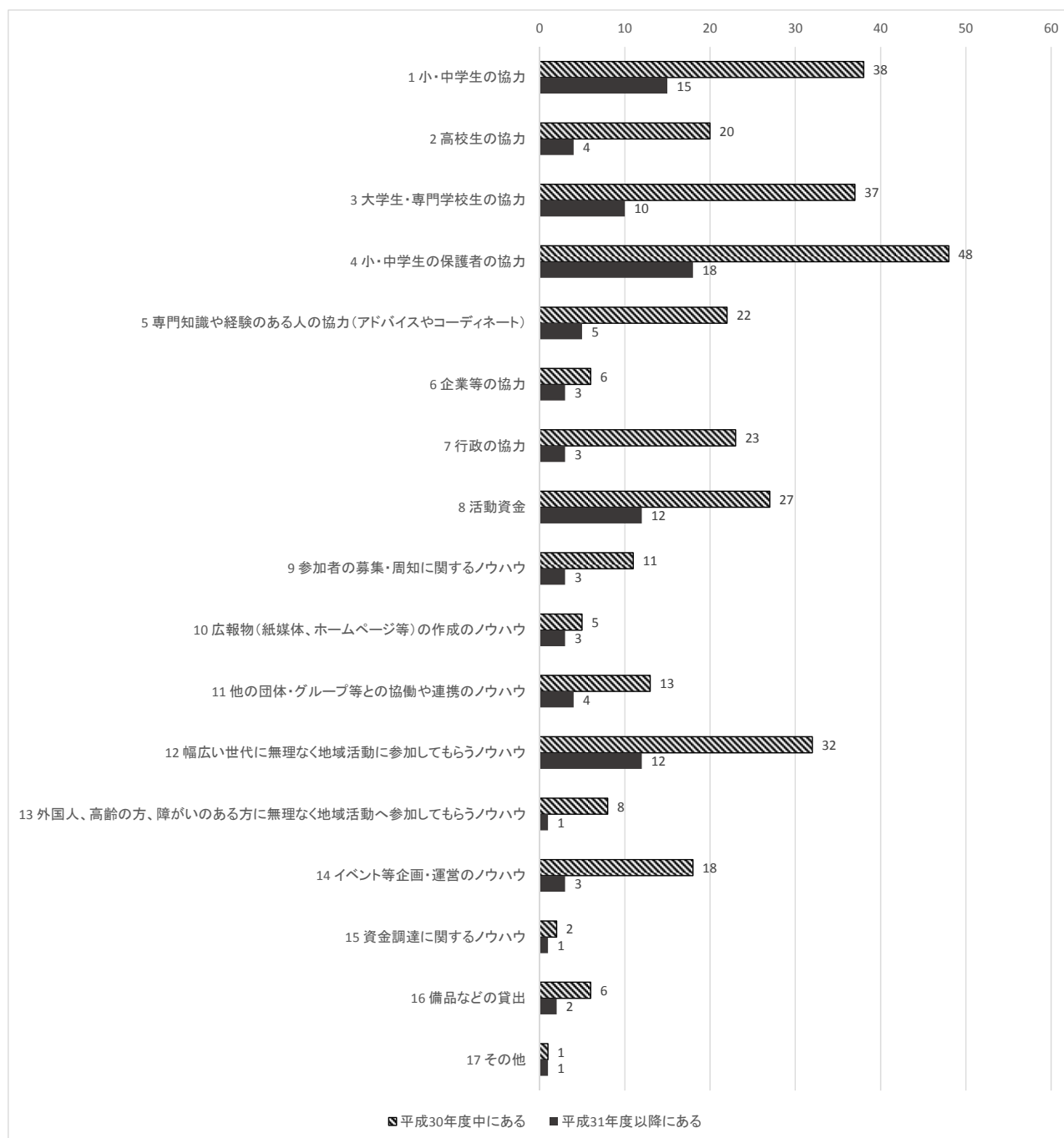


図 18-4 大学生等との連携・協力の希望があると答えた委員会の今後助けになるもの

(複数回答) n=83



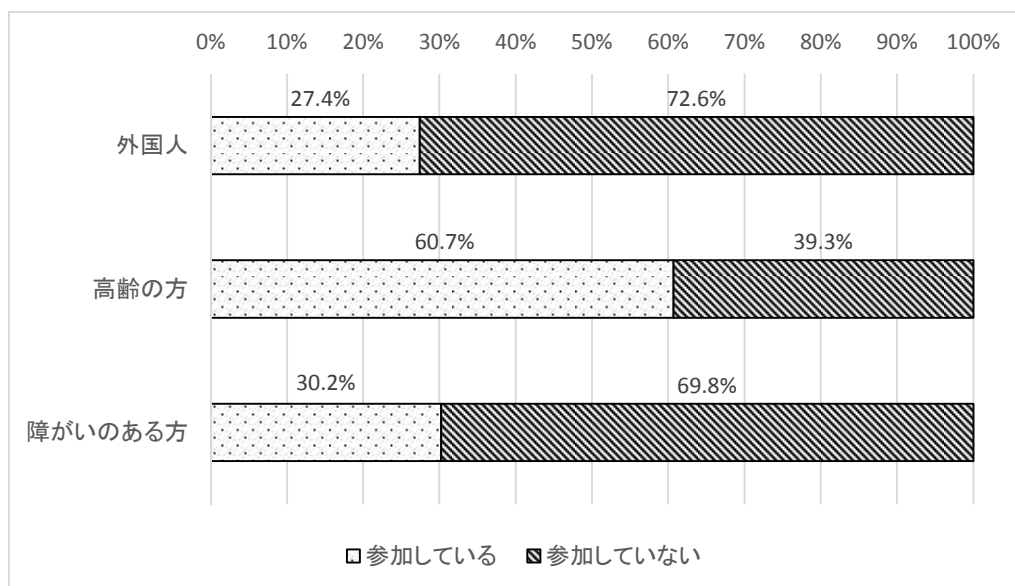
18 外国人・高齢者・障がい者の参加

問19

貴委員会の活動に、外国人、高齢の方、障がいのある方も参加されていますか。外国人、高齢の方、障がいのある方それぞれについて、1つずつ〇をしてください。

- 委員会の活動への参加状況として、外国人は「参加していない」(72.6%)、高齢の方は「参加している」(60.7%)、障がいのある方は「参加していない」(69.8%)がそれぞれ最も高くなっています。
高齢の方の参加が多く、外国人と障がいのある方の参加は少ないということがわかります。

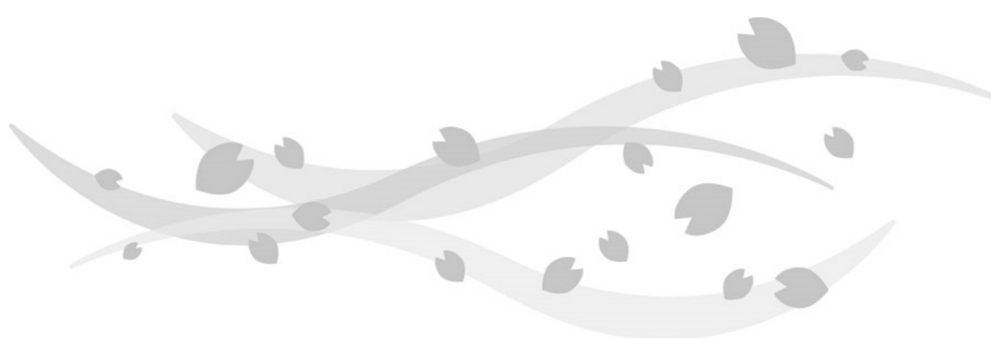
図 19-1 委員会の活動への、外国人・高齢の方・障がいのある方の参加



外国人 n=401

高齢の方 n=412

障がいのある方 n=407



問 19-1

問 19 で「1 参加している」とお答えになった方におうかがいします。それはどのような取組ですか。

●参加している活動としては、外国人、高齢の方、障がいのある方ともに「1 地域のまつり」(38 件、98 件、46 件)、「21 スポーツ」(33 件、64 件、26 件)の順となっています。3 番目に参加が多い活動としては、外国人では「20 野外遊び」(15 件)、「28 伝統文化」(15 件)、高齢の方では「10 見守りパトロール」(37 件)、障がいのある方では「28 伝統文化」(13 件)、「31 社会奉仕活動(清掃など)」(13 件)となっています。

図 19-2 外国人の参加している活動(複数回答)

n=91

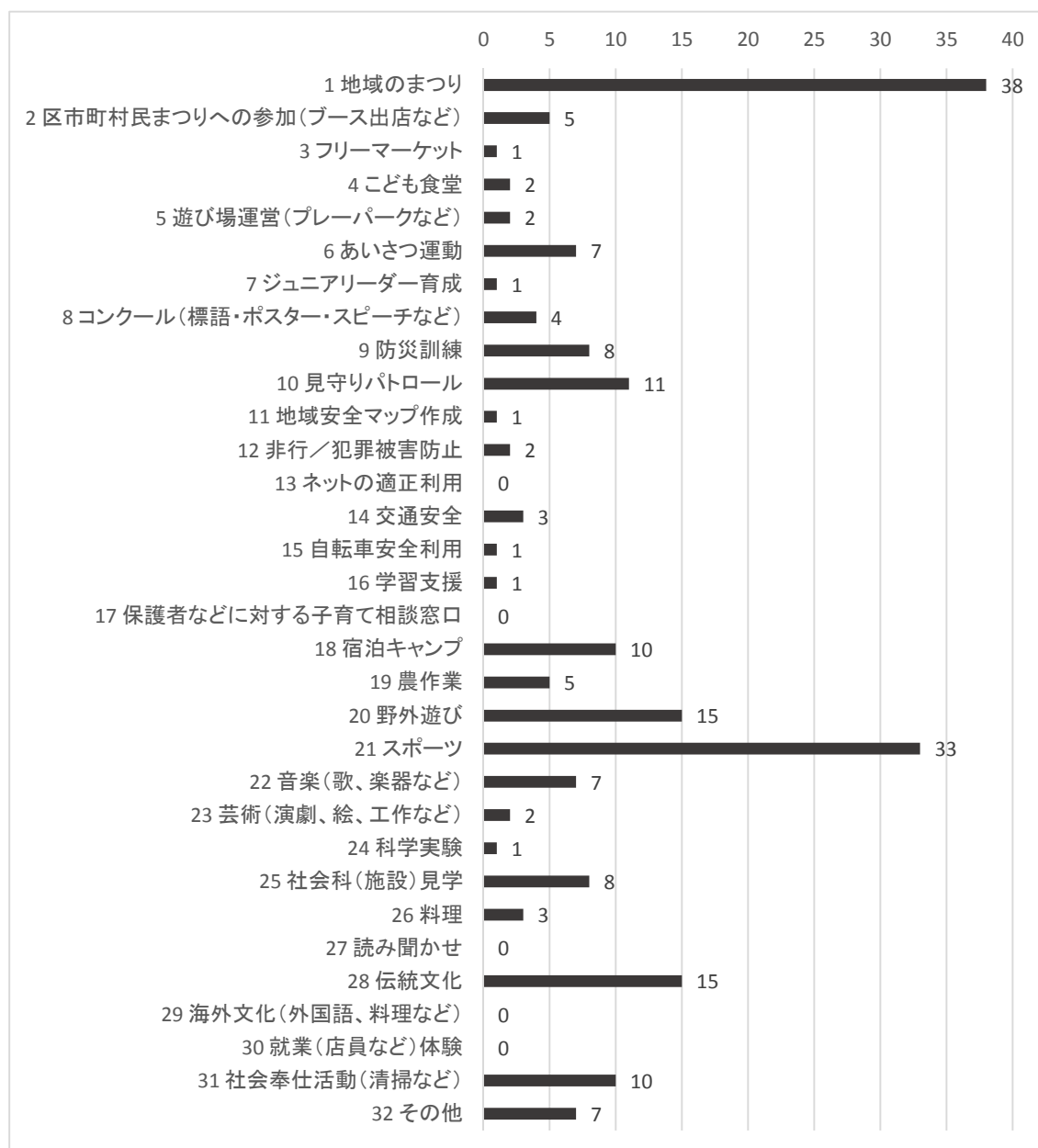


図 19-3 高齢の方の参加している活動（複数回答）

n=207

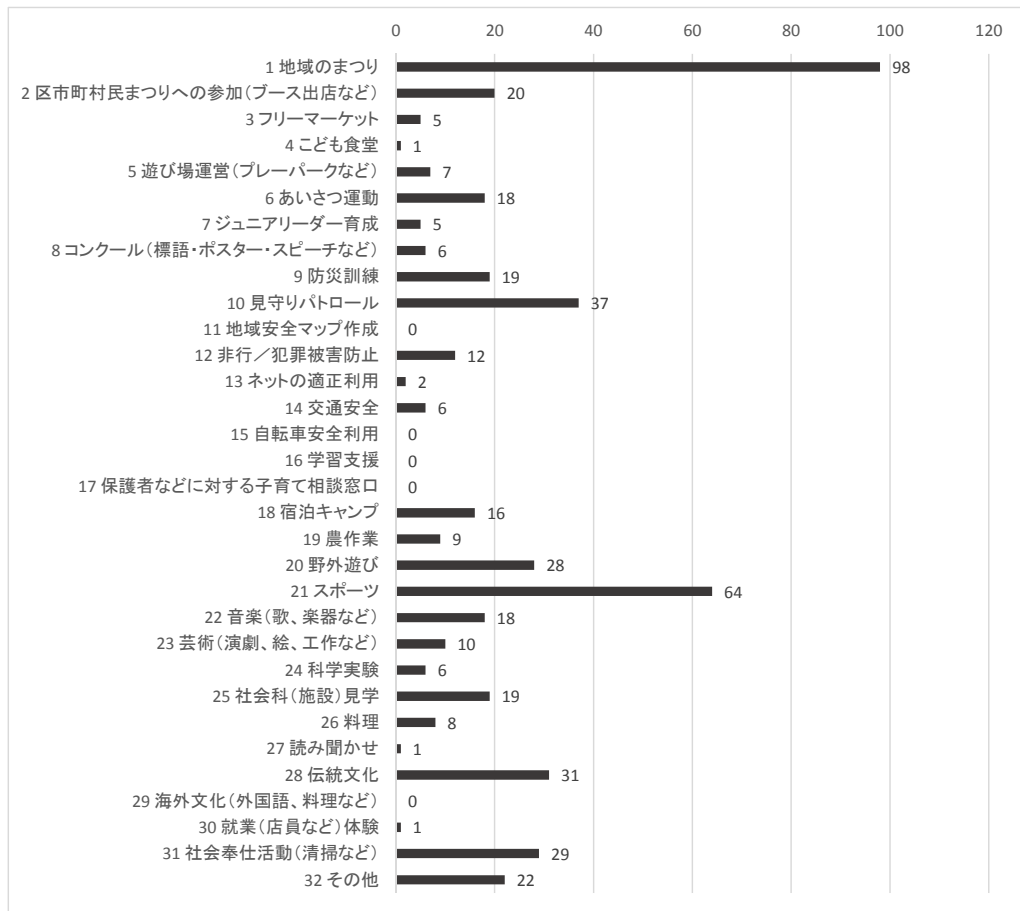
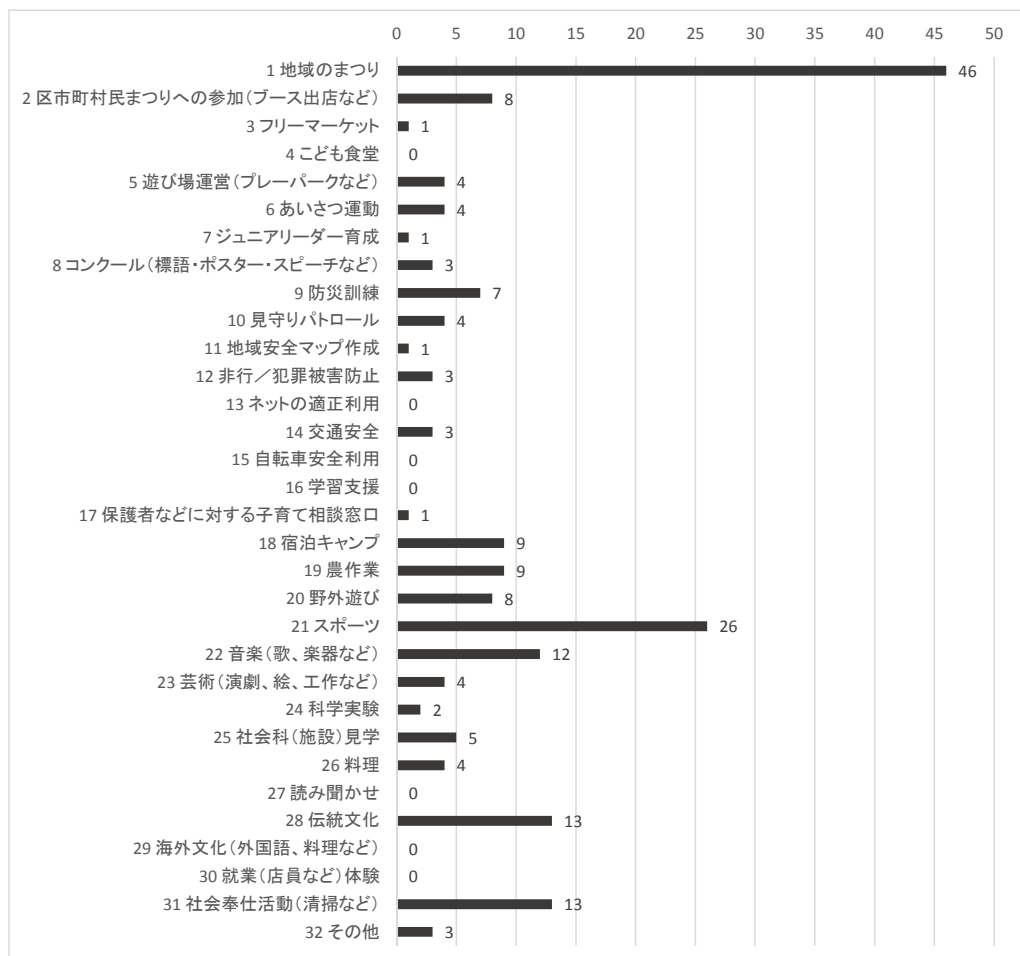


図 19-4 障がいのある方の参加している活動（複数回答）

n=104



問 20

以下の東京都青少年健全育成事業について、ご存知ですか。1～3の該当するものにそれぞれ○をつけてください。

●「ファミリールール講座」については、「名称・内容とも知っている」と「名称のみ知っている」を合わせた「名称を知っている」割合は約50%であり、「こたエール」について、「名称を知っている割合」は約43%、「若ナビα」について、「名称を知っている割合」は約33%となっています。

図 20-1 ファミリールール講座 n=398 (区部 217・市部 163・町村部 18)

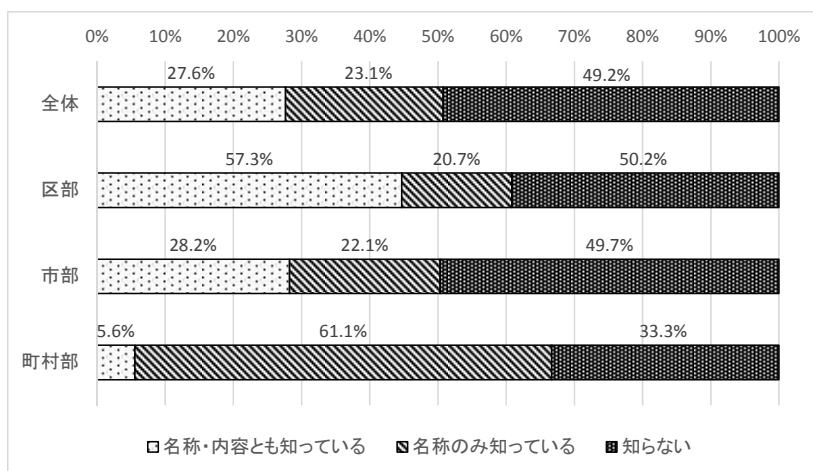


図 20-2 こたエール n=394 (区部 216・市部 160・町村部 18)

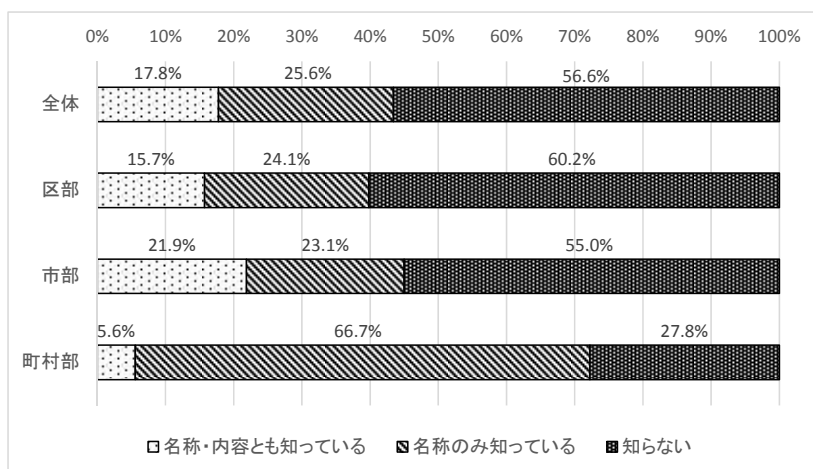
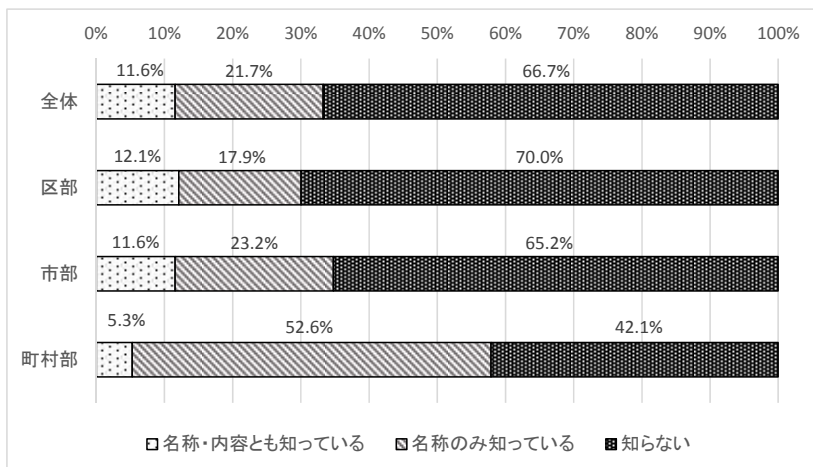


図 20-3 若ナビα n=406 (区部 223・市部 164・町村部 19)



第 3 章 調査のまとめ

1 地区委員会の主な特徴 ※（ ）内は「第2章 調査結果」の図の番号

● 予算と収入の内訳

委員会の予算は、「26～50 万円以下」が最も多く、全体の約 20%を占めています（図 2）。

また、全体の約半数が 100 万円以下の予算で活動しています（図 2）。

委員会の収入としては、区市町村等からの「補助金・公費・委託費」が全体の約 60%と、最も大きい割合を占めていますが（図 3-1）、その他には、「会費・参加費」、「物品等売上」、「寄附・協賛金など」があり、様々な形で収入があることがわかります。

● 構成人数と兼務の役割

委員会の構成人数は、「51～75 人」が最も多く、全体の約 30%を占めています（図 4-1）。構成人数の平均は 65 人であり、その内の半数以上が区市町村等からの委嘱を受けています（図 4-1、図 4-2、図 4-3）。

また、「地域の小・中学校のPTA役員」、「地域の小・中学校の教職員」、「町会、自治会代表」、「児童委員（民生委員）」といった様々な方が委員として活動しており（図 5、図 6）、学校関係者や、地域で中心となり活動する方が経験や知見を活かしながら委員会の中で大きな役割を担っていることが推察されます。

● 地域での活動

委員会が行う主な活動は、主催では、「スポーツ」、「見守りパトロール」、「野外遊び」が多く、協力では、「地域のまつり」、「区市町村民まつり」、「防災訓練」が多くなっています（図 8-1）。

地域の中で子供を見守る活動や、子供の体験を豊かにするような活動を委員会主催で行うとともに、規模の大きな地域交流事業や、地域の防災力を高める活動を、他団体と協力して取り組んでいることが多いようです。

● 協働・連携団体とつながり

委員会は、「小学校」、「PTA」、「中学校」、「町会・自治会」といった団体と日頃から協働・連携しており（図 11-1）、上記の「構成人数と兼務の役割」との関連性が見られます。

参加者等を募る際にも、多くの委員会が、「小・中学校、PTA」や、「町会・自治会、他の地区委員会」と協働・連携しています（図 12-2）。

また、「企業・団体関係」、「おやじの会」、「子ども会」、「スポーツ関係団体」、「高校・大学」とも協働・連携を図っており（図 12-2）、地域毎の様々なつながりを活用しながら活動に取り組んでいることが読み取れます。

● 委員会の課題

約70%の委員会が、「新しい担い手が集まらずメンバーが固定化」、「イベント等が固定化」という課題を抱えています（図14-1-1、図14-2-1）。

また、それ以外にも、「委員の高齢化」、「役員の固定化」、「平日に活動できる人が少ない」、「予算が少ない」、「備品を活動場所等に運搬するのが大変」といった課題を多くの委員会が抱えています（図14-1-1、図14-2-1）。

上記のような課題を抱える委員会の助けになるものとして、「小・中学生の保護者の協力」、「小・中学生の協力」、「幅広い世代に無理なく地域活動に参加してもらうノウハウ」等があり（図14-3-1）、外部の手助けや参加、様々なノウハウの提供を必要としていることが読み取れます。

次に、＜①人的な面／②人的な面以外での課題＞で多かった課題を選んだ委員会が、＜③今後助けになるもの＞として回答した項目の特徴を分析しました。それぞれの項目において回答数が異なるため、各回答数に対する割合で比較してみました。

今後助けになるもの			n	3 大学生の協力	5 専門家の アドバイス等	8 活動資金	11 他団体等との 連携ノウハウ	12 幅広い世代の 参加のノウハウ	15 資金調達の ノウハウ
			435	105 (24%)	112 (26%)	202 (46%)	101 (23%)	212 (49%)	21 (5%)
課題	①人的	メンバーの固定化	304	75 (25%)	81 (27%)	137 (45%)	78 (26%)	165 (54%)	16 (5%)
		委員の高齢化	236	63 (27%)	66 (28%)	104 (44%)	59 (25%)	129 (55%)	9 (4%)
		役員の固定化	217	51 (24%)	62 (29%)	99 (46%)	62 (29%)	114 (53%)	17 (8%)
	②それ 以外	イベントの固定化	270	59 (22%)	73 (27%)	126 (47%)	73 (27%)	151 (56%)	18 (7%)
		予算が少ない	183	41 (22%)	45 (25%)	135 (74%)	38 (21%)	88 (48%)	20 (11%)

①人的な面では、「メンバーの固定化」が課題の委員会は、他の課題を抱える委員会よりも、さらに「12 幅広い世代の参加のノウハウ」(+5%)や「11 他団体等との連携ノウハウ」(+3%)について、今後助けになると考えています。「委員の高齢化」が課題の委員会は、「12 幅広い世代の参加のノウハウ」(+6%)や「3 大学生の協力」(+3%)があると、今後助けになると考えています。「役員の固定化」が課題の委員会は、「11 他団体等との連携ノウハウ」(+6%)や「5 専門家のアドバイス等」(+3%)があると、今後助けになると考えています。

このように、「メンバーの固定化」などの課題を抱える委員会は、大学生等の幅広い世代の参加を呼び込むためのノウハウや、地域で活動する他の団体等との連携・協力のためのノウハウを今後の活動のために必要としていることがわかります。

また、②人的な面以外では、「イベントの固定化」が課題の委員会は、「12 幅広い世代の参加のノウハウ」(+7%)や「11 他団体等との連携ノウハウ」(+4%)があると、今後助けになると考えています。「予算が少ない」が課題の委員会は、「8 活動資金」(+28%)や「15 資金調達のノウハウ」(+6%)があると、今後助けになると考えています。

このように、「イベントの固定化」の課題を抱える委員会については、新しいメンバー等の参加や連携のためのノウハウを活用することによって生まれる新たなアイデアが助けになると考え、「予算が少ない」委員会では、資金や調達のためのノウハウを必要としていることがわかります。

● 大学生等の参加・連携・協力事業

大学・専門学校及びその学生が委員会の活動に参加することは少なく、参加する場合では、「学生個人として参加」が多くなっています（図 17）。

一方、平成 30 年度中または平成 31 年度中に連携・協力を希望している委員会は全体の約 25%となっています（図 18-1）。

● 外国人・高齢者・障がい者の参加

委員会の活動への参加は、高齢の方が多く、外国人と障がいのある方は少なくなっています（図 19-1）。

参加している活動としては、外国人、高齢の方、障がいのある方ともに「地域のまつり」、「スポーツ」が多くなっています（図 19-2、図 19-3、図 19-4）。

2 監修者による分析

文京学院大学 人間学部 コミュニケーション社会学科 助教
古市 太郎

【調査から見えるあるひとつの地区委員会のすがた】

予算	「26～50 万円以下」
収入	「補助金・公費・委託費」
構成人数	「51～75 人」
委員の役職	「地域の小・中学校の PTA 役員」、「町会、自治会代表」、「児童委員（民生委員）」
協働・連携団体	「小学校」、「PTA」、「中学校」、「町会・自治会」
主な活動内容	主催では「スポーツ」、「見守りパトロール」、協力では「地域のまつり」
現状の課題	「新しい担い手が集まらずメンバーが固定化」、「委員の高齢化」、「役員の固定化」、「平日に活動できる人が少ない」。人的な面以外の喫緊の課題は、「イベント等が固定化」、「予算が少ない」、「備品を活動場所等に運搬するのが大変」。

【調査結果から見た委員会と活動内容の関連性】

「委員の高齢化」と「委員の役職『地域の小・中学校の PTA 役員』、『町会、自治会代表』、『児童委員（民生委員）』」の組み合わせ、及び「協働・連携団体」の特徴から、自ずと活動内容や活動対象者が枠づけられていることが見られます。主なものとしては、自然を通じた体験、スポーツ、歴史・文化・教養、食・環境等のイベントが挙げられます。これらは、核家族化あるいはシングル化が進む社会の中で、「高齢者と若者」という多世代交流をもたらしています。他方、活動に多様性をもたらせる場合、委員の多様性が必要となってきます。

【ダイバーシティ(高齢者、外国人、障がい者、大学生など)について】

高齢者については、委員の出身役職が「地域の小・中学校の PTA 役員」、「町会、自治会代表」、「児童委員（民生委員）」であるため、高齢者へのアプローチが行き届きやすい環境が推測されます。他方、外国人や障がい者の参加は少ないことが見出されています。外国人や障がい者に対応する意識が委員会にあることがわかっているため、委員会の委員に彼らへの取り組みに精通した方を入れていくことで、活動についてのアドバイスや無理のない形でのイベント開催につながるものと推測されます。

また、大学・専門学校及びその学生の参加が少ないことも見出されました。この点においても、地区委員会に学生との窓口あるいは地区委員会と学生の接点があるとは積極的にはいえなことから、ここでも、委員の多様性が必要となっていることがうかがえます。

【見出されるポイント：委員の多様性と新たな支援の形】

上記のことから、「委員の多様性」がひとつのポイントになっていることがわかります。そのため、これまでどおり、「補助金」などによる地区委員会への貢献も大事ですが、それだけでなく、地区委員会が催すイベントに必要となる「アドバイザーあるいは人材補助・派遣」という形での支援が、今後の地区委員会の活動の活性化には求められているのではないのでしょうか。そのための「人材バンク」あるいは「人材情報ストック」の必要性について検討していくことが求められます。

第 4 章 事例集

問 16 で回答いただいた活動内容について、今後、委員会活動をさらに活性化するための課題に関して参考になるような取組を抽出しました。

<抽出方法>

○ 調査票 問 16 から、下記の視点で 20 事例を抽出

- ① 様々な人や団体の協力がある等、新しい担い手についての課題に関して参考になる取組
- ② 様々な参加者がいて、参加者同士の交流が図られている等、イベントへの参加者という課題に関して参考になる取組
- ③ 目新しい要素が含まれている等、新たな取組を行う上で参考になる取組

○ 調査票 問 1 の調査の回答者へ電話またはメールにて、ヒアリングを実施

<事例の見方>

① 様々な人や団体の協力がある等、新しい担い手についての課題に関して参考になる取組

No.1 渋谷区

☆参考 point! ☆
各事例の具体的な抽出の理由、参考となる点

☆参考 point! ☆
○ 様々な団体や中学生や大学生のボランティアの協力を得ながら実施している。..
→ 子供達は多様な人との交流と、子供達同士の共同作業により協調性、社会性を身につける。..

1 委員会の概要
【活動区域】：新橋地域（渋谷区南東部）..
【構成人数】：26～50 人..
【予算規模】：101～125 万円..
2 取組の概要
【実施時期】：8 月..
【準備期間】：4～6 か月..
【実施場所】：渋谷区立峰の原青少..
【スタッフ】：委員 6 人、中、高..
【参加者数】：大人 10 人程度、3..
【内 容】：オリエンテーリング、..
【予 算】：51～75 万円..
3 目的と効果
【目 的】..
・小学生が自主的に考え行動する力を醸成さ..
・異なる小中学校の生徒同士での交流、中..
4 工夫している点
5 今後の抱負・課題

1 委員会の概要
【活動区域】問 1 回答 より
【構成人数】問 4 回答 の合計人数を以下の 4 分類に整理
・ 1～25 人 ・ 26～50 人
・ 51～75 人 ・ 76 人以上
【予算規模】問 2 回答 を以下の 9 分類に整理
・ 25 万円以下 ・ 26～50 万円 ・ 51～75 万円
・ 76～100 万円 ・ 101～125 万円 ・ 126～150 万円
・ 151～175 万円 ・ 176～200 万円 ・ 201～300 万円
2 取組の概要
【予 算】問 16 回答[支出総額]
を以下の 4 分類に整理
・ 10 万円以下
・ 11～25 万円
・ 26～50 万円
・ 51～75 万円
問 16 もしくは、
ヒアリング内容
より抽出

※取組内容等は、平成 29 年度の実績についてお伺いしています。

【事 例 一 覧】

NO	区市町村	会の名称	取組の名称
①様々な人や団体の協力がある等、新しい担い手についての課題に関して参考になる取組			
1	渋谷区	青少年対策新橋地区委員会	サマーキャンプ
2	八王子市	青少年対策上柚木地区委員会	上柚木夏祭り
3	新宿区	早稲田地区青少年育成委員会	牛込二中えんにち
4	東村山市	青少年対策第七地区委員会	西武園ゆうえんち 1 日レク
5	練馬区	青少年育成第六地区委員会	七夕会
②様々な参加者がいて、参加者同士の交流が図られている等、イベントへの参加者という課題に関して参考になる取組			
6	日野市	三沢中地区青少年育成会	小中交流会
7	立川市	青少年健全育成若葉町地区委員会	青少健プール
8	武蔵野市	青少協第三地区委員会	ジャンボリー
9	東大和市	青少年対策第十地区委員会	スポーツ交流会
10	葛飾区	青少年育成柴又地区委員会	柴又地区フェスティバル
11	北区	青少年昭和町地区委員会	田植え・稲刈り体験
③目新しい要素が含まれている等、新たな取組を行う上で参考になる取組			
12	西東京市	芝久保こぶしの会	じゃが芋掘り、防災訓練
13	羽村市	青少年対策栄小地区委員会	鮭の稚魚の放流
14	台東区	青少年育成清川地区委員会	親子でクッキング
15	狛江市	青少年第四育成委員会	四育ドミノチャレンジ
16	江東区	青少年対策豊洲地区委員会	パネルディスカッション
17	世田谷区	青少年用賀地区委員会	ふれあいラリーまつり
18	足立区	青少年対策第 11 地区委員会	タウンクリーンウォーク
19	大田区	青少年対策羽田地区委員会	第 9 回大田スポGOM I 大会
20	世田谷区	青少年烏山地区委員会	中学生のつどい

No.1 渋谷区 青少年対策新橋地区委員会 「サマーキャンプ」

☆参考 point!☆

- 様々な団体や中学生や大学生のボランティアの協力を得ながら実施している。
→子供達は多様な人との交流と、子供達同士の共同作業により協調性、社会性を身につける。

1 委員会の概要

【活動区域】：新橋地域（渋谷区南東部）

【構成人数】：26～50 人

【予算規模】：101～125 万円

2 取組の概要

【実施時期】：8月

【準備期間】：4～6か月

【実施場所】：渋谷区立峰の原青少年山の家（長野県須坂市）

【スタッフ】：委員6人、中、高校生ボランティア、大学生ボランティア

【参加者数】：大人 10 人程度、子供 40 人程度

【内 容】：オリエンテーリング、ナイトハイク、キャンプファイヤー等のサマーキャンプを実施

【予 算】：51～75 万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・小学生が自主的に考え行動する力を醸成させること
- ・異なる小・中学校の生徒同士での交流、中、高校生ボランティア、大学生ボランティア等との交流

【効 果】

- ・中、高校生や大学生は、率先して手伝いを行い、ボランティア精神を養っている。
 - ・小学生から参加して中学生になったときに、今度はボランティアとして小学生の世話をしている。
- 小学生から大人まで、地域としてつながり育てている。

4 工夫している点

- ・周知用のチラシはボランティアの方の手作り。
- ・企画は委員の大人が行っているが、子供達中心のイベントであり、中、高校生、大学生ボランティアの意見を取り入れて参考にしている。大人は、安全の確保など見守りを欠かさず行うようにしている。

5 今後の抱負・課題

- ・天候に影響されやすい活動が多いので、雨のときにどのような活動を行えばよいかを模索中である。

No.2 八王子市 青少年対策上柚木地区委員会 「上柚木夏祭り」

☆参考 point!☆

- 準備段階から子供の協力が見込まれており、協働の意識が強くみられる。
→子供達は、設営、運営、撤収まで大人と一緒に作業を行い、貴重な経験の場となっている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：八王子市立上柚木中学校区（最寄駅 南大沢駅）
- 【構成人数】：51～75 人
- 【予算規模】：26～50 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：8月
- 【準備期間】：4～6か月
- 【実施場所】：八王子市立上柚木中学校校庭
- 【スタッフ】：委員 20 人、ボランティア 50 人、中学生スタッフ
- 【参加者数】：大人 2,000 人程度、子供 1,500 人程度
- 【内 容】：やぐらを組み、踊りや出店を楽しむ夏祭りを実施
- 【予 算】：26～50 万円

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・子供達が協力することの大切さを、身を持って体験
 - ・地域に住む大人が地域との接点を持つこと
- 【効 果】
 - ・子供達は模擬店の出店等に積極的に参加し、社会性を身につける貴重な機会となっている。
 - ・大人同士のふれあいの場にもなっており、その後の地域活動への協力につながっている。

4 工夫している点

- ・警備員の配置やアルコール類販売時の証明書の提示等により、安全面に配慮している。
- ・中学生が出店する模擬店の利益をユニセフへ寄附し、社会貢献意識の向上を図っている。
- ・PTA、中学校、町会・自治会、父母の会、団地協働組合、地域のお店の方々等多くの団体の協力

5 今後の抱負・課題

- ・メンバーの固定化、新規スタッフの参加という課題があるが、地域への関心を持っていただく取組として実施していきたいと考えている。

No.3 新宿区 早稲田地区青少年育成委員会 「牛込二中えんにち」

☆参考 point!☆

- 中学生実行委員が企画立案から実行まで、積極的に運営に携わっている。
→失敗の中から工夫することを学び、貴重な体験の場となっている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：榎町地区（新宿区北東部）
- 【構成人数】：51～75 人
- 【予算規模】：126～150 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：8 月（学校と相談して学校行事、部活などとかぶらないよう調整）
- 【準備期間】：1～3 か月
- 【実施場所】：新宿区立牛込第二中学校
- 【スタッフ】：委員 32 人、ボランティア 15 人、中学校生徒会実行委員 26 人
- 【参加者数】：大人子供合わせて 260 人程度
- 【内 容】：ヨーヨー釣り、ゲーム、昔遊び等の「えんにち」を実施
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・中学生が自分で考える力を育成（大人の参加者は中学生へのアドバイスや材料の調達でサポート）
 - ・普段顔を合わせない地域の方々との交流
- 【効 果】
 - ・中学生は、児童の参加者を積極的に楽しませる等小さい子との交流を通し、心を豊かにしている。
 - ・大人からも、昔の遊びができて楽しかった、子供達との交流が図れてよかったとの声がある。

4 工夫している点

- ・周知用のポスターは生徒の手作り、全ての町会の掲示板に貼付
- ・中学生の発案を尊重、中学校生徒会がほとんどの運営を担う。
- ・地区委員会、町会、中学校が協力実施

5 今後の抱負・課題

- ・周知用のポスターについて、来年度は生徒のアイデアと地区委員会のスキルを協働させてより良いものを作成したい。

No.4 東村山市 青少年対策第七地区委員会 「西武園ゆうえんち 1 日レク」

☆参考 point!☆

- 中学生ボランティアやPTA、学校の先生等が当日の運営に携わっている。
→様々な人の協力の下、安全面に配慮しつつ実施しており、子供達も楽しんでいる。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：東村山市立八坂小学校、久米川小学校、富士見小学校、東村山第七中学校区
(東村山市西部)
- 【構成人数】：76～100 人
- 【予算規模】：126～150 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：11 月
- 【準備期間】：1 か月未満
- 【実施場所】：西武園ゆうえんち
- 【スタッフ】：委員 90 人、中学生ボランティア 45 人
- 【参加者数】：大人 140 人程度、子供 310 人程度
- 【内 容】：小学生が地域の大人と中学生と共に西武園ゆうえんちを楽しむ
- 【予 算】：26～50 万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・10 人のグループを作って、小学校から西武園まで歩くとき、地域の大人とあいさつする気運を高めている。
- ・車を通る道を歩く際、ルールを守り、交通安全の意識を高めている。

【効 果】

- ・地区委員会活動の大変さを理解していただき、手伝いが増えてきている。
- ・「次回も楽しみ」という子供達の声が多数ある。

4 工夫している点

- ・PTA1 名と中学生ボランティア1 名が小学生の引率として参加したり、先生達が交差点の誘導をしたりすることで、安全面に配慮している。

5 今後の抱負・課題

- ・組織の高齢化という課題はあるが、このイベントを楽しみにしている子供達のためにも、終わらせることなく継続させていきたい。

No.5 練馬区 青少年育成第六地区委員会 「七夕会」

☆参考 point!☆

- 高校生の生徒会が中心となり、伝統的な行事の運営を行っている。
→高校生にとっても参加する子供にとっても貴重な体験、交流の機会となっている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：練馬区立旭町小学校、豊溪中学校区（最寄駅 地下鉄成増駅）
- 【構成人数】：76～100 人
- 【予算規模】：151～175 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：7 月（高校との協議により決定）
- 【準備期間】：1～3 か月
- 【実施場所】：練馬区立旭町地域集会所
- 【スタッフ】：委員 17 人、ボランティア 21 人
- 【参加者数】：子供 40 人程度
- 【内 容】：願い事や折り紙を竹に飾り付ける七夕体験とゲームによる交流
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・高校生ボランティアが小学生や中学生と協力しながらイベントを実施していく。
 - ・小学生、中学生、高校生の交流
- 【効 果】
 - ・高校生は、年下の子供を気遣い思いやる心を養っている。
 - ・小学生、中学生は高校生を敬う心を養っている。

4 工夫している点

- ・地区委員会はサポートに徹し、高校生が主体となって運営を行うように指導
- ・小学生、中学生のボランティアグループによる高校生の補助
- ・小学校でのチラシ配布や町会や集会所の掲示板による広報

5 今後の抱負・課題

- ・イベント実施後の反省会での意見等を参考に、次年度以降の実施に活かしていきたい。

No.6 日野市 三沢中地区青少年育成会 「小中交流会」

☆参考 point!☆

- 小学生と中学生の交流だけでなく、近所の幼稚園児との交流も図られている。
→普段、中々できない異世代間交流の貴重な機会となっている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：日野市立三沢中学校区（最寄駅 高幡不動駅）
- 【構成人数】：26～50 人
- 【予算規模】：51～75 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：12 月（学校が休みの土曜日を設定）
- 【準備期間】：1 か月未満
- 【実施場所】：日野市立三沢中学校
- 【スタッフ】：委員 20 人、ボランティア 60 人、子供 10 人
- 【参加者数】：子供 700 人程度
- 【内 容】：中学校生徒会による小学 6 年生への学校紹介と、カレーを食べながらの交流
- 【予 算】：26～50 万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・中学生が自分達で企画する力の醸成（地区委員会は中学生のフォロー）
- ・幼稚園児、小学生、中学生、地域の大人の交流

【効 果】

- ・中学生は、学校紹介や、カレーを食べながらの交流の際に配膳を積極的に行うことを通し、小学生や幼稚園児の模範となっている。
- ・カレー作りを担う大人も子供達の楽しそうな表情を見てやりがいを感じている。

4 工夫している点

- ・カレー作り、配膳における各セクションでの分担
- ・調理器具などの消毒の徹底、アレルギー有無の確認、カレーに入れる具材の公表

5 今後の抱負・課題

- ・厳寒期の屋外でのカレーづくりであり、協力者を募るのが大変であるが、楽しい企画であることをアピールし、継続させていきたい。

No.7 立川市 青少年健全育成若葉町地区委員会 「青少健プール」

☆参考 point!☆

- 高校のライフセービング部の方がボランティアとして小学生にプールの遊び方などを講習
→小学生と高校生の交流が図られるとともに、救護活動等について学んでいる。

1 委員会の概要

【活動区域】：立川市立立川第九中学校区（最寄駅 東大和市駅）

【構成人数】：51～75 人

【予算規模】：26～50 万円

2 取組の概要

【実施時期】：7 月

【準備期間】：1～3 か月

【実施場所】：立川市立けやき台小学校、若葉小学校

【スタッフ】：委員 12 人、ボランティア 19 人

【参加者数】：大人 10 人程度、子供 80 人程度

【内 容】：高校のライフセービング部の方が小学生にプールの遊び方や応急救護を講習

【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

【目 的】

- ・小学生が安全なプール遊びと応急救護の方法を学ぶこと
- ・小学生と高校生の交流

【効 果】

- ・小学生にとっては、高校生との交流と救護活動の見学により、貴重な経験の場となっている。
- ・高校生にとっても小学生の前でデモンストレーションを行うことは良い経験となっている。

4 工夫している点

- ・毎年開催することで、認知度を向上させている結果、年々参加者が増えている。
- ・ライフセービング部の高校生が、小学生の目の前でおぼれている人のデモンストレーションをすることで、小学生は真剣にその姿を見学することができている。

5 今後の抱負・課題

- ・青少年が健全に成長していけるよう、引き続き、地域全体で子供達が楽しめるイベントを行っていきたい。

No.8 武蔵野市 青少協第三地区委員会 「ジャンボリー」

☆参考 point!☆

- 他地域の子供、大人との積極的な交流が図られている。
→協力することの大切さを学ぶとともに、コミュニケーション能力を向上させている。

1 委員会の概要

【活動区域】：武蔵野市立第三小学校区（最寄駅 吉祥寺駅）

【構成人数】：51～75 人

【予算規模】：51～75 万円

2 取組の概要

【実施時期】：8 月（川上村の小学校とも調整）

【準備期間】：1～3 か月

【実施場所】：長野県南佐久郡川上村

【スタッフ】：委員 10 人

【参加者数】：大人 30 人程度、子供 90 人程度

【内 容】：薪割り、飯盒炊さん、キャンプファイヤー等を含む2泊3日の宿泊体験

【予 算】：11～25 万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・活動を通し、川上村の小、中学生との間で交流を図ること
- ・様々な人との交流を通し、協力の大切さを学ぶこと

【効 果】

- ・自ら行動する力、役割分担して協力する力、話し合う力を学ぶ。
- ・川上村での活動を終えた後、子供の満足感や達成感に溢れた顔を見ることができる。

4 工夫している点

- ・大人は、子供が考案したイベントを尊重しつつ、実施手順の助言等を行う。
- ・大人から子供までが積極的に関わりを持つことができるゲーム形式の活動を実施している。
- ・市の広報誌や学校でのチラシの配布により参加者を募っている。

5 今後の抱負・課題

- ・塾の夏期講習等により、参加児童が減少しているという課題があるが、30 年続けているイベントでもあり、今後も継続して実施していきたい。

No.9 東大和市 青少年対策第十地区委員会 「スポーツ交流会」

☆参考 point!☆

- 新規性のあるスポーツを取り入れ、参加者同士の交流が図られている。
→老若男女が安全に楽しく取り組めるスポーツを採用し、交流を促進している。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：東大和市立第十小学校区（最寄駅 玉川上水駅）
- 【構成人数】：51～75 人
- 【予算規模】：25 万円以下

2 取組の概要

- 【実施時期】：6 月（学校行事が少ない梅雨時期で、校庭、体育館の空いている日に実施）
- 【準備期間】：1 か月未満
- 【実施場所】：東大和市立第十小学校校庭
- 【スタッフ】：委員 18 人、ボランティア（教職員、とうちゃん会、有志含む）23 人
- 【参加者数】：大人70 人程度、子供 130 人程度
- 【内 容】：「ドッチビー大会」と、非常時用アルファ米を使っでの炊き出し体験を実施
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・小学生と地区委員の交流
 - ・非常時の炊き出し訓練
- 【効 果】
 - ・小学生は、スポーツ交流や、地域の方々と一緒に昼食をとることにより、コミュニケーション能力を養っている。
 - ・非常時用アルファ米を使っでの炊き出しにより、防災について再確認する。

4 工夫している点

- ・申込書に「個人情報とは本イベント以外には使用しない」旨を記載し、個人情報を適切に管理
- ・小学校、十ちゃん会（とうちゃんかい。学校の教師、保護者等誰でも入れる。）等の協力

5 今後の抱負・課題

- ・地域に大型マンションが多く建ち、子供も増えている。イベントの参加者も増えて運営、ボランティアの数も増やさねばと思っている。

No.10 葛飾区 青少年育成柴又地区委員会 「柴又地区フェスティバル」

☆参考 point!☆

- スポーツを通し、学校間の交流が積極的に図られている。
→小学校5校、中学校3校での交流により、子供達は社会性を身につけている。

1 委員会の概要

【活動区域】：柴又地区（葛飾区東部）

【構成人数】：76～100人

【予算規模】：201～300万円

2 取組の概要

【実施時期】：1月（学校が休みの土曜日を設定）

【準備期間】：1～3か月

【実施場所】：29年度は葛飾区立北野小学校校庭・体育館。管内小学校4校持ち回り開催

【スタッフ】：委員134人、ボランティア40人

【参加者数】：大人100人程度、子供390人程度

【内 容】：大縄跳び、キックターゲット等のスポーツと郷土カルタ予選会の実施

【予 算】：11～25万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・スポーツを通じて子供達の学校間交流を図ること
- ・大人の地区委員会活動への理解を深めること

【効 果】

- ・スポーツや、スポーツ後の餅つきや豚汁作りを通し、子供と大人との交流も図られている。
- ・子供の参加が主だが、地域の大人の参加が多く、大人同士の交流も深めることができた。

4 工夫している点

- ・担当学校区のPTAが作成したA3のポスターの掲示板への貼付、生徒へのチラシ配布
- ・小学1年生から大人まで幅広い年齢層の参加
- ・委員会、PTA、学校のつながりの強さを活かした、何校も巻きこんでのイベント

5 今後の抱負・課題

- ・様々なイベントの際に参加者に積極的に声がけすることで、地区委員会に若い人も参加し、組織の活性化が図られている。この流れは継続させていきたい。

No.11 北区 青少年昭和町地区委員会 「田植え・稲刈り体験」

☆参考 point!☆

- 食育についての一連の経験を通し、様々な人との交流が図られている。
→栃木県野木町の人々等との交流により、コミュニケーション力の向上が図られている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：昭和町地区（北区南東部）
- 【構成人数】：76～100人
- 【予算規模】：176～200万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：6、10月
- 【準備期間】：7～12か月
- 【実施場所】：川田集落センター（れんげの里）（栃木県下都賀郡野木町）
- 【スタッフ】：委員46人、ボランティア12人
- 【参加者数】：大人60人程度、子供80人程度
- 【内 容】：田植え、芋苗植え体験、稲刈り、芋ほり体験、餅つき大会を実施
- 【予 算】：51～75万円

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・食の生産から食すまでを体験
 - ・野木町の現地スタッフ、野木町の子供達との交流
- 【効 果】
 - ・泥まみれになりながらの「田植え・稲刈り体験」等は貴重な経験となっている。
 - ・様々な人々との交流により、子供達は社会性やコミュニケーション能力を向上させている。

4 工夫している点

- ・学校でのパンフレット配布や、委員会で作成したポスターの町会掲示板への貼付
- ・町会・自治会、PTA、大学、子どもセンター、高齢者安心センター、野木町の有志等、多くの団体の協力

5 今後の抱負・課題

- ・高齢者が多くなっているという課題があるが、若い参加者が増えれば、子供達の考えに近いイベントを実施したり、参加の仕方を工夫したりすることができ、マンネリ化を解消できるのではと考えている。

No.12 西東京市 芝久保こぶしの会 「じゃが芋掘り、防災訓練」

☆参考 point!☆

- 農業体験と防災訓練という、要素の異なる2つの取組を一緒に行っている。
→どちらかに興味を持つ人も気軽に両方参加でき、貴重な体験・経験の場を提供している。

1 委員会の概要

【活動区域】：芝久保地区（西東京市西部）

【構成人数】：1～25人

【予算規模】：26～50万円

2 取組の概要

【実施時期】：7月

【準備期間】：1か月未満

【実施場所】：西東京市立芝久保小学校校庭、近隣の農家

【スタッフ】：委員7人、ボランティア20人

【参加者数】：大人50人程度、子供60人程度

【内 容】：じゃが芋を掘る体験、起震車による地震体験

【予 算】：10万円以下

3 目的と効果

【目 的】

- ・子供達が、身体で体感できる経験をさせる。土に触れてじゃが芋を掘る体験、起震車に乗り、地震の怖さや身の安全を守る方法を学ぶ。
- ・学校と農園を往復30分程歩く団体行動を通じて、ルールを守ることの大切さを身に付けさせる。

【効 果】

- ・最初、子供達は、地域のお婆さんの言うことはなかなか聞いてくれないが、顔見知りになる中で、注意を聞くようになる。
- ・帰宅後も、収穫したじゃが芋を夕食に使ったり、地震の怖さについて家族で話したりしている。

4 工夫している点

- ・学校の校庭が芝生のため、家族ぐるみで参加し、仲良くお昼を食べてから帰る姿が多くなってきた。
- ・周知は学校でチラシを配るくらいしかしていないが、毎年継続する中で広まり、大人の参加が増えている。

5 今後の抱負・課題

- ・30年程続けているので、毎年、地域の皆さんが楽しみに待っている。続けていきたい。

No.13 羽村市 青少年対策栄小地区委員会 「鮭の稚魚の放流」

☆参考 point!☆

- 幼稚園児、保育園児や小学生と共に鮭の稚魚のふ化、育成と多摩川への放流を行う。
→地域の特性を生かした、生物のライフサイクルの一端に触れる学びある取組である。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：羽村市立栄小学校区（最寄駅 小作駅）
- 【構成人数】：1～25 人
- 【予算規模】：51～75 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：2月
- 【準備期間】：1～3か月
- 【実施場所】：多摩川
- 【スタッフ】：委員 15 人
- 【参加者数】：大人 30 人程度、子供 100 人程度
- 【内 容】：鮭の稚魚のふ化、育成、多摩川への放流
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・ふ化という神秘的な現象を観察することにより、生き物に対する理解を深める。
 - ・幼稚園児、保育園児、小学生、大人の交流
- 【効 果】
 - ・自然の中で、命の尊さを学ぶという貴重な経験となっている。
 - ・普段中々関わらない多世代の交流により、社会性を身につける。

4 工夫している点

- ・ボランティアによる、稚魚の育成方法、温度管理の指導
- ・鮭の稚魚の放流の後に、豚汁を全員で食べ、交流の機会を作っている。

5 今後の抱負・課題

- ・受精卵の入手方法が課題となっているが、子供にとって貴重な経験の場であるこのイベントを継続して行っていきたい。

No.14 台東区 青少年育成清川地区委員会 「親子でクッキング」

☆参考 point!☆

- 非行化防止と健全育成を目的とした「親子クッキング」という意外性のある取組である。
→協力して取り組む中で親子の絆を深め、達成感も共有できる機会となっている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：清川地区（台東区北東部）
- 【構成人数】：76～100 人
- 【予算規模】：126～150 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：2月
- 【準備期間】：4～6か月
- 【実施場所】：台東区立東浅草小学校
- 【スタッフ】：委員6人
- 【参加者数】：大人 40 人程度、子供 30 人程度
- 【内 容】：地区内の小・中学生とその保護者を対象に、親子でクッキングを実施
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

【目 的】

- ・親子で協力してケーキを完成させる経験を通して、青少年の健全育成を図る。

【効 果】

- ・ケーキ作りを通して、地域交流が生まれた。また親子の絆が深まり、青少年の健全育成につながった。
- ・子供達から「ケーキ作りが楽しかった。来年も楽しみにしているので続けてほしい。」との声が多数あり。

4 工夫している点

- ・多くの子供達が参加できるよう、学校行事の多い時期を避け、2月に実施
- ・参加者募集は、町会、地区内の小・中学校および児童館にチラシおよびポスターを配布

5 今後の抱負・課題

- ・地域で青少年の健全育成を図るため、親子一緒に地域の交流の場に参加できる機会を提供する取組として、今後も実施していく。

No.15 狛江市 青少年第四育成委員会 「四育ドミノチャレンジ」

☆参考 point!☆

- グループごとにドミノの組み立て、最終的に一つの大きなドミノを作り上げる取組である。
→参加者同士が協力して一つの大きなドミノを作り上げることで、達成感を得ることができる。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：狛江市立狛江第四中学校区（最寄駅 喜多見駅）
- 【構成人数】：26～50 人
- 【予算規模】：25 万円以下

2 取組の概要

- 【実施時期】：1 月（中学校の行事を考慮して体育館が空いている日に実施）
- 【準備期間】：1 か月未満
- 【実施場所】：狛江市立狛江第四中学校・体育館
- 【スタッフ】：委員 18 人
- 【参加者数】：大人 20 人程度、子供 60 人程度
- 【内 容】：20,000 個のドミノを参加者が協力して並べる
- 【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

【目 的】

- ・イベントを通して、地域の人々との交流を図ること
- ・集中力の醸成と達成感を得ること

【効 果】

- ・20,000 個のドミノを並べるという中々できない貴重な体験となっている。
- ・グループに分かれてドミノを並べてもらうことで、グループの中でふれあう機会ができています。

4 工夫している点

- ・当日参加も受け入れている。
- ・ドミノが途中で倒れすぎないように、仕切りを置くなどの対策をしている。
- ・20,000 個のドミノについては、1 個 1 円でドミノ協会からレンタルしている。

5 今後の抱負・課題

- ・ケーブルテレビを呼んで活動を紹介してもらう等、集客に向けた方法を検討している。

No.16

江東区 青少年対策豊洲地区委員会 「パネルディスカッション」

☆参考 point!☆

- オリンピック・パラリンピックを題材とする作文朗読やパネルディスカッションを実施
→近隣がオリンピック・パラリンピックの拠点となる地域性を活かした取組である。

1 委員会の概要

【活動区域】：豊洲特別出張所管轄区域（江東区湾岸部）

【構成人数】：51～75 人

【予算規模】：151～175 万円

2 取組の概要

【実施時期】：11 月（学校行事を考慮した上で、会場が空いている日を選択）

【準備期間】：1～3か月

【実施場所】：豊洲シビックセンター サブ・レクホール

【スタッフ】：委員 14 人

【参加者数】：大人 40 人程度、子供 20 人程度

【内 容】：小学生の作文朗読と中学生によるパネルディスカッション

【予 算】：10 万円以下

3 目的と効果

【目 的】

- ・オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成
- ・人前での発表による自信獲得

【効 果】

- ・様々な人の意見を聞くことで、他者の考えの理解につながっている。
- ・大人からも、「小・中学生がしっかりと意見を持っていて感心した」との声があった。

4 工夫している点

- ・生活指導主任のコーディネートのもとパネルディスカッションを実施し、活発な意見交換を促進
- ・広報については、小・中学校でのチラシ配布や、町会・自治会での配布・掲示
- ・小学校、中学校、町会・自治会の協力

5 今後の抱負・課題

- ・参加者を増やす工夫をしながら、実施していきたいと考えている。

No.17 世田谷区 青少年用賀地区委員会 「ふれあいラリーまつり」

☆参考 point!☆

- 単なる地域めぐりではなく、地域の歴史を学ぶことができる要素を加えている。
→自分達の住む地域をさらによく知り、まちを愛する気持ちを育てることができる。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：用賀まちづくりセンター管轄区域（世田谷区中央部）
- 【構成人数】：51～75 人
- 【予算規模】：76～100 万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：9月
- 【準備期間】：4～6か月
- 【実施場所】：世田谷区立桜町小学校（29 年度。管轄区域の小学校で持ち回り実施）
- 【スタッフ】：委員 30 人、ボランティア 100 人
- 【参加者数】：大人 300 人、子供 300 人程度
- 【内 容】：石標めぐりを取り入れたラリーと、まつりの実施
- 【予 算】：26～50 万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・普段の生活では見落としがちな由緒ある石標をめぐり、地域の歴史に触れ、地域への思いを深める。
- ・ラリーを通じて、親子の心の交流を促す機会を提供する。
- ・地域の様々な団体が協力して実施する中で、大人も子供もふれあい、顔見知りになる。

【効 果】

- ・毎年開催しているが、多くの地域の方が参加し、好評を得ている。
- ・自分の住んでいる街のことを再認識することができる。

4 工夫している点

- ・小・中学校、PTA、おやじの会をはじめ、児童館、町会・自治会、商店街、社会福祉協議会、地域のサークルなど地域の様々な団体に、ボランティアとして、模擬店、ゲーム、ステージイベントに協力・参加していただいている。

5 今後の抱負・課題

- ・運営において、さらに多くの地区委員に参加してもらえるよう働きかけていく。

No.18 足立区 青少年対策第11地区委員会 「タウンクリーンウォーク」

☆参考 point!☆

- 地域が学校と連携して街をきれいにしようという工夫のある取組である。
→ゲーム要素を盛り込みながら、楽しく美化意識の向上につなげている。

1 委員会の概要

- 【活動区域】：足立区島根、梅島、梅田、中央本町、六月地域（足立区中央部）
- 【構成人数】：51～75人
- 【予算規模】：151～175万円

2 取組の概要

- 【実施時期】：11月
- 【準備期間】：1～3か月
- 【実施場所】：梅島ベルモント公園を拠点とした地区委員会の活動区域内
- 【スタッフ】：委員50人
- 【参加者数】：大人50人程度、子供100人程度
- 【内 容】：地域のごみ拾いとゲーム体験
- 【予 算】：11～25万円

3 目的と効果

- 【目 的】
 - ・美化意識の向上
 - ・異世代間の交流
- 【効 果】
 - ・子供達は、ごみ拾いを通し、地域がきれいになることに喜びを感じた。
 - ・大人達は、美化意識の向上とともに、地域活動への意識も高まった。

4 工夫している点

- ・ごみ拾いをしながらいくつかの学校でゲームを行い、楽しみながら取組を実施している。
- ・屋外を歩いて行う内容なので、安全確保に力を入れた。
- ・町会・自治会の掲示板・回覧板や小・中学校でのチラシ配布によって開催を周知している。

5 今後の抱負・課題

- ・地域の方がこの事業の取組内容に賛同し、今後も毎年たくさんの参加者が集まるように、内容を工夫していきたい。

No.19 大田区 青少年対策羽田地区委員会 「第9回大田スポGOMI大会」

☆参考 point!☆

- 様々な団体と協働して実施する、制限時間内に拾ったごみの質と量で競う大会
→ごみ拾いという環境美化活動をスポーツ感覚で楽しむというアイデアがある。

1 委員会の概要

【活動区域】：羽田出張所管轄区域（大田区南部）

【構成人数】：51～75人

【予算規模】：101～125万円

2 取組の概要

【実施時期】：2月

【準備期間】：4～6か月

【実施場所】：大田区立羽田小学校

【スタッフ】：委員33人、ボランティア33人、子供47人

【参加者数】：大人370人程度、子供70人程度

【内 容】：制限時間内に拾ったごみの質と量で競う大会

【予 算】：11～25万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・環境に対する意識の向上
- ・異世代間交流と顔の見えるコミュニケーションづくり

【効 果】

- ・環境奉仕活動を「楽しいもの」と思うことにつながっている。
- ・大会を通して、約150kgのごみが集まった。

4 工夫している点

- ・企業やNPO法人の実行委員会への参画、高校生の審判ボランティア等、様々な主体の協力
- ・ごみの計量時に地域で活動している団体によるデモンストレーションの実施
- ・学校等だけでなく、企業や障がい者施設等へもチラシを配布

5 今後の抱負・課題

- ・様々な団体と協働して行うイベントであり、運営側の情報共有を密にし、スムーズに実施できるように心がけたい。

No.20 世田谷区 青少年烏山地区委員会 「中学生のつどい」

☆参考 point!☆

- 2部構成のイベントで、1部は主張大会、2部は合唱と吹奏楽の演奏となっている。
→異なる要素の取組を組み合わせるというイベント内容に工夫がある。

1 委員会の概要

【活動区域】：烏山まちづくりセンター管轄区域（世田谷区北西部）

【構成人数】：76～100人

【予算規模】：151～175万円

2 取組の概要

【実施時期】：2月

【準備期間】：4～6か月

【実施場所】：世田谷区立烏山区民会館ホール

【スタッフ】：委員60人、中学生10人

【参加者数】：子供150人程度

【内 容】：2部構成で、1部は主張大会、2部は合唱と吹奏楽の演奏

【予 算】：11～25万円

3 目的と効果

【目 的】

- ・社会経済環境が目まぐるしく変化する中で、現在の中学生在が物事をどのように捉え、どのように感じているかを知ること
- ・学校や家庭ではなく、地域社会全体で多感な青少年を支えていくこと
- ・中学生が、自立心と社会性を備え、地域や社会で活躍できる健全な大人に成長していくこと

【効 果】

- ・他の中学生の発表を聞くことで、様々な考えを吸収し、視野を広げることにつながっている。
- ・司会などのスタッフに中学生が加わり事業を運営することで、発表者とは異なる意味の達成感や参加意識の向上などに繋がっている。

4 工夫している点

- ・当日の司会、プログラム・ポスター用のイラストの作成、商店街でのイベント実施の呼びかけ放送を中学生が行っている。
- ・このイベントで上位入賞した生徒の作品を、「中学生の主張東京都大会」に応募している。

5 今後の抱負・課題

- ・学校に様々な依頼をすることになるが、学校側の都合も考慮し、あまり負担をかけないように実施していきたい。

第 5 章 参考資料

地区委員会活動の事例調査 調査票

貴委員会の活動状況をおうかがいいたします。活動内容を決めたり、参加者を取りまとめたりするなど、中心的に活動をされている方がご回答ください。

地区委員会の概要についておうかがいします。

問 1 貴委員会の所在地と名称、この調査にご回答いただく方のお名前と連絡先を（ ）の中に記入してお答えください。

会の所在地	() 区・市・町・村	
主な活動地域	() 小学校区・中学校区・商店会・出張所・その他	
会の名称	()	
回答者の氏名・役職	(氏名：) (役職：)	
回答者の連絡先	住所	()
	電話番号	()

※本調査は、青少年健全育成にかかる地区委員会の活動状況を調査させていただき、参考となる事例を広く共有する為に行うものです。調査票の回答にあたり、ご記入いただきました個人情報については、東京都の青少年施策に関してのみ使用し、他の目的には使用いたしません。また、記入いただいた個人情報について、報告書には掲載いたしません。

問 2 貴委員会の平成 29 年度予算について、（ ）の中に記入してお答えください。

()	万円
-----	----

問 3 貴委員会の主な収入は、どのようなものですか。収入の種類ごとに平成 29 年度予算に占めるおおよその割合を（ ）の中に記入してお答えください。

内容	おおよその割合
1 会費・参加費	() %程度
2 区市町村などからの補助金・公費・委託費	() %程度
3 物品等売上	() %程度
4 寄附、協賛金など、その他	() %程度

問 4 貴委員会の平成 29 年 4 月 1 日現在における構成人数を、（ ）の中に記入してお答えください。

役職など	人数	
	区市町村などからの委嘱を受けた方	委嘱のない方
役員・理事など	() 名	() 名
その他委員	() 名	() 名

問 5 貴委員会の委員が現在、兼務されている地域における役割が以下の中にございましたらお答えください（該当するものすべてに○をつけてください）。

A 規定や慣例により、自動的に委員となった方（いわゆるあて職の方）

- 1 地域の小・中学校の PTA 役員 ・ 2 地域の小・中学校の教職員 ・ 3 児童委員（民生委員） ・
4 保護司 ・ 5 スポーツ推進委員 ・ 6 青少年委員 ・ 7 町会、自治会代表
8 子ども会代表 ・ 9 商店街や商店会代表

B A 以外の方

- 1 地域の小・中学校の PTA 役員 ・ 2 地域の小・中学校の教職員 ・ 3 児童委員（民生委員） ・
4 保護司 ・ 5 スポーツ推進委員 ・ 6 青少年委員 ・ 7 町会、自治会代表
8 子ども会代表 ・ 9 商店街や商店会代表

問 6 貴委員会の委員が、委員になる前に経験された地域における役割は、どのようなものが多いですか。問 5 の表から多いものを 3 つ選び、以下の口に番号をご記入いただくとともに、状況をお答えください。

（例：PTA 役員の経験者がほとんどであるような場合、1 位の番号欄に「1」を記入し、状況欄に「ほとんどの方が PTA 役員経験者である」と記入）

内容	番号	状況
1 位		
2 位		
3 位		

問 7 平成 29 年度に実施した総会の回数を（ ）の中に記入してお答えください。

（ ） 回

地域での活動についておうかがいします。

問 8 平成 29 年度に貴委員会が実施された活動について、実施主体および今後の方向性をお答えください（貴委員会が主催したものならば「主催」欄に○。他団体の主催事業に協力した場合は「協力」欄に○）。なお、隔年や数年に一度程度の頻度で実施しているものについては、「継続実施」としてください。

活動内容	実施主体		今後の方向性		
	主催	協力	継続実施	単年度実施	廃止
記入例	○			○	
I 地域の交流を主な目的とした事業					
(イベント開催)					
1 地域のまつり					
2 区市町村民まつりへの参加（ブース出店など）					
3 フリーマーケット					
(子供の居場所づくり)					
4 こども食堂					
5 遊び場運営（プレーパークなど）					
II 普及啓発などを主な目的とした事業					
(啓発活動)					
6 あいさつ運動					
7 ジュニアリーダー育成					
8 コンクール（標語・ポスター・スピーチなど）					
(防犯・防災)					
9 防災訓練					
10 見守りパトロール					
11 地域安全マップ作成					
(セーフティー教室)					
12 非行／犯罪被害防止					
13 ネットの適正利用					
14 交通安全					
15 自転車安全利用					
(相談・支援)					

活動内容	実施主体		今後の方向性		
	主催	協力	継続実施	単年度実施	廃止
記入例	○			○	
16 学習支援					
17 保護者などに対する子育て相談窓口					
Ⅲ 青少年に体験・経験の場を提供する事業					
(自然体験)					
18 宿泊キャンプ					
19 農作業					
20 野外遊び					
(スポーツ・文化活動体験)					
21 スポーツ					
22 音楽(歌、楽器など)					
23 芸術(演劇、絵、工作など)					
24 科学実験					
25 社会科(施設)見学					
26 料理					
27 読み聞かせ					
(異文化体験)					
28 伝統文化					
29 海外文化(外国語、料理など)					
(社会参加体験)					
30 就業(店員など)体験					
31 社会奉仕活動(清掃など)					
Ⅳ その他					
32 その他()					

以下の問(問15、問16、問19-1)において、「問8の活動の番号から該当するものを選択し、番号をご記入ください」とお願いするものがあります。以下の要領でご対応いただきますよう、お願い致します。

例

① 「地域のまつり」を選択する場合 → 回答欄に「1」を記入

② 「地域のまつり」と「フリーマーケット」を選択する場合 → 回答欄に「1、3」と記入

問 9 平成 29 年度に貴委員会主催の、委員を対象にした研修会の回数を（ ）の中に記入してお答えください。

() 回

問 10 平成 29 年度に行った研修会で扱ったテーマについてお答えください。

問 11 日頃、協働・連携して活動を行っている団体はありますか（該当するものすべてに○をつけてください）。

1 PTA	2 小学校	3 中学校	4 高等学校	5 大学（ゼミやサークル等を含む）
6 専門学校（ゼミやサークル等を含む）	7 町会・自治会	8 子ども会	9 商店街や商店会	
10 その他の団体（				） 11 特にない

問 12 参加者やボランティアなどを募る際などに、協働・連携などする地域のつながりやグループはありますか。有無を○で囲い、「1 ある」場合には、どのようなつながりかをお答えください。

地域のつながり	1 ある	2 ない
「1 ある」場合、どのようなものですか（例：PTA 役員経験者を中心とする父母会など）		

問 13 どのような方法で活動について周知していますか（該当するものすべてに○をつけてください）。

1 回覧板	2 掲示板	3 学校を通して	4 区市町村の広報紙	5 独自の広報誌など
6 電子メール	7 ホームページ	8 SNS	9 口コミ	10 その他（
）				

問 14 貴委員会で活動を推進するにあたり、現状で課題となっている事柄はどのようなものですか。

① 人的な面について、以下から**喫緊の課題を5つ選び**、番号に○をつけてください。

区分	番号	内容
委員会・組織	1	必要な人数を集めるのが大変
	2	新しい担い手が集まらずメンバーが固定化
	3	委員の高齢化
	4	専門知識や経験のある人が少ない
	5	平日に活動できる人が少ない
	6	土日に活動できる人が少ない
	7	役員の選出手続が大変
	8	役員の固定化
イベントなどへの参加者	9	青少年の参加が少ない
	10	青少年への募集・周知が大変
	11	ボランティア（活動協力者）の参加が少ない
	12	ボランティア（活動協力者）への募集・周知が大変
連絡・調整	13	委員間の連絡・調整が大変
	14	自治体との連絡・調整が大変
	15	学校との連絡・調整が大変
	16	町会・自治会・子供会等との連絡・調整が大変
	17	NPO 団体等他団体との連絡・調整が大変
その他	18	()

② 人的な面以外について、以下から喫緊の課題を5つ選び、番号に○をつけてください。

区分	番号	内容
予算	1	予算が少ない
	2	予算の入出金管理が大変
	3	会費（参加費）の集金が大変
企画・情報	4	イベント等が固定化
	5	新しい活動を始めたくてもやり方がわからない
	6	年度間の引継が大変
	7	個人情報の管理が大変
	8	広報物（紙媒体、ホームページ等）の作成が大変
活動場所	9	イベント等の活動に適した場所が少ない
	10	活動場所の予約等、確保の手続が大変
	11	事前準備を行う打合せ・作業場所が少ない
	12	打合せ・作業場所の予約等、確保の手続が大変
備品	13	備品確保の手続が大変
	14	保有している備品の保管が大変
	15	備品を活動場所等に運搬するのが大変
その他	16	()

③ 今後、活動を行うにあたり、助けになるものについて5つ選び、番号に○をつけてください。

区分	番号	内容
人的な面	1	小・中学生の協力
	2	高校生の協力
	3	大学生・専門学校生の協力
	4	小・中学生の保護者の協力
	5	専門知識や経験のある人の協力（アドバイスやコーディネート）
	6	企業等の協力
	7	行政の協力
人的な面以外	8	活動資金
	9	参加者の募集・周知に関するノウハウ
	10	広報物（紙媒体、ホームページ等）の作成のノウハウ
	11	他の団体・グループ等との協働や連携のノウハウ
	12	幅広い世代に無理なく地域活動に参加してもらうノウハウ
	13	外国人、高齢の方、障がいのある方に無理なく地域活動へ参加してもらうノウハウ
	14	イベント等企画・運営のノウハウ
	15	資金調達に関するノウハウ
	16	備品などの貸出
その他	17	()

問 15 今後行いたい活動について、問 8 (P.3、4) の活動の番号を () の中にすべてお書きください。
また、実施に向けた課題などがありましたら、お書きください。

状態	番号
1 具体的な 実施計画 や予定があるもの	()
実施に向けた課題など	
2 具体性はないが、 機会があれば実施 したいもの	()
実施に向けた課題など	

問 16 貴委員会が平成 29 年度に実施した活動のうち、主なもの（地域の特性をいかしたものの、参加人数や日数が多いもの）を 2 つお聞かせください。

【事例 1】

活動の種類 問 8 (P.3,4) の活動の番号から該当するもの 1 つを選び、記入してください ⇒ ⇒ ⇒					
活動の名称			実施時期	平成 () 年 () 月	
実施場所					
実施準備期間	1 ヶ月未満 ・ 1～3 ヶ月 ・ 4～6 ヶ月 ・ 7～12 ヶ月 ・ 1 年以上				
参加者数	大人 () 人		子供 () 人		
スタッフ数	委員 () 人	ボランティア () 人	子供 () 人		
協力団体	1 PTA 2 小学校 3 中学校 4 高等学校 5 大学（ゼミ、サークル等を含む） 6 専門学校（ゼミ、サークル等を含む） 7 町会・自治会 8 子ども会 9 商店街や商店会 10 その他の団体 () 11 特にない				
収入額 支出額	収入		支出（上位 3 位までご記入ください）		
	摘要	おおよその金額	摘要	おおよその金額	
	合計	円	総額	円	
	1 会費・参加費	円	順位	摘要を ご記入ください	
	2 補助金・公費・委託費	円	1 位		円
	3 寄附、協賛金など	円	2 位		円
	4 物品等売上	円	3 位		円
取組の概要	主な対象者 1 未就学児 2 小学生 3 中学生 4 高校生 5 全年代				
	活動内容：				
	目的（例：防災訓練であれば、「防災意識の向上」など）				
	子供達の目的：				
	大人の目的：				
	取組のポイント（力をいれたところなど）				
参加者の反応、 実施後の 良い影響	参加者の反応				
	実施後の良い影響（例：防災訓練であれば、「異世代間の交流が深まった」など）				
	子供達への影響：				
	大人への影響：				
今後の課題					

【事例 2】

活動の種類 問 8 (P.3,4) の活動の番号から該当するもの 1 つを選び、記入してください ⇒ ⇒ ⇒					
活動の名称			実施時期	平成 () 年 () 月	
実施場所					
実施準備期間	1 ヶ月未満 ・ 1～3 ヶ月 ・ 4～6 ヶ月 ・ 7～12 ヶ月 ・ 1 年以上				
参加者数	大人 () 人		子供 () 人		
スタッフ数	委員 () 人	ボランティア () 人	子供 () 人		
協力団体	1 PTA 2 小学校 3 中学校 4 高等学校 5 大学 (ゼミ、サークル等を含む) 6 専門学校 (ゼミ、サークル等を含む) 7 町会・自治会 8 子ども会 9 商店街や商店会 10 その他の団体 () 11 特にない				
収入額 支出額	収入		支出 (上位 3 位までご記入ください)		
	摘要	おおよその金額	摘要	おおよその金額	
	合計	円	総額	円	
	1 会費・参加費	円	順位	摘要を ご記入ください	
	2 補助金・公費・委託費	円	1 位		円
	3 寄附、協賛金など	円	2 位		円
	4 物品等売上	円	3 位		円
取組の概要	主な対象者 1 未就学児 2 小学生 3 中学生 4 高校生 5 全年代				
	活動内容：				
	目的 (例：防災訓練であれば、「防災意識の向上」など)				
	子供達の目的：				
	大人の目的：				
参加者の反応、 実施後の 良い影響	参加者の反応				
	実施後の良い影響 (例：防災訓練であれば、「異世代間の交流が深まった」など)				
	子供達への影響：				
	大人への影響：				
今後の課題					

大学・専門学校及びその学生との連携・協力関係についておうかがいします。

問 17 これまでに貴委員会の活動に、大学・専門学校及びその学生（ゼミ、サークルを含む）が参加されたことがありますか。（該当するものすべてに○をつけてください。）

- | | | |
|----------------|-----------|-------------------|
| 1 大学・専門学校単位で参加 | 2 ゼミ単位で参加 | 3 学生の部活・サークル単位で参加 |
| 4 学生個人として参加 | 5 その他（ | 6 参加したことがない |

問 17-1 問 17 で「1～5」に○を付した方におうかがいします。貴委員会活動への大学・専門学校又は学生の参加方法について具体的にお答えください。

① 具体的な参加の仕方

（例：市民祭りの子供とのブース運営、スポーツ大会の審判、スキー合宿の随行、など）

② 参加する中で、困ったことや課題になったこと

（例：子供に対する言葉遣い、傷害保険の加入、など）

問 18 今後、貴委員会の活動で、大学・専門学校及びその学生（ゼミ、サークルを含む）と連携・協力を希望する事業について具体的にお答えください。

① 連携・協力の希望について

希望が	1 平成 30 年度中にある	2 平成 31 年度以降にある	3 ない
「1、2 ある」の場合、どのように参加してほしいですか （例：〇〇事業の企画運営に参加、〇月〇日の〇〇祭に運営ボランティアとして参加 など）			

② 連携・協力があつた場合の課題や心配なこと

外国人、高齢の方、障がいのある方との交流についておうかがいします。

問 19 貴委員会の活動に、外国人、高齢の方、障がいのある方も参加されていますか。外国人、高齢の方、障がいのある方それぞれについて、**1 つずつ**○をしてください。

外国人	1 参加している	2 参加していない
高齢の方	1 参加している	2 参加していない
障がいのある方	1 参加している	2 参加していない

問 19-1 問 19 で「1 参加している」とお答えになった方におうかがいします。それはどのような取組ですか。問 8 (P.3,4) の活動から該当するものをすべて選び、番号を記入してください。
また、外国人などが参加しやすくなるようにするために、どのような工夫をされていますか。

【外国人】

活動の種類 問 8 (P.3,4) の活動の番号から該当するものすべてを選び、記入してください ⇒	
参加しやすくなる ような工夫	(例：外国語のできるボランティアを募集し、PR している)

【高齢の方】

活動の種類 問 8 (P.3,4) の活動の番号から該当するものすべてを選び、記入してください ⇒	
参加しやすくなる ような工夫	(例：休憩のできるベンチやイスを多く確保している)

【障がいのある方】

活動の種類 問 8 (P.3,4) の活動の番号から該当するものすべてを選び、記入してください ⇒	
参加しやすくなる ような工夫	(例：手話のできるボランティアを確保し、PR している)

問 19-2 問 19 で「2 参加していない」とお答えになった方におうかがいします。外国人、高齢の方、障がいをお持ちの方が参加されないことについて、何か理由はありますか。

(例：地区委員会の実施している活動について、周知ができていない)

問 20 以下の東京都青少年健全育成事業について、ご存知ですか。1～3 の該当するものにそれぞれ ○をつけてください。

ファミリ e ルール 講座	SNS 等の普及により「自画撮り被害」の問題など、深刻なネットトラブルが増加しています。被害や加害について、講義やグループワークを通じて学ぶことで、トラブルを回避する力を身につけます。 青少年はもちろん、保護者や教職員向けのグループワークなどニーズに応じて講座を選択することができます。
1 名称・内容とも知っている 2 名称のみ知っている 3 知らない	
こどものネット・ケータイ トラブルの相談！ こたエール	インターネットやスマートフォン等でのトラブル（ネットいじめ、架空請求、出会い系サイトなど）で困っている青少年のための相談窓口です。相談は、電話とメールで受け付けています。 また、青少年のほか、保護者や学校関係者も相談できます。
1 名称・内容とも知っている 2 名称のみ知っている 3 知らない	
東京都若者総合相談センター 若ナビα	若者の悩みを広く丁寧に受け止める相談窓口です。相談は、面談のほか、電話、メールでも受け付けています。 また必要に応じてその方にあった専門の支援機関を紹介しています。
1 名称・内容とも知っている 2 名称のみ知っている 3 知らない	

質問は以上です。お忙しい所をご協力いただき、ありがとうございました。同封の返信用封筒にて平成 30 年 6 月 30 日（土）までにご返信ください。

地区委員会活動の事例調査に関する報告書

平成 30 年 8 月発行 登録番号 (30) 20

編集・発行 東京都青少年・治安対策本部総合対策部青少年課
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 03 (5388) 3098